

## 学生の確保の見通し等を記載した書類（資料目次）

- 【資料1】 「リクルート進学総研 マーケットレポート Vol.82(2021年3月号)」・・・p. 2
- 【資料2】 「既設学部等の過去5年間（2016度～2020年度）の志願者数等の推移」・・・p. 3
- 【資料3】 「東北学院大学新学部設置に関するアンケート―地域総合学部― 高校生調査結果報告書」・・・p. 5
- 【資料4】 「東北学院大学新学部設置に関するアンケート―地域総合学部― 企業調査結果報告書」・・・p. 37
- 【資料5】 「2021年度 地域構想学科学科ガイド」・・・p. 63
- 【資料6】 「2021年度 共生社会経済学科学科ガイド」・・・p. 65
- 【資料7】 「帝国データバンク 青森県内企業の人材に関するアンケート調査（2021年11月16日）」・・・p. 75
- 【資料8】 「帝国データバンク 秋田県内企業の人材に関するアンケート調査（2021年11月29日）」・・・p. 76
- 【資料9】 「帝国データバンク 岩手県内企業の人材に関するアンケート調査（2021年12月2日）」・・・p. 77
- 【資料10】 「帝国データバンク 山形県内企業の人材に関するアンケート調査（2022年2月10日）」・・・p. 78
- 【資料11】 「帝国データバンク 宮城県内企業の人材に関するアンケート調査（2019年9月27日）」・・・p. 79
- 【資料12】 「帝国データバンク 福島県内企業の人材に関するアンケート調査（2022年2月21日）」・・・p. 80
- 【資料13】 「帝国データバンク 人材不足に対する企業の動向調査（2022年2月24日）」・・・p. 81
- 【資料14】 「総務省 令和3年地方公共団体定員管理調査結果の概要」・・・p. 82

1. 資料名

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」

2. 出典

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.82 2021年3月号

[https://souken.shingakunet.com/research/.assets/202103\\_souken\\_report.pdf](https://souken.shingakunet.com/research/.assets/202103_souken_report.pdf)

(閲覧日：2022年9月5日)

3. 引用範囲

- ・18歳人口予測（全体：全国：2020～2032年）（3頁）
- ・18歳人口予測（全体：都道府県別：2020～2032年）（5頁）
- ・18歳人口予測（全体：エリア別：2020～2032年）（6頁）
- ・大学進学率の推移（現役：エリア別：2011～2020年）（9頁）
- ・大学・短期大学・専門学校進学率（現役：都道府県別：2020年）（12頁）
- ・地元残留率の推移（全体：大学入学者数：エリア別：2011～2020年）（16頁）

入学年度	学部・学科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	辞退者数	入学者数	歩留率	定員超過率	
2020	文学部	英文学科	180	627	621	379	3	184	48.5%	1.02
		総合人文学科	50	357	353	149	8	50	33.6%	1.00
		歴史学科	170	849	841	313	10	174	55.6%	1.02
		教育学科	50	397	395	148	6	51	34.5%	1.02
		文学部 計	450	2,230	2,210	989	27	459	46.4%	1.02
	経済学部	経済学科	440	2,059	2,011	950	24	440	46.3%	1.00
		共生社会経済学科	187	425	419	317	5	200	63.1%	1.07
		経済学部 計	627	2,484	2,430	1,267	29	640	50.5%	1.02
	経営学部	経営学科	341	1,166	1,156	692	11	350	50.6%	1.03
	法学部	法律学科	358	1,494	1,462	795	26	358	45.0%	1.00
	工学部	機械知能工学科	110	535	526	308	8	113	36.7%	1.03
		電気電子工学科	110	451	445	301	14	112	37.2%	1.02
		環境建設工学科	110	443	432	277	5	113	40.8%	1.03
		情報基盤工学科	110	642	634	301	8	116	38.5%	1.05
		工学部 計	440	2,071	2,037	1,187	35	454	38.2%	1.03
	教養学部	人間科学科	110	573	565	308	9	111	36.0%	1.01
		言語文化学科	110	438	436	266	5	114	42.9%	1.04
		情報科学科	110	549	544	269	8	113	42.0%	1.03
		地域構想学科	110	499	493	230	1	113	49.1%	1.03
		教養学部 計	440	2,059	2,038	1,073	23	451	42.0%	1.03
2020年度 計		2,656	11,504	11,333	6,003	151	2,712	45.2%	1.02	
2019	文学部	英文学科	180	847	841	368	3	184	50.0%	1.02
		総合人文学科	50	471	466	149	0	54	36.2%	1.08
		歴史学科	170	835	822	345	6	170	49.3%	1.00
		教育学科	50	371	365	175	2	58	33.1%	1.16
		文学部 計	450	2,524	2,494	1,037	11	466	44.9%	1.04
	経済学部	経済学科	440	2,106	2,070	919	0	457	49.7%	1.04
		共生社会経済学科	187	802	788	303	0	194	64.0%	1.04
		経済学部 計	627	2,908	2,858	1,222	0	651	53.3%	1.04
	経営学部	経営学科	341	1,135	1,125	593	2	350	59.0%	1.03
	法学部	法律学科	358	1,597	1,567	816	6	367	45.0%	1.03
	工学部	機械知能工学科	110	603	600	278	0	112	40.3%	1.02
		電気電子工学科	110	434	427	264	2	113	42.8%	1.03
		環境建設工学科	110	457	456	280	2	115	41.1%	1.05
		情報基盤工学科	110	585	580	268	0	111	41.4%	1.01
		工学部 計	440	2,079	2,063	1,090	4	451	41.4%	1.03
	教養学部	人間科学科	110	653	648	274	2	112	40.9%	1.02
		言語文化学科	110	503	499	273	0	115	42.1%	1.05
		情報科学科	110	523	516	243	0	113	46.5%	1.03
		地域構想学科	110	524	520	232	1	115	49.6%	1.05
		教養学部 計	440	2,203	2,183	1,022	3	455	44.5%	1.03
2019年度 計		2,656	12,446	12,290	5,780	26	2,740	47.4%	1.03	
2018	文学部	英文学科	180	919	902	353	2	186	52.7%	1.03
		総合人文学科	50	224	221	151	1	62	41.1%	1.24
		歴史学科	170	744	737	364	4	189	51.9%	1.11
		教育学科	50	495	483	147	2	52	35.4%	1.04
		文学部 計	450	2,382	2,343	1,015	9	489	48.2%	1.09
	経済学部	経済学科	440	2,031	1,996	964	6	469	48.7%	1.07
		共生社会経済学科	187	597	587	315	0	194	61.6%	1.04
		経済学部 計	627	2,628	2,583	1,279	6	663	51.8%	1.06
	経営学部	経営学科	341	1,349	1,339	601	2	361	60.1%	1.06
	法学部	法律学科	358	1,441	1,422	731	3	383	52.4%	1.07
	工学部	機械知能工学科	110	487	483	322	1	119	37.0%	1.08
		電気電子工学科	110	449	444	270	2	107	39.6%	0.97
		環境建設工学科	110	393	388	251	1	113	45.0%	1.03
		情報基盤工学科	110	464	449	264	3	109	41.3%	0.99
		工学部 計	440	1,793	1,764	1,107	7	448	40.5%	1.02
	教養学部	人間科学科	110	608	602	274	3	116	42.3%	1.05
		言語文化学科	110	521	514	261	2	112	42.9%	1.02
		情報科学科	110	575	568	255	0	117	45.9%	1.06
		地域構想学科	110	517	514	219	1	120	54.8%	1.09
		教養学部 計	440	2,221	2,198	1,009	6	465	46.1%	1.06
2018年度 計		2,656	11,814	11,649	5,742	33	2,809	48.9%	1.06	

既設学部等の過去5年間（2016年度～2020年度）の志願者数等の推移

入学年度	学部・学科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	辞退者数	入学者数	歩留率	定員超過率	
2017	文学部	英文学科	230	857	843	503	3	242	48.1%	1.05
		総合人文学科	30	228	225	77	2	31	40.3%	1.03
		歴史学科	150	763	752	315	2	165	52.4%	1.10
		文学部 計	410	1,848	1,820	895	7	438	48.9%	1.07
	経済学部	経済学科	400	2,354	2,295	884	3	433	49.0%	1.08
		共生社会経済学科	170	863	850	294	1	184	62.6%	1.08
		経済学部 計	570	3,217	3,145	1,178	4	617	52.4%	1.08
	経営学部	経営学科	310	1,489	1,480	613	4	341	55.6%	1.10
	法学部	法律学科	325	1,469	1,446	762	1	364	47.8%	1.12
	工学部	機械知能工学科	110	494	487	305	1	118	38.7%	1.07
		電気電子工学科	110	457	450	278	0	116	41.7%	1.05
		環境建設工学科	110	518	514	250	1	118	47.2%	1.07
		情報基盤工学科	110	530	519	221	0	116	52.5%	1.05
		工学部 計	440	1,999	1,970	1,054	2	468	44.4%	1.06
	教養学部	人間科学科	100	650	636	269	0	115	42.8%	1.15
		言語文化学科	100	475	468	231	1	110	47.6%	1.10
		情報科学科	100	502	497	243	1	109	44.9%	1.09
		地域構想学科	100	486	482	215	0	106	49.3%	1.06
		教養学部 計	400	2,113	2,083	958	2	440	45.9%	1.10
	2017年度 計		2,455	12,135	11,944	5,460	20	2,668	48.9%	1.09
2016	文学部	英文学科	230	813	804	502	2	255	50.8%	1.11
		総合人文学科	30	306	303	78	0	33	42.3%	1.10
		歴史学科	150	741	733	308	0	169	54.9%	1.13
		文学部 計	410	1,860	1,840	888	2	457	51.5%	1.11
	経済学部	経済学科	400	2,071	2,040	985	4	451	45.8%	1.13
		共生社会経済学科	170	483	478	323	0	204	63.2%	1.20
		経済学部 計	570	2,554	2,518	1,308	4	655	50.1%	1.15
	経営学部	経営学科	310	1,228	1,216	626	0	346	55.3%	1.12
	法学部	法律学科	325	1,325	1,302	728	3	367	50.4%	1.13
	工学部	機械知能工学科	120	510	504	347	1	125	36.0%	1.04
		電気情報工学科	120	460	454	323	2	137	42.4%	1.14
		電子工学科	100	399	396	294	0	114	38.8%	1.14
		環境建設工学科	100	482	478	289	2	130	45.0%	1.30
		工学部 計	440	1,851	1,832	1,253	5	506	40.4%	1.15
	教養学部	人間科学科	100	550	543	266	0	119	44.7%	1.19
		言語文化学科	100	539	531	260	6	112	43.1%	1.12
		情報科学科	100	539	533	232	1	117	50.4%	1.17
		地域構想学科	100	487	484	197	2	112	56.9%	1.12
		教養学部 計	400	2,115	2,091	955	9	460	48.2%	1.15
	2016年度 計		2,455	10,933	10,799	5,758	23	2,791	48.5%	1.14

過去5年の平均入学志願者倍率

学部・学科	2016	2017	2018	2019	2020	平均
教養学部 地域構想学科	4.9	4.9	4.7	4.8	4.5	4.7
経済学部 共生社会経済学科	2.8	5.1	3.2	4.3	2.3	3.5

※入学志願者倍率計算方法：志願者数/定員



東北学院大学  
新学部設置に関するアンケート  
—地域総合学部—

【高校生】  
調査結果報告書

2022年3月

# 目次

調査概要	3
▶ 回答者プロフィール	5
✓ 高校設置者／高校所在エリア	6
✓ 性別／所属クラス	7
✓ 高校卒業後の希望進路（すべて）	8
✓ 高校卒業後の希望進路（第1希望）	9
✓ 進学先として興味がある分野	10
✓ 進学希望エリア	12
▶ 新学部に対する評価	13
✓ 受験意向：地域総合学部 地域コミュニティ学科	14
✓ 受験意向：地域総合学部 政策デザイン学科	15
✓ 入学意向：地域総合学部 地域コミュニティ学科	16
✓ 入学意向：地域総合学部 政策デザイン学科	17
✓ 入学意向：内部進学への希望（併設校対象設問）	18
✓ 第一希望～第三希望の学科	19
✓ 入学希望者数（入学したい・計）の算出	20
一調査票・提示資料一	21
調査票：一般高校	22
調査票：併設高校	26
提示資料	30

# 調査概要 【高校生】調査

## ▶ 調査目的

- ✓ 東北学院大学が2023年4月に設置を計画している「地域総合学部」について、受験対象となる現在の高校2年生の受験意向や入学意向を聴取し受容性を確認する。

## ▶ 調査対象

- ✓ 宮城県を中心とした東北地方の各県、および北海道、他近接県の公立・私立高等学校の2年生

## ▶ 調査方法

- ✓ 調査対象校に事前に調査協力を依頼し、承諾を得た対象校へ調査票を送付。教職員から調査対象者（高校2年生）にホームルーム等の時間に教室で調査票を配布の上、その場で回収する方法により調査実施。
  - なお、一般高校と併設高校ではそれぞれ異なる調査票を用いている。

## ▶ 調査期間

- ✓ 2021年10月19日（火）～2022年1月12日（水） ※1/12到着分までを入力・集計対象とした

## ▶ 有効回収数

- ✓ 発送校数 136校
- ✓ 回収・集計対象校数 120校（88%）、有効回答者数 19135人



## 回答者プロフィール



# 高校設置者／高校所在エリア

## ■高校設置者（全体／対象リストより）

(%)

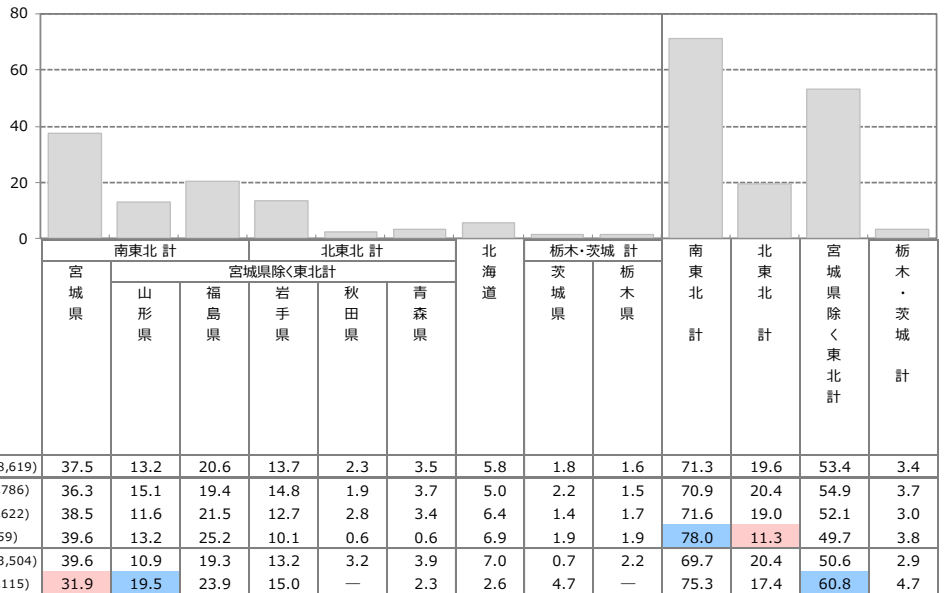
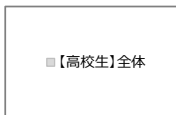
			公立	私立
【高校生】全体		(n=19,135)	71.3	28.7
性別	男子	(n=9,027)	68.6	31.4
	女子	(n=9,895)	73.8	26.2
	その他	(n=161)	74.5	25.5
高校所在 エリア別	宮城県	(n=6,974)	76.6	23.4
	宮城以外 東北 計	(n=9,936)	68.7	31.3
	山形県	(n=2,466)	59.5	40.5
	福島県	(n=3,827)	68.0	32.0
	岩手県	(n=2,556)	69.9	30.1
	秋田県	(n=437)	100.0	—
	青森県	(n=650)	81.7	18.3
	北海道	(n=1,074)	87.5	12.5
	新潟県	(n=516)	28.7	71.3
	茨城・栃木 計	(n=635)	62.0	38.0

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

高校生\_設置者

## ■高校所在エリア（全体／対象リストより）

(%)



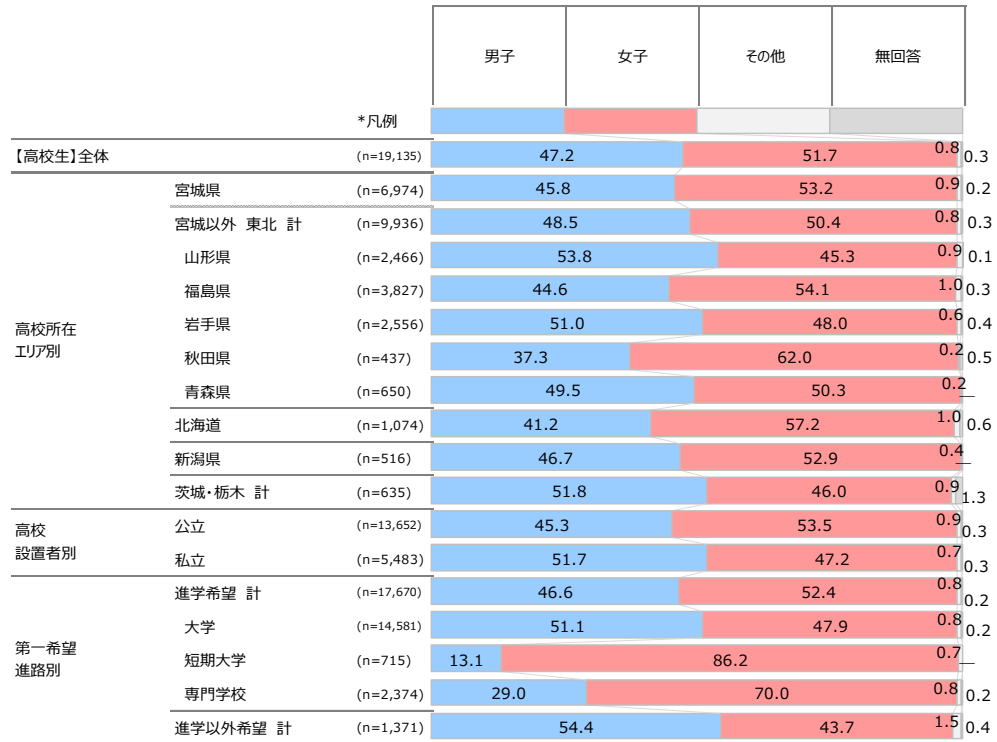
※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

高校生\_高校所在エリア

# 性別／所属クラス

## ■性別（全体／単一回答）

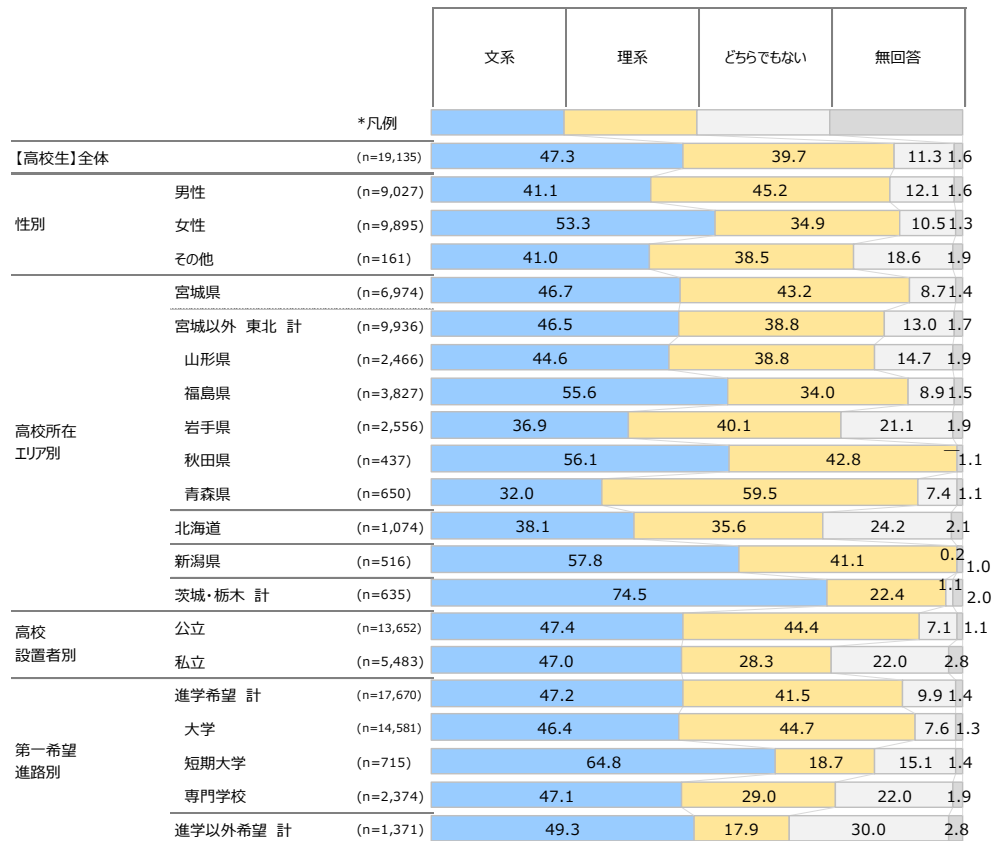
(%)



高校生\_F1

## ■所属クラス（全体／単一回答）

(%)



高校生\_F2

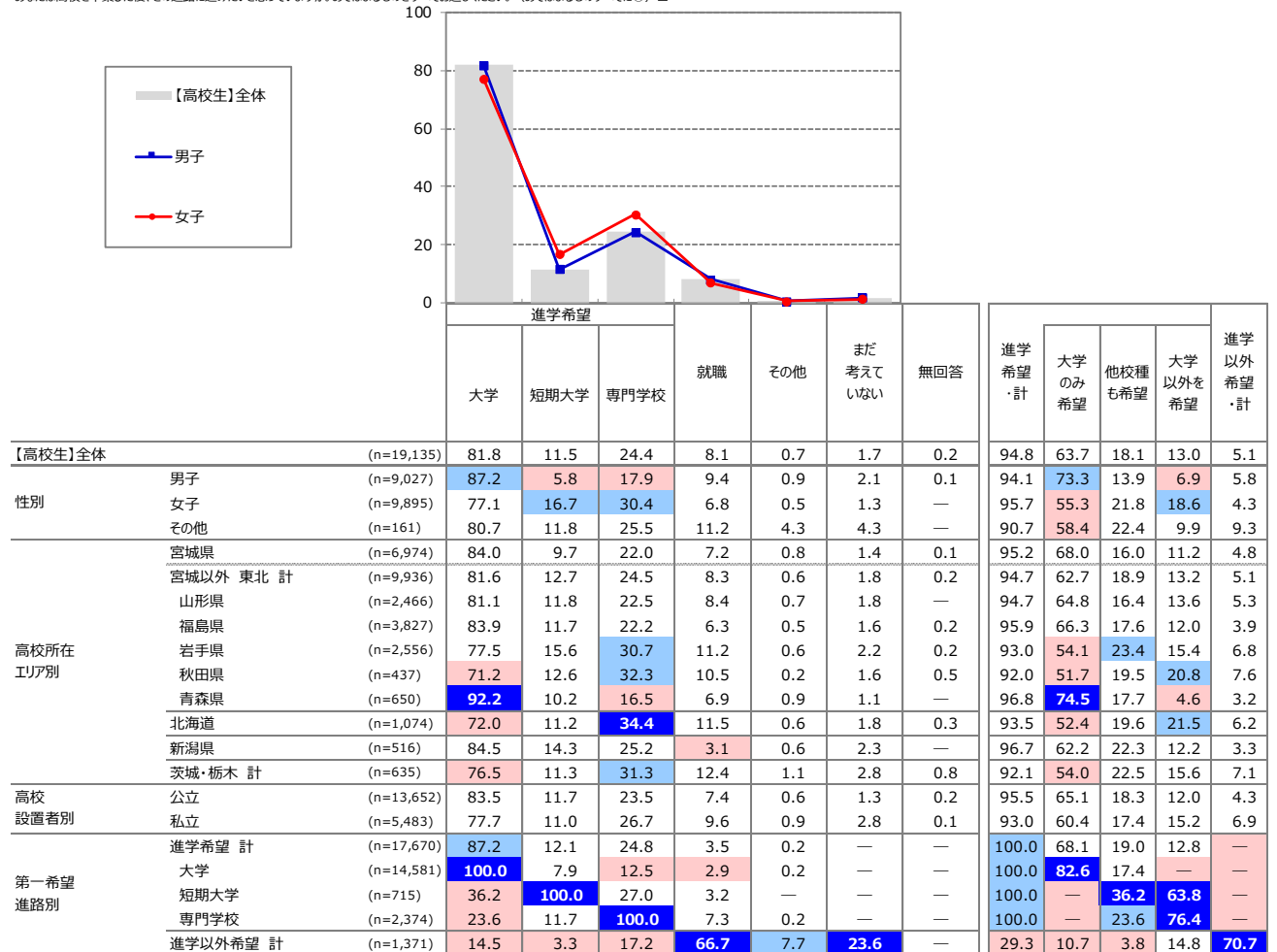
# 高校卒業後の希望進路（すべて）

- ▶ 全体の95%が、高校卒業後は「進学希望」。
- ▶ 希望する進学先は、「大学」が82%と最も高く、次いで「専門学校」(24%)。
  - ✓ 「大学のみ希望」は6割強。
- ▶ 性別にみると、男子は女子よりも「大学」希望が高く、「大学のみ」希望の割合も73%と女子15ポイント以上上回る。女子は男子に比べ、「専門学校」や「短期大学」希望の割合が高い。
- ▶ 高校所在別にみると、「大学」希望の割合が8割を超えたのは宮城、山形、福島、青森、新潟。
  - ✓ 岩手、秋田、北海道、茨城・栃木は「専門学校」希望の割合が3割を超え、他エリアに比べ高い。
- ▶ 高校設置者別にみると、「大学」希望の割合は公立84%、私立78%と公立の方がやや高い。

■ 高校卒業後の希望進路（全体／複数回答）

あなたは高校を卒業した後、どの進路に進みたいと思っていますか。あてはまるものすべてをお選びください。（あてはまるものすべてに○） □

(%)



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

# 高校卒業後の希望進路（第1希望）

- ▶ 全体の76%が「大学」進学を第一希望。
- ▶ ついで「専門学校」（12%）。

- ▶ 性別にみると、男女とも第一志望として最も高いのは「大学」。ついで「専門学校」。
  - ✓ 男子は、①大学（83%）、②就職（8%）
  - ✓ 女子は、①大学（71%）、②専門学校（17%）

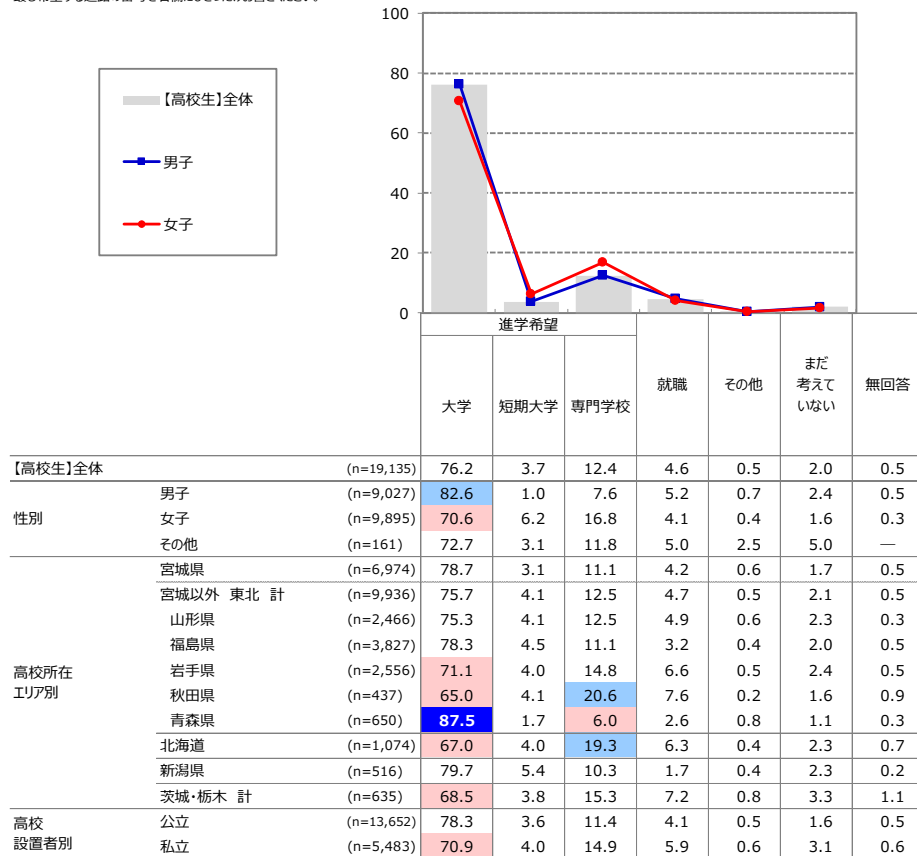
- ▶ 高校所在別にみると、「大学」第一希望の割合が他エリアに比べ高かったのは青森。反対に低かったのは秋田と新潟。

- ▶ 高校設置者別にみると、「大学」第一希望の割合は公立78%、私立71%と公立の方がやや高い。

■ 高校卒業後の第一希望進路（全体／単一回答）

最も希望する進路の番号を右欄にひとつだけお書きください。

(%)



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

高校生\_Q1SQ1

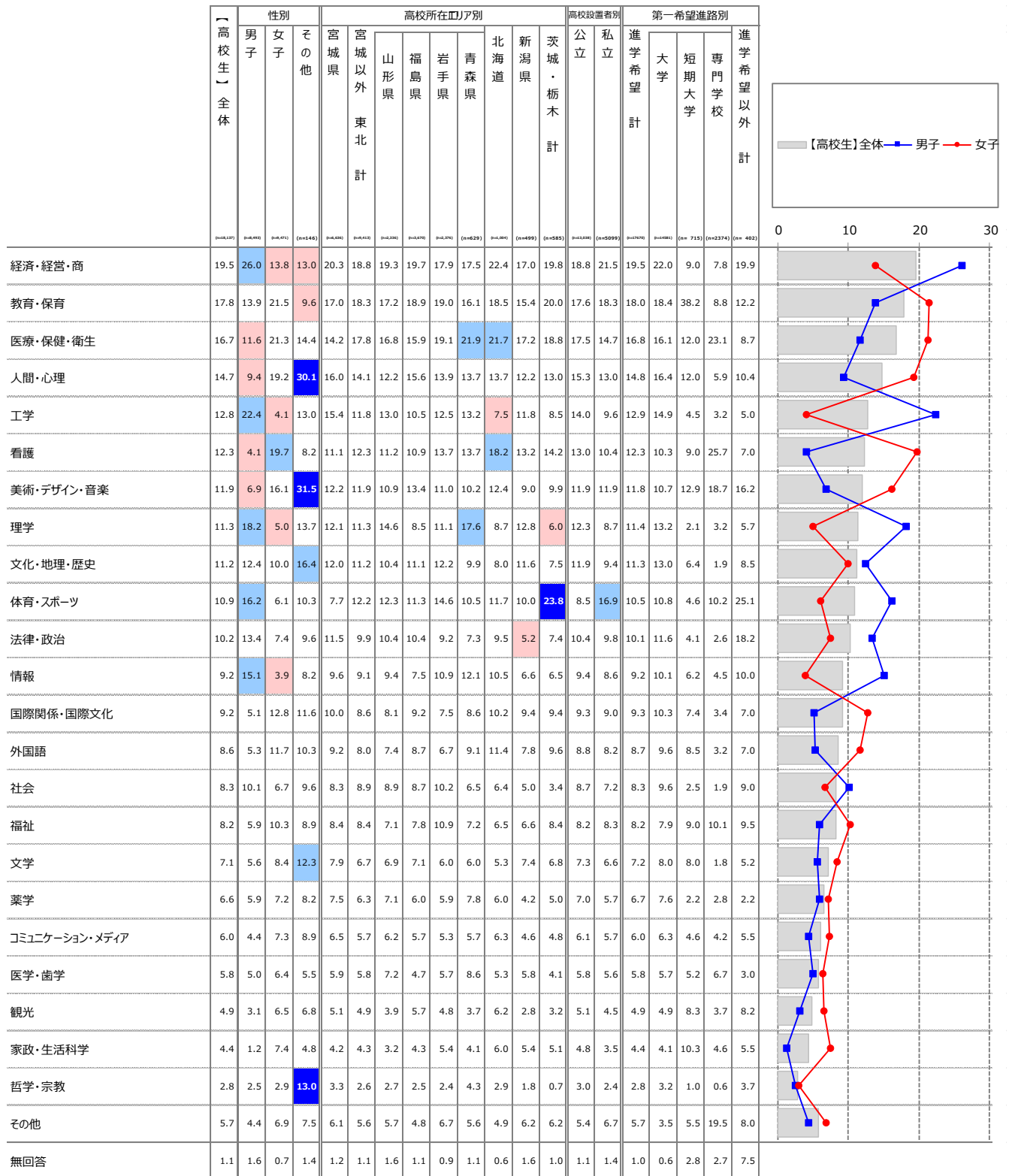
## 進学先として興味がある分野

- ▶ 進学希望者の興味分野として最も高かったのは、「経済・経営・商」(20%)。以下、②「教育・保育」(18%)、③「医療・保健・衛生」(17%)、④「人間・心理」(15%)⑤「工学」(13%)とつづく。
- ▶ 男子は、「経済・経営・商」が最多(26%)。  
✓次いで②「工学」(22%)、③「理学」(18%)、④「体育・スポーツ」(16%)③「情報」(15%)
- ▶ 女子の上位3分野は、「教育・保育」(22%)「医療・保健・衛生」(21%)「看護」(20%)。  
✓次いで④「人間・心理」(19%)、⑤「美術・デザイン・音楽」(16%)
- ▶ 大学第一希望者では、「経済・経営・商」が最多(20%)。以下、全体傾向と同様。  
✓全体でトップ項目の「経済・経営・商」は、大学希望者に比べ短期大学や専門学校希望者では低くなる。
- ▶ 今回設置の「地域総合学部」に関連する分野についてみると、全体トップの「経済・経営・商」同様に、「法律・政治」や「社会」も、大学希望者でのスコアが他校種第一希望者よりも高くなる。  
✓いずれも、女子よりも男子のスコアが高い分野。特に差が大きいのは、「経済・経営・商」。

■希望進路分野（進学希望者／複数回答）

(%)

あなたは、進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。（あてはまるものすべてに○）



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い  
 ※「全体」降順ソート

# 進学希望エリア

- ▶ 進学希望者全体の54%が「宮城県」を挙げた。
- ▶ 以下、「東京」(25%)、「山形県」(21%)、「福島県」(20%)とつづく。
  - ✓「南東北 計」は66%、「北東北 計」は23%。
  - ✓「関東」を希望する割合は進学希望者の4割。
- ▶ 高校所在エリア別にみると、宮城県では83%が自県への進学を検討していることがわかる。
  - ✓東北6県の中で、関東希望率が最も高いのは福島県。6割近くが関東を挙げ、自県希望率を上回る。

## ■進学希望エリア (進学希望者/複数回答)

(%)

あなたが進学を希望するエリアをお選びください。(あてはまるものすべてに○)

【高校生】全体	性別			高校所在エリア別											高校設置者別		第一希望進路別				
	男子	女子	その他	宮城県	宮城以外東北計	山形県	福島県	岩手県	青森県	北海道	新潟県	茨城・栃木計	公立	私立	進学希望計	大学	短期大学	専門学校	進学以外希望計		
	(n=1,117)	(n=6,402)	(n=9,471)	(n=146)	(n=6,636)	(n=5,412)	(n=2,336)	(n=3,670)	(n=2,376)	(n=629)	(n=1,004)	(n=499)	(n=585)	(n=13,034)	(n=5099)	(n=17670)	(n=14581)	(n=715)	(n=2274)	(n=400)	
宮城県	54.4	52.7	55.9	50.7	<b>83.1</b>	44.4	48.8	41.2	46.2	38.8	11.0	7.4	2.9	55.9	50.4	54.4	54.1	51.9	56.7	50.0	
山形県	20.9	22.5	19.3	26.0	23.2	22.9	<b>51.8</b>	14.6	12.0	8.9	3.5	10.0	1.4	22.3	17.2	20.9	22.8	17.9	10.4	16.7	
福島県	20.3	20.5	20.1	24.7	14.7	27.3	14.4	<b>51.9</b>	9.6	9.1	7.6	6.0	6.2	21.9	16.3	20.3	21.1	22.9	15.1	18.9	
岩手県	17.8	19.6	16.2	21.2	14.5	23.5	8.3	5.8	<b>64.6</b>	25.0	3.8	2.2	1.4	19.7	13.1	17.7	18.1	16.6	15.6	21.4	
秋田県	8.5	9.6	7.4	12.3	8.1	10.2	8.7	4.6	12.6	10.3	2.6	3.4	0.7	9.6	5.6	8.5	9.4	4.3	4.6	6.5	
青森県	8.8	10.0	7.6	8.9	6.1	11.3	6.0	3.1	18.2	<b>49.3</b>	10.5	2.0	0.7	10.1	5.4	8.8	10.0	4.1	2.8	6.7	
北海道	8.3	8.5	8.1	12.3	3.7	5.2	3.5	2.4	8.6	13.7	<b>76.0</b>	1.8	0.7	9.6	5.1	8.3	8.4	5.2	9.0	7.0	
道南	3.7	3.9	3.4	6.8	1.7	2.5	1.5	1.4	4.0	7.0	<b>31.3</b>	0.6	0.5	4.3	2.1	3.7	3.4	3.4	5.2	4.2	
道央	4.8	4.9	4.6	7.5	1.8	2.6	1.7	1.3	4.2	7.0	<b>49.3</b>	0.4	0.5	5.6	2.6	4.8	5.2	1.5	3.5	2.5	
道東	1.4	1.7	1.2	3.4	0.9	0.9	0.9	0.7	1.3	1.4	<b>11.0</b>	0.4	0.2	1.6	1.0	1.4	1.5	0.4	0.9	2.2	
道北	1.1	1.5	0.8	3.4	0.6	1.0	0.8	0.7	1.6	1.7	<b>6.7</b>	0.2	0.2	1.2	0.9	1.1	1.3	—	0.3	1.2	
関東	41.0	42.0	40.0	50.7	30.4	46.9	45.8	<b>57.9</b>	34.9	39.3	23.0	41.7	<b>96.8</b>	38.4	47.6	41.2	44.5	20.3	27.0	34.1	
栃木	6.3	6.1	6.5	7.5	3.0	7.2	4.0	12.5	4.1	3.0	1.6	1.6	<b>40.7</b>	7.0	4.5	6.3	6.9	3.5	3.7	3.5	
群馬	4.4	4.5	4.3	8.2	2.5	5.2	3.9	7.5	3.7	2.9	1.6	5.0	<b>17.9</b>	4.7	3.7	4.5	5.1	1.5	1.3	1.5	
茨城	7.8	8.6	7.0	11.0	4.3	9.2	7.2	13.7	5.9	5.1	1.9	4.0	<b>37.8</b>	8.6	5.6	7.8	8.8	3.2	3.0	7.2	
埼玉	11.9	11.3	12.3	15.8	8.0	14.0	11.6	18.8	10.4	11.6	6.3	10.2	<b>32.3</b>	11.4	13.0	12.0	13.3	6.2	5.7	8.5	
東京	25.2	26.5	24.0	30.1	20.2	28.3	29.8	32.8	22.2	25.0	16.3	23.2	<b>48.9</b>	22.3	32.8	25.4	27.2	11.9	18.2	19.9	
千葉	14.4	14.2	14.5	20.5	10.7	16.7	17.0	20.2	12.5	13.2	7.6	13.8	<b>31.5</b>	13.7	16.2	14.5	16.3	6.3	6.1	10.2	
神奈川	13.5	13.6	13.4	17.1	10.3	15.5	15.0	18.5	12.5	13.0	8.5	17.0	<b>24.8</b>	12.2	16.9	13.6	15.2	5.5	6.4	10.7	
新潟県	8.5	9.1	7.9	11.0	2.5	10.5	<b>19.6</b>	10.8	3.1	4.3	1.6	<b>71.7</b>	1.4	7.9	9.9	8.6	9.4	5.6	4.7	3.7	
その他府県	6.1	6.4	5.6	<b>16.4</b>	5.3	6.1	6.5	5.7	5.9	8.4	9.4	11.0	5.0	5.9	6.6	6.1	7.0	2.2	2.3	3.7	
無回答	0.9	1.2	0.7	0.7	0.8	1.0	1.7	1.0	0.7	0.6	1.2	0.8	0.7	0.9	1.2	0.9	0.9	0.4	0.9	2.2	
北海道	8.3	8.5	8.1	12.3	3.7	5.2	3.5	2.4	8.6	13.7	<b>76.0</b>	1.8	0.7	9.6	5.1	8.3	8.4	5.2	9.0	7.0	
南東北 計	66.0	64.7	67.3	62.3	<b>86.4</b>	63.3	72.9	69.9	50.5	42.4	15.2	15.2	8.9	67.9	61.1	66.0	65.3	<b>73.3</b>	67.8	64.9	
北東北 計	22.8	24.2	21.4	23.3	17.1	30.1	12.4	7.5	<b>69.7</b>	<b>57.6</b>	12.3	4.4	1.9	25.6	15.4	22.7	23.6	20.1	18.1	24.4	
関東 計	41.0	42.0	40.0	50.7	30.4	46.9	45.8	<b>57.9</b>	34.9	39.3	23.0	41.7	<b>96.8</b>	38.4	47.6	41.2	44.5	20.3	27.0	34.1	

※「全体」より ■ =10ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上低い



# 新学部に対する評価

-地域総合学部-



# 受験意向：地域総合学部 地域コミュニティ学科

- ▶ 「地域総合学部 地域コミュニティ学科」を、「ぜひ受験したい~受験先の一つとして検討したい」と回答した「受験候補・計」は大学進学希望者の21%。  
 ✓ 人数に換算すると、「受験候補・計」は3176人。
- ▶ 「受験候補・計」の割合は、女子(18%)よりも男子(24%)のほうが高い。
- ▶ 高校所在エリア別にみると、宮城県では24%と他層に比べ高い。ついで岩手県(21%)。  
 ✓ 15%を下回ったのは北海道と茨城・栃木。
- ▶ 高校設置者別による違いはみられない。
- ▶ 第一希望進路別にみると、大学や短期大学希望者に比べ、専門学校希望者はやや低め。  
 ✓ 大学希望者における「受験候補・計」を人数に換算すると2986人。

## ■ 受験意向：地域総合学部 地域コミュニティ学科 (大学進学希望者/単一回答)

(%)

(人)

あなたは東北学院大学の「地域総合学部 地域コミュニティ学科」をどの程度受験したいと思いますか。(ひとつに○)

	*凡例	受験候補・計					受験意向あり・計	受験候補・計	実数	
		受験意向あり・計		受験先の一つとして検討したい	受験は考えていない	無回答			受験意向あり・計	受験候補・計
		ぜひ受験したい	受験したい							
【高校生】全体	(n=15,437)	1.2	17.6	78.1	1.3	3.0	20.6	461	3,176	
性別	男子	(n=7,678)	1.5	20.0	75.0	1.5	3.5	23.5	267	1,803
	女子	(n=7,608)	0.8	15.2	81.3	1.1	2.4	17.7	183	1,343
	その他	(n=129)	4.7	9.3	80.6	1.6	8.5	17.8	11	23
高校所在 エリア別	宮城県	(n=5,639)	1.6	20.5	74.4	1.3	3.8	24.3	213	1,369
	宮城以外 東北 計	(n=8,103)	1.1	16.6	79.4	1.3	2.7	19.3	222	1,566
	山形県	(n=2,001)	1.3	15.9	80.2	1.3	2.5	18.4	50	369
	福島県	(n=3,210)	0.9	17.2	79.3	1.2	2.3	19.6	75	628
	岩手県	(n=1,982)	1.4	17.0	77.4	1.5	4.1	21.1	81	418
	秋田県	(n=311)	0.3	15.1	81.0	1.6	2.3	17.4	7	54
	青森県	(n=599)	1.0	14.7	83.3	0.5	1.5	16.2	9	97
	北海道	(n=773)	0.9	11.4	84.7	2.1	1.8	13.2	14	102
	新潟県	(n=436)	0.7	14.9	83.5	0.7	0.9	15.8	4	69
	茨城・栃木 計	(n=486)	0.4	12.8	85.0	0.6	1.6	14.4	8	70
高校 設置者別	公立	(n=11,393)	1.2	17.8	77.9	1.2	3.1	20.9	348	2,377
	私立	(n=4,044)	1.3	17.0	78.7	1.6	2.8	19.8	113	799
第一希望 進路別	進学希望 計	(n=15,185)	1.2	17.6	78.2	1.3	3.0	20.6	451	3,121
	大学	(n=14,370)	1.2	17.8	77.9	1.3	3.0	20.8	435	2,986
	短期大学	(n=258)	1.6	15.9	80.2	1.6	2.3	18.2	6	47
	専門学校	(n=557)	0.7	14.0	82.8	1.4	1.8	15.8	10	88
	進学以外希望 計	(n=196)	2.0	19.9	74.5	2.0	3.6	23.5	7	46

※「全体」より ■ =10ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上低い

# 受験意向：地域総合学部 政策デザイン学科

- ▶ 「地域総合学部 政策デザイン学科」を、「ぜひ受験したい~受験先の一つとして検討したい」と回答した「受験候補・計」は大学進学希望者の18%。  
 ✓ 人数に換算すると、「受験候補・計」は2763人。
- ▶ 「受験候補・計」の割合は、女子(16%)よりも男子(20%)のほうが高め。
- ▶ 高校所在エリア別にみると、宮城県では21%と他層に比べ高い。ついで岩手県(18%)。  
 ✓ 15%を下回ったのは、北海道、茨城・栃木、秋田、青森。
- ▶ 高校設置者別による違いはみられない。
- ▶ 第一希望進路別による違いは、あまりみられない。  
 ✓ 大学希望者における「受験候補・計」を人数に換算すると2576人

## ■ 受験意向：地域総合学部 政策デザイン学科 (大学進学希望者/単一回答)

(%)

(人)

あなたは東北学院大学の「地域総合学部 政策デザイン学科」をどの程度受験したいと思いますか。(ひとつに○)

	*凡例	受験候補・計					受験意向あり・計	受験候補・計	実数		
		受験意向あり・計		受験先の一つとして検討したい	受験は考えていない	無回答			受験意向あり・計	受験候補・計	
		ぜひ受験したい	受験したい								受験意向あり・計
【高校生】全体	(n=15,437)	0.9 1.8	15.2	81.1	1.0	2.7	17.9	418	2,763		
性別	男子	(n=7,678)	1.3 1.9	16.8	78.7	1.3	3.2	20.0	244	1,535	
	女子	(n=7,608)	0.5 1.6	13.6	83.5	0.7	2.2	15.8	164	1,201	
	その他	(n=129)	3.1 3.9	10.1	80.6	2.3	7.0	17.1	9	22	
	宮城県	(n=5,639)	1.2 2.4	18.3	77.2	1.0	3.6	21.8	201	1,231	
宮城以外 東北 計	(n=8,103)	0.9 1.5	13.8	82.8	1.0	2.4	16.2	191	1,312		
高校所在 エリア別	山形県	(n=2,001)	1.2 1.2	12.4	83.8	1.3	2.4	14.9	49	298	
	福島県	(n=3,210)	0.5 1.7	14.2	82.9	0.7	2.2	16.4	72	527	
	岩手県	(n=1,982)	1.2 1.7	15.4	80.5	1.2	2.9	18.4	58	364	
	秋田県	(n=311)	0.6 1.2	12.9	85.5	1.0	0.6	13.5	2	42	
	青森県	(n=599)	0.8 0.8	11.9	86.0	0.5	1.7	13.5	10	81	
	北海道	(n=773)	0.8 0.8	10.5	86.7	1.3	1.6	12.0	12	93	
	新潟県	(n=436)	0.2 0.9	14.2	84.2	0.5	1.1	15.4	5	67	
	茨城・栃木 計	(n=486)	0.6 1.2	10.5	87.0	0.6	1.9	12.3	9	60	
	高校 設置者別	公立	(n=11,393)	0.9 1.9	15.2	81.0	0.9	2.8	18.1	324	2,060
		私立	(n=4,044)	1.0 1.4	15.1	81.4	1.3	2.3	17.4	94	703
第一希望 進路別	進学希望 計	(n=15,185)	0.9 1.8	15.2	81.2	1.0	2.7	17.9	409	2,711	
	大学	(n=14,370)	0.9 1.8	15.2	81.1	1.0	2.7	17.9	391	2,576	
	短期大学	(n=258)	1.6 1.9	14.3	81.4	0.8	3.5	17.8	9	46	
	専門学校	(n=557)	0.7 0.9	14.4	82.9	1.1	1.6	16.0	9	89	
	進学以外希望 計	(n=196)	1.5 2.0	18.4	77.0	1.0	3.6	21.9	7	43	

※「全体」より ■ =10ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上低い

# 入学意向：地域総合学部 地域コミュニティ学科

▶ 「地域総合学部 地域コミュニティ学科」を、「ぜひ入学したい+入学したい」と回答した「入学したい・計」の割合は、当該学科を受験候補とする者の23%。

✓人数に換算すると、「入学したい・計」は733人。

▶ 「入学したい・計」の割合は、女子(22%)、男子(24%)と僅かに男子が高め。

▶ 高校所在エリア別に見ると、東北6県で「入学したい・計」が最も高いのは岩手県、ついで山形県(26%)。宮城県は23%。

▶ 地域コミュニティ学科への受験意向別に見ると、受験したい層では77%が「入学したい・計」。

✓強い受験意向を持ち、強い入学意向を示した者は353人。

■ 入学意向：地域総合学部 地域コミュニティ学科 (大学進学希望かつ当該学科受験候補者/単一回答)

(%)

(人)

あなたは東北学院大学の「地域総合学部 地域コミュニティ学科」を受験して合格した場合、どの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)

	n	入学意向あり・計					入学したい・計 (%)	入学意向あり・計 (%)	実数			
		入学したい・計		併願校の合否次第で入学したい	入学は考えていない	無回答			入学したい・計	入学意向あり・計	入学したい・計	入学意向あり・計
		ぜひ入学したい	入学したい									
*凡例												
【高校生】全体	(n=3,176)	8.3	14.7	64.7	11.8	0.4	23.1	87.8	733	2,789		
性別	男子 (n=1,803)	8.7	15.3	64.6	11.1	0.3	24.0	88.6	433	1,597		
	女子 (n=1,343)	7.7	13.8	65.2	12.7	0.4	21.6	86.8	290	1,166		
	その他 (n=23)	17.4	21.7	56.5	4.3	—	39.1	95.7	9	22		
	宮城県 (n=1,369)	8.5	14.8	66.7	9.5	0.4	23.4	90.1	320	1,233		
宮城以外 東北 計 (n=1,566)	8.3	15.2	62.8	13.3	0.4	23.5	86.3	368	1,352			
高校所在エリア別	山形県 (n=369)	9.2	16.3	62.1	12.5	—	25.5	87.5	94	323		
	福島県 (n=628)	6.7	14.2	63.4	15.4	0.3	20.9	84.2	131	529		
	岩手県 (n=418)	9.1	17.0	63.2	10.0	0.7	26.1	89.2	109	373		
	秋田県 (n=54)	14.8	7.4	59.3	18.5	—	22.2	81.5	12	44		
	青森県 (n=97)	8.2	14.4	62.9	13.4	1.0	22.7	85.6	22	83		
	北海道 (n=102)	8.8	15.7	61.8	13.7	—	24.5	86.3	25	88		
	新潟県 (n=69)	4.3	4.3	72.5	18.8	—	8.7	81.2	6	56		
	茨城・栃木 計 (n=70)	8.6	11.4	65.7	14.3	—	20.0	85.7	14	60		
	高校設置者別	公立 (n=2,377)	7.9	15.1	64.9	11.8	0.3	23.0	87.9	546	2,089	
		私立 (n=799)	9.8	13.6	64.2	11.8	0.6	23.4	87.6	187	700	
第一希望進路別	進学希望 計 (n=3,121)	8.3	14.6	64.9	11.9	0.4	22.9	87.8	715	2,740		
	大学 (n=2,986)	8.1	14.7	65.1	11.7	0.4	22.9	87.9	683	2,626		
	短期大学 (n=47)	12.8	8.5	63.8	14.9	—	21.3	85.1	10	40		
	専門学校 (n=88)	10.2	14.8	59.1	15.9	—	25.0	84.1	22	74		
	進学以外希望 計 (n=46)	13.0	21.7	54.3	8.7	2.2	34.8	89.1	16	41		
地域コミュニティ学科受験意向別	受験したい〜候補 計 (n=3,176)	8.3	14.7	64.7	11.8	0.4	23.1	87.8	733	2,789		
	受験したい 計 (n=461)		39.9	20	36.7	20.2	3.0	0.2	76.6	96.7	353	446

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

# 入学意向：地域総合学部 政策デザイン学科

- ▶ 「地域総合学部 政策デザイン学科」を、「ぜひ入学したい+入学したい」と回答した「入学したい・計」の割合は、当該学科を受験候補とする者の23%。  
 ✓人数に換算すると、「入学したい・計」は636人。
- ▶ 「入学したい・計」の割合は、女子(22%)、男子(24%)と僅かに男子が高め。
- ▶ 高校所在エリア別に見ると、東北6県で「入学したい・計」が最も高いのは山形県(26%)、ついで宮城県、青森県(24%)。
- ▶ 政策デザイン学科への受験意向別に見ると、受験したい層では81%が「入学したい・計」。  
 ✓強い受験意向を持ち、強い入学意向を示した者は338人。

## ■入学意向：地域総合学部 政策デザイン学科 (大学進学希望かつ当該学科受験候補者/単一回答)

(%)

(人)

あなたは東北学院大学の「地域総合学部 政策デザイン学科」を受験して合格した場合、どの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)

	*凡例	入学意向あり・計					入学したい・計	入学意向あり・計	実数			
		入学したい・計		併願校の合否次第で入学したい	入学は考えていない	無回答			入学したい・計	入学意向あり・計	入学したい・計	入学意向あり・計
		ぜひ入学したい	入学したい									
【高校生】全体	(n=2,763)	7.3	15.7	67.0	9.8	0.3	23.0	90.0	636	2,486		
性別	男子	(n=1,535)	8.0	16.0	67.3	8.4	0.3	24.0	91.3	368	1,401	
	女子	(n=1,201)	6.2	15.3	66.8	11.5	0.2	21.6	88.3	259	1,061	
	その他	(n=22)	13.6	22.7	59.1	4.5	—	36.4	95.5	8	21	
	宮城県	(n=1,231)	7.9	16.2	67.4	8.1	0.3	24.1	91.6	297	1,127	
高校所在 エリア別	宮城以外 東北 計	(n=1,312)	6.7	16.0	66.5	10.6	0.2	22.7	89.2	298	1,170	
	山形県	(n=298)	8.4	17.8	64.4	9.1	0.3	26.2	90.6	78	270	
	福島県	(n=527)	4.6	17.5	66.8	11.2	—	22.0	88.8	116	468	
	岩手県	(n=364)	7.7	13.5	68.7	9.9	0.3	21.2	89.8	77	327	
	秋田県	(n=42)	7.1	11.9	57.1	21.4	2.4	19.0	76.2	8	32	
	青森県	(n=81)	9.9	13.6	66.7	9.9	—	23.5	90.1	19	73	
	北海道	(n=93)	10.8	16.1	62.4	10.8	—	26.9	89.2	25	83	
	新潟県	(n=67)	5.4	14.5	74.6	19.4	—	6.0	80.6	4	54	
	茨城・栃木 計	(n=60)	8.3	11.7	66.7	13.3	—	20.0	86.7	12	52	
	高校 設置者別	公立	(n=2,060)	7.3	15.8	67.0	9.6	0.3	23.1	90.1	476	1,856
		私立	(n=703)	7.3	15.5	66.9	10.2	0.1	22.8	89.6	160	630
第一希望 進路別	進学希望 計	(n=2,711)	7.2	15.7	67.1	9.8	0.2	22.9	90.0	621	2,440	
	大学	(n=2,576)	7.1	15.8	67.4	9.5	0.2	22.9	90.3	590	2,326	
	短期大学	(n=46)	8.7	10.9	67.4	13.0	—	19.6	87.0	9	40	
	専門学校	(n=89)	10.1	14.6	58.4	16.9	—	24.7	83.1	22	74	
	進学以外希望 計	(n=43)	7.0	18.6	65.1	9.3	—	25.6	90.7	11	39	
政策デザイン 学科 受験意向別	受験したい〜候補 計	(n=2,763)	7.3	15.7	67.0	9.8	0.3	23.0	90.0	636	2,486	
	受験したい 計	(n=418)	35.9	21	45.0	17.2	1.9	80.9	98.1	338	410	

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

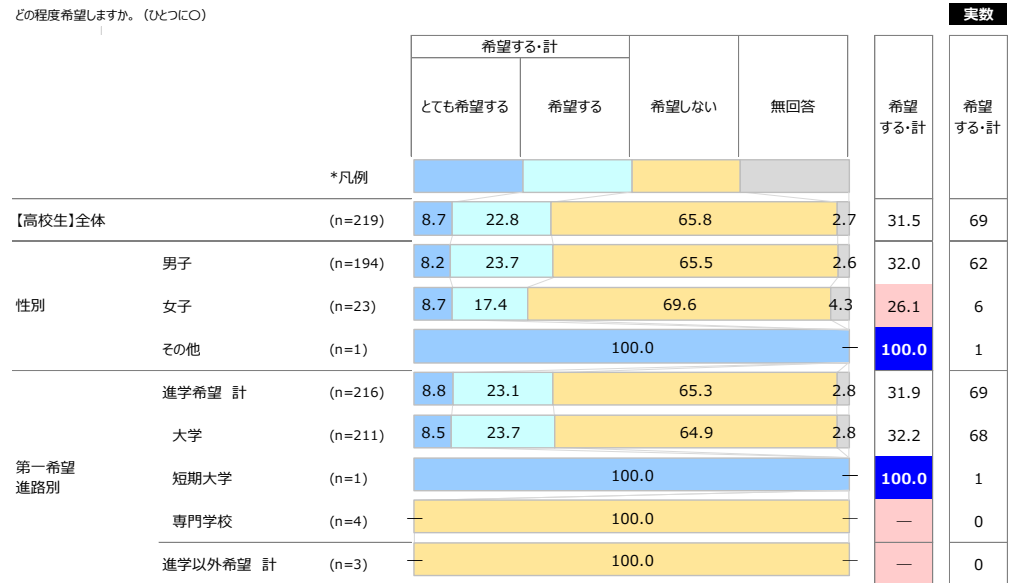
# 入学意向：内部進学への希望（併設校対象設問）

▶ 「地域総合学部 地域コミュニティ学科」への内部推薦に対し、「とても希望する+希望する」と回答した「入学希望・計」の割合は、大学進学希望者の32%。

✓人数に換算すると、「入学希望・計」は69人。

## ■入学意向：地域総合学部 地域コミュニティ学科（大学進学希望者／単一回答）

あなたは東北学院大学の「地域総合学部 地域コミュニティ学科」へのTG 推薦による進学をどの程度希望しますか。（ひとつに○）



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

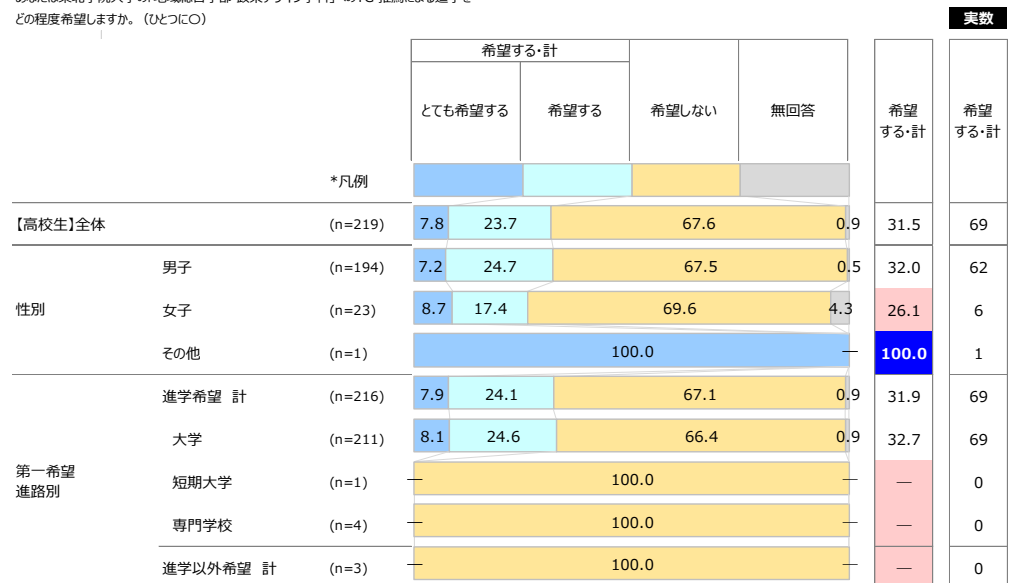
高校生\_Q7\_学内推薦

▶ 「地域総合学部 政策デザイン学科」への内部推薦に対し、「とても希望する+希望する」と回答した「入学希望・計」の割合は、大学進学希望者の32%。

✓人数に換算すると、「入学希望・計」は69人。

## ■入学意向：地域総合学部 政策デザイン学科（大学進学希望者／単一回答）

あなたは東北学院大学の「地域総合学部 政策デザイン学科」へのTG 推薦による進学をどの程度希望しますか。（ひとつに○）



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

高校生\_Q8\_学内推薦

# 第一希望～第三希望の学科

## <一般高校（1990人）>

以下の集計は、4学部5学科のいずれかが、下記2つの条件に該当する者のみとした

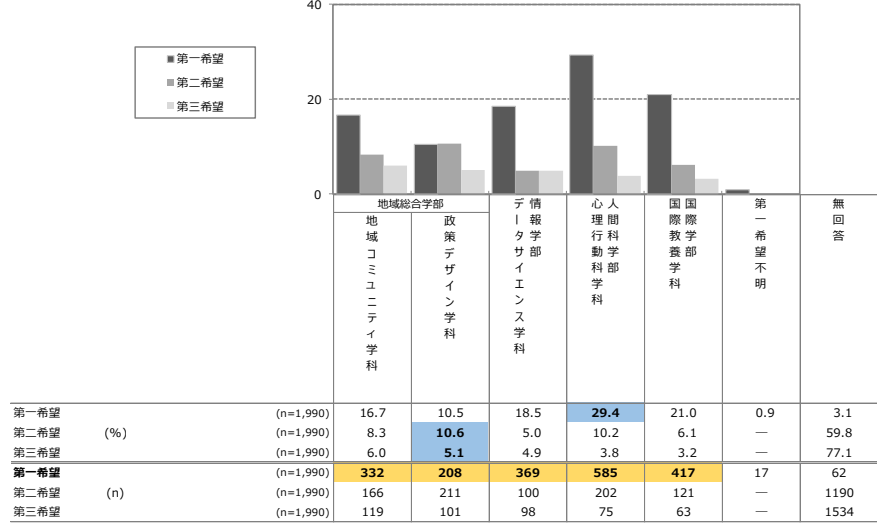
- ・受験意向＝「ぜひ受験したい～受験先の一つとして検討したい」と回答
- ・入学意向＝「ぜひ入学したい～入学したい」と回答

▶ 地域コミュニティ学科を第一希望に挙げた者は 17%（332人）

▶ 政策デザイン学科を第一希望に挙げた者は 11%（208人）

✓ 4学部5学科の中で、最も第一希望に挙げられる割合が高かったのは「人間科学部 心理行動科学部」。

■ 入学を希望する学部学科 第一～第三希望（大学進学希望、当該学科受験候補かつ入学したい・計に該当する者／各単一回答） (%)  
（受験して合格した場合）第一希望から第三希望までお書きください。



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

高校生\_Q16.1-3

## <併設高校（219人）>

併設高校では、4学部5学科以外の（2023年度に残る）既存学科も含めて内部進学時の希望学科を聴取。

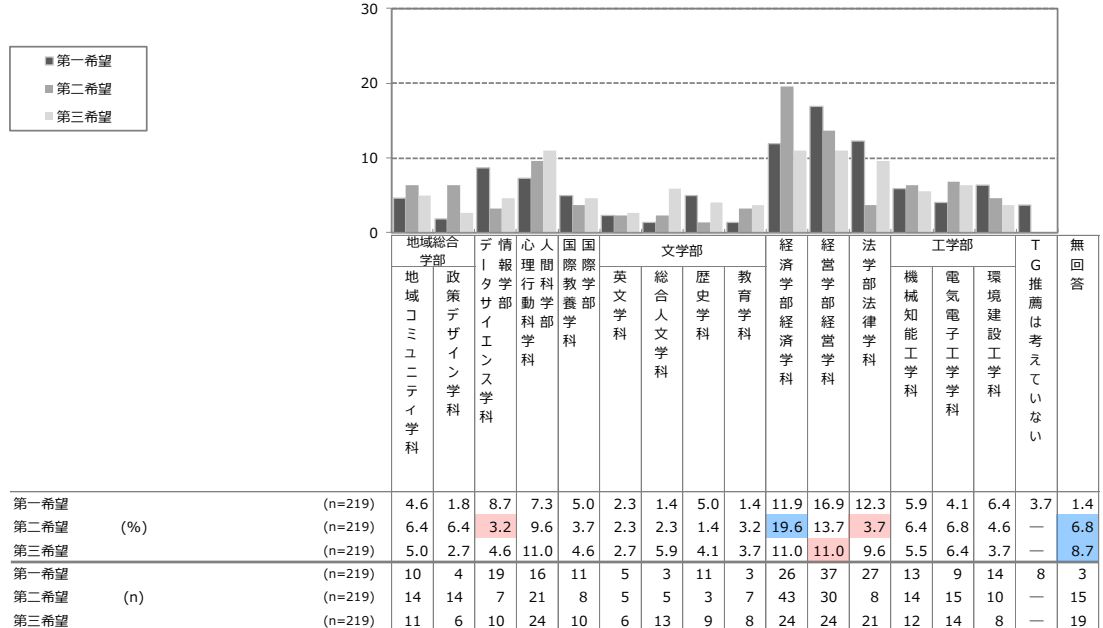
▶ 地域コミュニティ学科を第一希望に挙げた者は5%（10人）

▶ 政策デザイン学科を第一希望に挙げた者は2%（4人）

✓ 4学部5学科の中で、最も第一希望に挙げられる割合が高かったのは「情報学部 データサイエンス学科」。

■ TG推薦を希望する学部学科 第一～第三希望 マトリクス (%)

2023年に設置予定の新学期学科と既存の学部学科の中で、あなたがTG推薦による進学を希望する学部学科の番号を、第一希望から第三希望までお書きください。※TG推薦を考えていない方は、「選択肢16」に○をつけてください。



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

高校生\_Q12.1-3\_学内推薦

# 入学希望者数（入学したい・計）の算出

ここまで掲載した調査結果を用いて、入学希望者（入学したい・計）を算出する。

今回の調査回答対象全体 19135人、うち大学進学希望者 15656人

※併設高校の生徒には、「受験意向」ではなく「内部推薦による入学希望」を聴取しているため、一般高校と併設高校の入学意向の聴取の仕方は異なる。  
そのため、以下別々に算出を行い、最後に統合する。

大学進学希望者 15656人の内訳

<一般高校：15437人>

東北学院大学 地域総合学部の

①地域コミュニティ学科を受験候補とする者=3176人 →うち 入学したい・計=733人

②政策デザイン学科を受験候補とする者=2763人 →うち 入学したい・計=636人

<併設高校：219人>

東北学院大学 地域総合学部の

③地域コミュニティ学科への内部進学について → 入学希望・計=69人

④政策デザイン学科への内部進学について → 入学希望・計=69人

しかし、下記①+③、②+④はのべ人数のため重複が生じており、以下はそれぞれの最大数と考える。

①+③ 地域コミュニティ学科 =  $733+69=802$ 人

②+④ 政策デザイン学科 =  $636+69=705$ 人

↓

重複のない希望者を把握のため

今回提示した「4学部5学科」のいずれかに対し

「受験意向をクリアし、ぜひ入学したい~入学したいと回答した方（入学したい・計）」の  
“第一希望学科”として挙げられる数を最小数とする。

<一般高校：1990人>

⑤第一希望が地域コミュニティ学科 =332人

⑥第一希望が政策デザイン学科 =208人

<併設高校：219人> ※新学部以外、既存学部学科も含めた希望順を聴取

⑦第一希望が地域コミュニティ学科 =10人

⑧第一希望が政策デザイン学科 =4人

⑤+⑦ 地域コミュニティ学科 =  $332+10=342$ 人

⑥+⑧ 政策デザイン学科 =  $208+4=212$ 人

★地域コミュニティ学科の入学希望者数 = 最小342人~最大802人  
・最小でも、定員150名に対し2.3倍相当の希望者が見込めると考える

★政策デザイン学科の入学希望数 = 最小212人~最大705人  
・最小でも、定員145名に対し1.5倍相当の希望者が見込めると考える



## 調查票・提示資料



## 東北学院大学 新学部設置に関するアンケート

ご協力のお願い

東北学院大学では、2023年4月に4学部5学科の設置を計画しています。このアンケートは、2023年4月に大学入学年齢を迎える皆さんに、高校卒業後の進路についての考えをお聞きし、現在本学が計画している内容をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

本アンケートの趣旨をご理解の上、何卒ご協力をいただけますようお願いいたします。ご回答内容については統計的に処理され、個人を特定できないよう集計・分析いたします。

**※現在設置構想中であり学部学科名称は仮称のため、変更となる可能性があります。**

2021年10月  
東北学院大学

はじめに、皆さまご自身のことについてお聞きします。

**F1. 性別(いずれかに○)**

1. 男子      2. 女子      3. その他

**F2. 所属クラス(ひとつに○)**

1. 文系      2. 理系      3. どちらでもない

**F3. 在籍高校名を記入してください**

高等学校

ここからは進学についての考え方をお聞きします。

**Q1. あなたは高校を卒業した後、どの進路に進みたいと思っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。(あてはまるものすべてに○)**

1. 大学                      2. 短期大学                      3. 専門学校                      4. 就職  
5. その他(                      )                      6. まだ考えていない

**Q1SQ. Q1で選んだ番号のうち、最も希望する進路の番号を右欄にひとつだけお書きください。**

**Q2. あなたは、進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。(あてはまるものすべてに○)**

1. 文化・地理・歴史	2. 法律・政治	3. 経済・経営・商
4. 社会	5. 情報	6. 観光
7. コミュニケーション・メディア	8. 国際関係・国際文化	9. 外国語
10. 美術・デザイン・音楽	11. 文学	12. 人間・心理
13. 哲学・宗教	14. 理学	15. 工学
16. 医学・歯学	17. 薬学	18. 看護
19. 医療・保健・衛生	20. 福祉	21. 体育・スポーツ

# 調査票(A3 2つ折り形式) : 一般高校用

**Q3. あなたが進学先を選ぶ際に、どのようなことを重視しますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。**

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 伝統や実績があること           | 2. 活気がある感じがすること        |
| 3. 有名であること              | 4. 校風や雰囲気が良いこと         |
| 5. 学校が発展していく可能性があること    | 6. 学びたい学部・学科・コースがあること  |
| 7. 教育方針・カリキュラムが魅力的であること | 8. 教育内容のレベルが高いこと       |
| 9. 自分の興味や可能性が上げられること    | 10. 資格取得に有利であること       |
| 11. 就職に有利であること          | 12. 社会で役立つ力が身につくこと     |
| 13. 国際的なセンスが身につくこと      | 14. 教授・講師陣が魅力的であること    |
| 15. 先輩・卒業生が魅力的であること     | 16. 学生の学力が高いこと         |
| 17. 学生の面倒見が良いこと         | 18. 卒業後に社会で活躍できること     |
| 19. 将来の選択肢が増えること        | 20. 学習設備や環境が整っていること    |
| 21. キャンパスがきれいであること      | 22. 寮や奨学金などが充実していること   |
| 23. 学生生活が楽しめること         | 24. クラブ・サークル活動が盛んであること |
| 25. 周囲の人からの評判が良いこと      | 26. 入試方法が自分に合っていること    |
| 27. 偏差値が自分に合っていること      | 28. 教養が身につくこと          |
| 29. 専門分野を深く学べること        | 30. 規模が大きいこと           |
| 31. 自宅から通えること           | 32. 交通の便が良いこと          |
| 33. 勉強するのに良い環境であること     | 34. 学費が高くないこと          |
| 35. その他( )              |                        |

**Q3SQ1. 上記で選んだうち最も重視しているものを1つ選び、右下の回答欄に番号を記入してください。**

◆最も重視している(番号)

**Q4. あなたが進学を希望するエリアをお選びください。(あてはまるものすべてに○)**

1. 宮城県      2. 山形県      3. 福島県      4. 岩手県      5. 秋田県      6. 青森県  
7. 北海道→あてはまるものに○(道南 道央 道東 道北 )  
8. 関東 →あてはまるものに○(栃木 群馬 茨城 埼玉 東京 千葉 神奈川)  
9. 新潟県  
10. その他府県 →県名をお書きください( )

# 調査票(A3 2つ折り形式) : 一般高校用

ここからは、東北学院大学全体、および2023年4月に設置予定の「**新学部(学科)**」のことについてお聞きます。別途配布したカラー資料の内容をよくお読みいただきお答えください。

**Q5-1. 以下a-fの中で、あなたが知っている東北学院大学の特徴をお選びください。(いくつでも○)**

**Q5-2. 以下a-fの東北学院大学の特徴は、あなたにとってそれぞれどの程度魅力がありますか。それぞれ該当する番号に○をつけてください。(それぞれひとつに○)**

東北学院大学の特徴		Q5-1	Q5-2			
		知っているもの	とても魅力がある	ある程度魅力がある	あまり魅力がない	全く魅力がない
a	LIFE LIGHT LOVEをスクールモットーとし、学問や学生生活を通じた人格教育を行っていること。	a	1	2	3	4
b	創立135年を迎えた北海道・東北地区最大の私立総合大学であること。	b	1	2	3	4
c	2023年にキャンパス統合し、仙台駅徒歩約15分の土樋・五橋のアーバンキャンパスとなること。	c	1	2	3	4
d	キャンパス統合により学問分野を越えた幅広い教養と専門知識・技能が学べること。	d	1	2	3	4
e	就職希望者の就職率が94.8%(2020年度卒業生)であること。	e	1	2	3	4
f	予約型入学時給付奨学金「LIGHT UP奨学金」をはじめ奨学金が充実していること。	f	1	2	3	4

**【地域総合学部 地域コミュニティ学科】**についてお聞きます。カラー資料1頁をご覧ください。

**Q6. あなたは東北学院大学の「地域総合学部 地域コミュニティ学科」をどの程度受験したいと思いますか。(ひとつに○)**

1. ぜひ受験したい 2. 受験したい 3. 受験先の一つとして検討したい 4. 受験は考えていない

**Q7. あなたは東北学院大学の「地域総合学部 地域コミュニティ学科」を受験して合格した場合、どの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)**

1. ぜひ入学したい 2. 入学したい 3. 併願校の合否次第で入学したい 4. 入学は考えていない

**【地域総合学部 政策デザイン学科】**についてお聞きます。カラー資料2頁をご覧ください。

**Q8. あなたは東北学院大学の「地域総合学部 政策デザイン学科」をどの程度受験したいと思いますか。(ひとつに○)**

1. ぜひ受験したい 2. 受験したい 3. 受験先の一つとして検討したい 4. 受験は考えていない

**Q9. あなたは東北学院大学の「地域総合学部 政策デザイン学科」を受験して合格した場合、どの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)**

1. ぜひ入学したい 2. 入学したい 3. 併願校の合否次第で入学したい 4. 入学は考えていない

**【情報学部 データサイエンス学科】**についてお聞きます。カラー資料3頁(左)をご覧ください。

**Q10. あなたは東北学院大学の「情報学部 データサイエンス学科」をどの程度受験したいと思いますか。(ひとつに○)**

1. ぜひ受験したい 2. 受験したい 3. 受験先の一つとして検討したい 4. 受験は考えていない

**Q11. あなたは東北学院大学の「情報学部 データサイエンス学科」を受験して合格した場合、どの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)**

1. ぜひ入学したい 2. 入学したい 3. 併願校の合否次第で入学したい 4. 入学は考えていない

# 調査票(A3 2つ折り形式) : 一般高校用

**【人間科学部 心理行動科学科】**についてお聞きます。カラー資料3頁(右)をご覧ください。

Q12. あなたは東北学院大学の「人間科学部 心理行動科学科」をどの程度受験したいと思いますか。(ひとつに○)

1. ぜひ受験したい 2. 受験したい 3. 受験先の一つとして検討したい 4. 受験は考えていない

Q13. あなたは東北学院大学の「人間科学部 心理行動科学科」を受験して合格した場合、どの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)

1. ぜひ入学したい 2. 入学したい 3. 併願校の合否次第で入学したい 4. 入学は考えていない

**【国際学部 国際教養学科】**についてお聞きます。カラー資料4頁をご覧ください。

Q14. あなたは東北学院大学の「国際学部 国際教養学科」をどの程度受験したいと思いますか。(ひとつに○)

1. ぜひ受験したい 2. 受験したい 3. 受験先の一つとして検討したい 4. 受験は考えていない

Q15. あなたは東北学院大学の「国際学部 国際教養学科」を受験して合格した場合、どの程度入学したいと思いますか。(ひとつに○)

1. ぜひ入学したい 2. 入学したい 3. 併願校の合否次第で入学したい 4. 入学は考えていない

Q7・Q9・Q11・Q13・Q15で、

2つ以上の学部(学科)について「1. ぜひ入学したい」「2. 入学したい」「3. 併願校の合否次第で入学したい」に○をつけた方にお聞きます。

Q16. 複数学部(学科)に合格した場合、「第一希望」「第二希望」「第三希望」の学部(学科)の番号をお書きください。

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1. 地域総合学部 地域コミュニティ学科 | 2. 地域総合学部 政策デザイン学科 |
| 3. 情報学部 データサイエンス学科   | 4. 人間科学部 心理行動科学科   |
| 5. 国際学部 国際教養学科       |                    |

◆第一希望  ◆第二希望  ◆第三希望

SQ1. 上記のように希望する理由を教えてください。

Q17. 東北学院大学全体や新しく設置する新学部(学科)に対するご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。

質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。

## 東北学院大学 新学部設置に関するアンケート

ご協力をお願い

東北学院大学では、2023年4月に4学部5学科の設置を計画しています。このアンケートは、2023年4月に大学入学年齢を迎える皆さんに、高校卒業後の進路についての考えをお聞きし、現在本学が計画している内容をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

本アンケートの趣旨をご理解の上、何卒ご協力をいただけますようお願いいたします。ご回答内容については統計的に処理され、個人を特定できないよう集計・分析いたします。

※現在設置構想中であり学部学科名称は仮称のため、変更となる可能性があります。

2021年10月  
東北学院大学

はじめに、皆さまご自身のことについてお聞きします。

- F1. 性別(いずれかに○)**                      1. 男子                      2. 女子                      3. その他
- F2. 所属クラス(ひとつに○)**                      1. 文系                      2. 理系                      3. どちらでもない
- F3. 在籍高校名(ひとつに○)**                      1. 東北学院高等学校                      2. 東北学院榴ヶ岡高等学校

ここからは進学についての考え方をお聞きします。

**Q1. あなたは高校を卒業した後、どの進路に進みたいと思っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。(あてはまるものすべてに○)**

1. 大学                      2. 短期大学                      3. 専門学校                      4. 就職  
5. その他(                      )                      6. まだ考えていない

**Q1SQ. Q1で選んだ番号のうち、最も希望する進路の番号を右欄にひとつだけお書きください。**

**Q2. あなたは、進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。(あてはまるものすべてに○)**

- |                   |              |             |
|-------------------|--------------|-------------|
| 1. 文化・地理・歴史       | 2. 法律・政治     | 3. 経済・経営・商  |
| 4. 社会             | 5. 情報        | 6. 観光       |
| 7. コミュニケーション・メディア | 8. 国際関係・国際文化 | 9. 外国語      |
| 10. 美術・デザイン・音楽    | 11. 文学       | 12. 人間・心理   |
| 13. 哲学・宗教         | 14. 理学       | 15. 工学      |
| 16. 医学・歯学         | 17. 薬学       | 18. 看護      |
| 19. 医療・保健・衛生      | 20. 福祉       | 21. 体育・スポーツ |

# 調査票(A3 2つ折り形式) : 併設高校用

**Q3. あなたが進学先を選ぶ際に、どのようなことを重視しますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。**

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 伝統や実績があること           | 2. 活気がある感じがすること        |
| 3. 有名であること              | 4. 校風や雰囲気が良いこと         |
| 5. 学校が発展していく可能性があること    | 6. 学びたい学部・学科・コースがあること  |
| 7. 教育方針・カリキュラムが魅力的であること | 8. 教育内容のレベルが高いこと       |
| 9. 自分の興味や可能性が上げられること    | 10. 資格取得に有利であること       |
| 11. 就職に有利であること          | 12. 社会で役立つ力が身につくこと     |
| 13. 国際的なセンスが身につくこと      | 14. 教授・講師陣が魅力的であること    |
| 15. 先輩・卒業生が魅力的であること     | 16. 学生の学力が高いこと         |
| 17. 学生の面倒見が良いこと         | 18. 卒業後に社会で活躍できること     |
| 19. 将来の選択肢が増えること        | 20. 学習設備や環境が整っていること    |
| 21. キャンパスがきれいであること      | 22. 寮や奨学金などが充実していること   |
| 23. 学生生活が楽しめること         | 24. クラブ・サークル活動が盛んであること |
| 25. 周囲の人からの評判が良いこと      | 26. 入試方法が自分に合っていること    |
| 27. 偏差値が自分に合っていること      | 28. 教養が身につくこと          |
| 29. 専門分野を深く学べること        | 30. 規模が大きいこと           |
| 31. 自宅から通えること           | 32. 交通の便が良いこと          |
| 33. 勉強するのに良い環境であること     | 34. 学費が高くないこと          |
| 35. その他( )              |                        |

**Q3SQ1. 上記で選んだうち最も重視しているものを1つ選び、右下の回答欄に番号を記入してください。**

◆最も重視している(番号)

**Q4. あなたが進学を希望するエリアをお選びください。(あてはまるものすべてに○)**

1. 宮城県    2. 山形県    3. 福島県    4. 岩手県    5. 秋田県    6. 青森県  
7. 北海道→あてはまるものに○(道南 道央 道東 道北)  
8. 関東 →あてはまるものに○(栃木 群馬 茨城 埼玉 東京 千葉 神奈川)  
9. その他府県 →県名をお書きください( )

**Q5. 東北学院大学の既存の学部学科の中で、あなたが TG 推薦による進学を希望する学部学科の番号を、第一希望から第三希望までお書きください。**

※TG 推薦を考えていない方は、「選択肢 17」に○をつけてください。

## ■既存の学部学科

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1. 文学部 英文学科      | 2. 文学部 総合人文学科    |
| 3. 文学部 歴史学科      | 4. 文学部 教育学科      |
| 5. 経済学部 経済学科     | 6. 経済学部 共生社会経済学科 |
| 7. 経営学部 経営学科     | 8. 法学部 法律学科      |
| 9. 工学部 機械知能工学科   | 10. 工学部 電気電子工学科  |
| 11. 工学部 環境建設工学科  | 12. 工学部 情報基盤工学科  |
| 13. 教養学部 人間科学科   | 14. 教養学部 言語文化学科  |
| 15. 教養学部 情報科学科   | 16. 教養学部 地域構想学科  |
| 17. TG 推薦は考えていない |                  |

◆第一希望

31

◆第二希望

◆第三希望

# 調査票(A3 2つ折り形式) : 併設高校用

ここからは、東北学院大学全体、および2023年4月に設置予定の「**新学部(学科)**」のことについてお聞きします。別途配布したカラー資料の内容をよくお読みいただきお答えください。

Q6-1. 以下 a-f の中で、あなたが知っている東北学院大学の特徴をお選びください。(いくつでも○)

Q6-2. 以下 a-f の東北学院大学の特徴は、あなたにとってそれぞれどの程度魅力がありますか。それぞれ該当する番号に○をつけてください。(それぞれひとつに○)

東北学院大学の <u>特徴</u>		Q6-1	Q6-2			
		知っているもの	とても魅力がある	ある程度魅力がある	あまり魅力がない	全く魅力がない
a	LIFE LIGHT LOVEをスクールモットーとし、学問や学生生活を通じた人格教育を行っていること。	a	1	2	3	4
b	創立135年を迎えた北海道・東北地区最大の私立総合大学であること。	b	1	2	3	4
c	2023年にキャンパス統合し、仙台駅徒歩約15分の土樋・五橋のアーバンキャンパスとなること。	c	1	2	3	4
d	キャンパス統合により学問分野を越えた幅広い教養と専門知識・技能が学べること。	d	1	2	3	4
e	就職希望者の就職率が94.8%(2020年度卒業生)であること。	e	1	2	3	4
f	予約型入学時給付奨学金「LIGHT UP奨学金」をはじめ奨学金が充実していること。	f	1	2	3	4

【**地域総合学部 地域コミュニティ学科**】についてお聞きします。カラー資料1頁をご覧ください。

Q7. あなたは東北学院大学の「**地域総合学部 地域コミュニティ学科**」への TG 推薦による進学をどの程度希望しますか。(ひとつに○)

1. とても希望する                      2. 希望する                      3. 希望しない

【**地域総合学部 政策デザイン学科**】についてお聞きします。カラー資料2頁をご覧ください。

Q8. あなたは東北学院大学の「**地域総合学部 政策デザイン学科**」への TG 推薦による進学をどの程度希望しますか。(ひとつに○)

1. とても希望する                      2. 希望する                      3. 希望しない

【**情報学部 データサイエンス学科**】についてお聞きします。カラー資料3頁(左)をご覧ください。

Q9. あなたは東北学院大学の「**情報学部 データサイエンス学科**」への TG 推薦による進学をどの程度希望しますか。(ひとつに○)

1. とても希望する                      2. 希望する                      3. 希望しない

【**人間科学部 心理行動科学科**】についてお聞きします。カラー資料3(右)頁をご覧ください。

Q10. あなたは東北学院大学の「**人間科学部 心理行動科学科**」への TG 推薦による進学をどの程度希望しますか。(ひとつに○)

1. とても希望する                      2. 希望する                      3. 希望しない

【**国際学部 国際教養学科**】についてお聞きします。カラー資料4頁をご覧ください。

Q11. あなたは東北学院大学の「**国際学部 国際教養学科**」への TG 推薦による進学をどの程度希望しますか。(ひとつに○)

1. とても希望する                      2. 希望する                      3. 希望しない

# 調査票(A3 2つ折り形式) : 併設高校用

ここからは、再度東北学院大学全ての学部学科についてお聞きします。

**Q12. 2023 年に設置予定の新学部学科と既存の学部学科の中で、あなたが TG 推薦による進学を希望する学部学科の番号を、第一希望から第三希望までお書きください。**

※TG 推薦を考えていない方は、「選択肢 16」に○をつけてください。

## ■2023 年に新設予定の学部学科(4学部5学科)

1. 地域総合学部 地域コミュニティ学科
2. 地域総合学部 政策デザイン学科
3. 情報学部 データサイエンス学科
4. 人間科学部 心理行動科学科
5. 国際学部 国際教養学科

## ■既存の学部学科

6. 文学部 英文学科
7. 文学部 総合人文学科
8. 文学部 歴史学科
9. 文学部 教育学科
10. 経済学部 経済学科
11. 経営学部 経営学科
12. 法学部 法律学科
13. 工学部 機械知能工学科
14. 工学部 電気電子工学科
15. 工学部 環境建設工学科
16. TG 推薦は考えていない

◆第一希望

◆第二希望

◆第三希望

**Q13. 東北学院大学全体や新しく設置する新学部(学科)に対するご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。**

質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。



# 提示資料 (A4 8頁、観音開き形式)

表紙

裏表紙



# TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

2023年4月、東北学院大学は4学部5学科の新設を予定しています。  
(※設置構想中)

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

■新学部・学科の設置の理由		
<p><b>地域社会学部地域コミュニティ学科</b></p> <p>(1) 地域という地域で学ぶ意義。</p> <p>(2) 地域が自然、産業、観光、福祉など多様な要素から構成され、相互に連携していることを学び、理解することを目指す。</p> <p>(3) 地域問題と福祉について深い理解に加え、地域の抱える問題も、そこで生活する多様な人々の視点から捉え、解決の道を探ることを目指す。</p>	<p><b>情報学部データサイエンス学科</b></p> <p>(1) 幅広い分野で必要とされるデータサイエンスを学ぶ。</p> <p>(2) 情報を通じて社会を豊かにし、7つの地域を創る拠点となる。</p> <p>(3) 社会で実際に求められるスキルと、新しい知識や創造力を身に付ける。</p> <p>(4) 情報と社会の深い変化に対応できる能力を身に付ける。</p> <p>(5) 1種と2種の深い変化に対応できる能力を身に付ける。</p> <p>(6) 1種と2種の深い変化に対応できる能力を身に付ける。</p>	<p><b>国際学部国際文化学科</b></p> <p>(1) 世界のさまざまな国や地域における社会・文化・生活・言語の多様な共通点と異質性を理解し、グローバル社会について多角的かつ深い視点から学ぶことを目指す。</p> <p>(2) グローバル化の進展に伴って生じる国際化や地域を超えた共通課題を捉え直し、他者と協力し合う。共に成長し発展するための力を身に付ける。</p> <p>(3) 国際経済・国際文化・国際法、日本国の地理・歴史・文化の発展にもつなげる。</p> <p>(4) 国際社会の発展に貢献する人材を育成する。</p> <p>(5) 国際社会の発展に貢献する人材を育成する。</p>
<p><b>地域社会学部健康デザイン学科</b></p> <p>(1) 地域社会と健康システム連携の重要性について学ぶ。</p> <p>(2) 地域社会と健康の深い関係性、他分野との協力を学ぶ。</p> <p>(3) 地域社会と健康の深い関係性、他分野との協力を学ぶ。</p> <p>(4) 地域社会と健康の深い関係性、他分野との協力を学ぶ。</p>	<p><b>人間学部心理行動科学科</b></p> <p>(1) 人間の行動とその環境を、及びそれらを理解することを目指す。</p> <p>(2) 人間の行動と環境の深い関係性、他分野との協力を学ぶ。</p> <p>(3) 人間の行動と環境の深い関係性、他分野との協力を学ぶ。</p> <p>(4) 人間の行動と環境の深い関係性、他分野との協力を学ぶ。</p>	<p style="font-size: x-small; text-align: center;">※設置計画は予定であり、詳細内容は変更する場合があります。</p>



**東北学院大学** 仙台市青葉区土樋一丁目1-1  
〒980-8511 <https://www.tohokugakuin.ac.jp>

## 観音 扉ページ (左右)

この都市で、その未来へ。

融合する学びの先に新しい世界がみえる。



伝統



創世

昨日のあたりですが、今日もそうとは限らない。

そんな目まぐるしく変化し続ける社会

広がりが続けるグローバル化の中で求められるのは、

多角的な視点と融合した知識を備える人ではないでしょうか。

本リーフレットでは、その新しい時代を見据え、2023年に誕生する

フィールド\*発見、共能力\*創造力、分析力\*開闊力、コロナ\*カウダことば\*教養

それぞれの学びが融合した、新たな学部・学科が予定する

「あなたが創る未来」をご紹介します。

新しい学びは、新しい可能性へと続く扉。

さあ、この扉を開いて新しい自分を見つけてください。

2023年4月、3つのキャンパスを1つ(土樋・五橋)に統合し新たに4学部5学科が誕生予定  
(※設置構想中)

仙台駅から徒歩15分、地下鉄五橋駅南側の立地に、新しく五橋キャンパスが誕生します。キャンパスのランドマークとなる高層棟は地上16階建て、東北学院大学は土樋・五橋のアーバンキャンパスに定常期を迎えて約15,000人の学生が集まり、増え続ける東北学院大学の学びが実現します。またキャンパス統合にあわせて、地域社会学部(地域コミュニティ学科・健康デザイン学科)、情報学部(データサイエンス学科)、人間学部(心理行動科学科)、国際学部(国際文化学科)の4学部5学科を設置構想中です。4学部学科名称はいずれも仮称

**脈々と受け継がれる「LIFE LIGHT LOVE」の精神**





# 提示資料（A4 8頁、観音開き形式）

観音見開き内部（見開きで4学部5学科を横並びに掲載）

## 地域総合学部 地域コミュニティ学科

(※定員)

● 入学定員：150名

## 地域総合学部 政策デザイン学科

(※定員)

● 入学定員：145名

フィールド ×

発見

### 地域に学び、 地域の未来を構想する

**養成する人材像**

多様な背景から成り立つ地域を深く理解し、地域住民の視点で、地域の課題を解決していくことのできる人材を育てる。

**地域総合学部地域コミュニティ学科の学びの特徴**

**カリキュラム**

自然・産業・教育・福祉など多様な要素から成り立つ地域を深く理解し、地域住民の視点で、地域の課題を解決していくことのできる人材をめざします。そのための講義科目・演習科目・実習科目を豊富に取り入れたカリキュラムを用意しています。

**研究**

1年生から多様な学問分野の体系的なフィールドワークを開始します。学年が上がるにつれて、より専門的な技法に基づく調査・研究を深めていきます。夏休みなどを利用した海外地域実習もありです。大学と現場での学びの両面から地域の現状や課題について探究していきます。

**将来イメージ**（業界・職種の可能性）

公務員 教員 民間企業(金融・保険業、運輸業、卸売・小売業など) 地域コンサルタント  
事務系 測量事務所 学校法人 社会福祉法人 NPO法人 医療法人 など

**取得できる資格** (予定)

中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 高等学校教諭一種免許状(公民)  
社会教育主事任用資格 測量士補 地域職業士 G検定府士

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

## 地域総合学部 地域コミュニティ学科

(※定員)

● 入学定員：150名

## 地域総合学部 政策デザイン学科

(※定員)

● 入学定員：145名

共感力 ×

創造力

### 共生社会実現のための 政策デザイン

**養成する人材像**

地域社会を地球規模の社会経済システムとの関係で捉え、さまざまな地域の課題に多様な担い手が協働して取り組むための研究・教育を行うことで、課題の解決に資することができる人材を養成する。

**地域総合学部政策デザイン学科の学びの特徴**

**教育目標**

地域において多様な人々が共生するための政策を「デザイン」できる人材を育成します。経済格差、差別や不平等、災害復興などの問題を広い視野で把握し、より良い社会を創るための政策を構想と協働して立案・実行する力を養います。

**カリキュラム**

社会の現状を捉えるフィールドワークと、政策を作る理論的視点の双方をバランス良く学びます。①政府や行政のあり方を学ぶ(公共行政領域)②経済や産業の動向を知る(経済産業領域)③地域に生きる人々の生の現実を理解する(市民社会領域)という複層的な授業構成が特徴です。

**将来イメージ**（業界・職種の可能性）

公務員 公企業 教員 民間企業(金融・保険業、サービス業、医療・福祉系など)  
社会福祉法人 NPO法人 など

**取得できる資格** (予定)

中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(公民)  
社会福祉主事任用資格

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

## 情報学部 データサイエンス学科

(※定員)

● 入学定員：190名

## 情報学部 データサイエンス学科

(※定員)

● 入学定員：190名

分析力 ×

展開力

### 情報を活かし 新たな時代を創り出す

**養成する人材像**

数理科学、情報科学や社会科学の幅広い学びを通して、社会が抱える種々の課題を自ら実践的に解決し、新たな価値を創造できる人材を育成する。

**情報学部データサイエンス学科の学びの特徴**

**教育目標**

現代社会はデータで満ち溢れています。解決すべき課題も多種多様です。私たちの生活をより豊かにするには、文脈の区別なくデータから必要な情報を見出し活用する力が不可欠です。その力を築くために必要な基礎知識と「問題発見力・解決力」「コミュニケーション力」を身に付け、それらを活かせる人材を育てます。

**学ぶ内容**

データを軸として、コンピュータの操作から統計学や情報学、経営学や社会学の基礎を学びます。そのうえで、社会科学、情報科学、数理科学の視点から、自分の興味関心に基づいて専門性を高めつつ、地域や社会の問題も視野に入れて広く実践的に学んでいきます。

**将来イメージ**（業界・職種の可能性）

民間企業(情報通信業、金融・保険業、製造業、卸売・小売業、サービス業など) データアナリスト  
公務員 中学・高校教員(数学) 高校教員(情報) 大学院進学

**取得できる資格** (予定)

中学校・高等学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(情報)  
社会調査士

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

# 提示資料（A4 8頁、観音開き形式）

## 国際学部 国際教養学科 (※定員)

入学定員：130名

ことば × 教養

# 教養を手に 地域へ、世界へ

**養成する人材像**

日本が置かれた東アジアと世界の諸地域を幅広く視野に入れ、そこに住む人々の社会・文化・歴史・言語の多様性を学び、相互に共通の課題や問題を発見し、その解決に向けて国家、民族、地域の壁を越えて協働し、行動できる「良き地球市民」の育成をめざす。

**国際学部国際教養学科の学びの特徴**

**学ぶ内容**

国境を越えて文化の差が押し寄せる現代を生き抜くための教養は、目の前の問題が実は過去の歴史や遠くの出発点と繋がっていることを理解することから始まります。世界を形作る言語・文化・歴史・社会の仕組みなどを学び、広い視野で課題の解決方法を考えることができる国際人をめざします。

**カリキュラム**

英語、中国語、韓国語のいずれかを選んで、1～2年次は選3回の授業で集中的に、3年次も選2回で継続して学び「使える外国語」にします。留学も推奨。教員集団は多国籍で、研究分野も多様です。日本や外国の言語・文化・歴史・社会についての講義が、日本語だけでなく英語でも行われます。

**将来イメージ**（業界・職種の可能性）

<input type="checkbox"/> 民間企業（サービス業、対売・小売業、製造業、金融・保険業など）	<input type="checkbox"/> 情報通信業
<input type="checkbox"/> 公務員（国内外の行政機関勤務を含む）	<input type="checkbox"/> 国際NGO・NPO職員
<input type="checkbox"/> 大学教員	<input type="checkbox"/> 日本語学校教員

**取得できる資格**（予定）

日本語教員基礎資格

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

4

## 人間科学部 心理行動科学科 (※定員)

入学定員：165名

ココロ × カラダ

# 人間の心と身体を 科学する

**養成する人材像**

人間生活の抱える様々な問題に現実的に対峙すべく、人間を多角的・実証的に捉える力を備え、健康的な生のあり方を追求する人材を養成する。

**人間科学部心理行動科学科の学びの特徴**

**設立の背景**

人間の心を正しく理解するには、心の内にとらわれるだけでは不十分です。心と身体はつながっているため、身体のことを知る必要があります。さらに、心は人と人との関係の中で作られるので、社会を知ること大切。人間の心と行動をより深く、科学的に学ぶために、この学部が誕生しました。

**資格**

公認心理師は、2017年に誕生した日本初の心理職における国家資格です。本学科では、公認心理師の国家試験受験資格取得要件となる学部科目を履修することができます。また、心と身体につながりをもとに、本学初の新設の中学校・高等学校教諭一種免許取得が得るよう設置構想中です。

**将来イメージ**（業界・職種の可能性）

<input type="checkbox"/> 民間企業（情報通信業、サービス業、教育・学習支援業、医療・福祉業など）	<input type="checkbox"/> 公務員（保健師）
<input type="checkbox"/> 公務員（保健職員）	<input type="checkbox"/> 中学校・高校教員（保健体育）
<input type="checkbox"/> 公認心理師対応大学院進学 など	

**取得できる資格**（予定）

<input type="checkbox"/> 公認心理師（受験資格の一部）	<input type="checkbox"/> 中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）
<input type="checkbox"/> 認定心電士	<input type="checkbox"/> 社会調査士

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

3



東北学院大学  
新学部設置に関するアンケート  
—地域総合学部—

【企業】  
調査結果報告書

2022年3月

調査概要	3
▶ 回答企業プロフィール	5
✓ 主業種／正社員数	6
✓ 過去3年の新卒採用者の最終学歴	7
✓ 2021年4月の新卒採用状況	8
✓ 2021年4月入社者における東北学院大学卒業生の採用有無、採用人数	9
✓ 2022年4月の新卒採用についての考え	10
✓ 今後、新卒採用時に対象となる最終学歴	11
✓ 採用活動時に重視する能力	12
▶ 新学部に対する評価	13
✓ 養成する人物像の必要度：地域総合学部 地域コミュニティ学科	14
✓ 養成する人物像の必要度：地域総合学部 政策デザイン学科	15
✓ 卒業生の採用意向：地域総合学部 地域コミュニティ学科	16
✓ 卒業生の採用意向：地域総合学部 政策デザイン学科	17
一調査票・提示資料一	19
調査票	20
提示資料	24

# 【企業】調査 調査概要

## ▶ 調査目的

- ✓ 東北学院大学が2023年4月に設置を計画している「地域総合学部」について、本学への求人実績がある企業の採用責任者等の採用意向等を聴取し受容性を確認する。

## ▶ 調査対象

- ✓ 東北学院大学への求人実績がある企業の新卒採用責任者・担当者

## ▶ 調査方法

- ✓ 郵送配布・回収によるアンケート調査

## ▶ 調査期間

- ✓ 2021年10月28日（木）～2021年11月30日（火）※12/1到着分までを入力・集計対象とした

## ▶ 有効回収数

- ✓ 発送数 2240社
- ✓ 回収数 667社（回収率 29.8%）

### ■ 企業所在エリア（発送先住所に基づき集計）

	調査数	構成比		調査数	構成比
<b>全体</b>	<b>667社</b>				
<b>北海道／東北</b>			<b>中国</b>		
北海道	14社	2.1%	鳥取県	0社	0.0%
青森県	21社	3.1%	島根県	0社	0.0%
岩手県	41社	6.1%	岡山県	2社	0.3%
宮城県	221社	33.1%	広島県	3社	0.4%
秋田県	26社	3.9%	山口県	2社	0.3%
山形県	65社	9.7%	<b>四国</b>		
福島県	60社	9.0%	徳島県	1社	0.1%
茨城県	10社	1.5%	香川県	2社	0.3%
栃木県	5社	0.7%	愛媛県	3社	0.4%
群馬県	7社	1.0%	高知県	1社	0.1%
<b>関東</b>			<b>九州／沖縄</b>		
埼玉県	15社	2.2%	福岡県	5社	0.7%
千葉県	15社	2.2%	佐賀県	1社	0.1%
東京都	204社	30.6%	長崎県	0社	0.0%
神奈川県	19社	2.8%	熊本県	3社	0.4%
<b>東海／甲信越</b>			大分県	3社	0.4%
新潟県	14社	2.1%	宮崎県	1社	0.1%
富山県	2社	0.3%	鹿児島県	2社	0.3%
石川県	3社	0.4%	沖縄県	1社	0.1%
福井県	4社	0.6%	<b>その他</b>		
山梨県	2社	0.3%	多拠点	12社	1.8%
長野県	2社	0.3%	無回答	1社	0.1%
岐阜県	4社	0.6%			
静岡県	4社	0.6%			
愛知県	9社	1.3%			
<b>関西</b>					
三重県	1社	0.1%			
滋賀県	1社	0.1%			
京都府	3社	0.4%			
大阪府	21社	3.1%			
兵庫県	2社	0.3%			
奈良県	2社	0.3%			
和歌山県	2社	0.3%			

東北 計	355社	53.2%
●北東北 計	63社	9.4%
●南東北 計	292社	43.8%
宮城県	186社	27.9%
山形県	54社	8.1%
福島県	52社	7.8%
関東 計	233社	34.9%
●一都三県 計	225社	33.7%
東京都	203社	30.4%
その他道府県 計	79社	11.8%

- ✓ ※以下は、設問上で聴取した「事業所」。
- ✓ 多拠点ある企業からは複数回答が多くみられた為、前頁の「企業所在エリア」とは一致しない。
  - ・ 以下は所在エリアと（複数）事業所所在地のクロス。

■事業所 所在地（複数回答）

(社)

		北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県
【企業】全体	(n= 667)	14	21	41	221	26	65	60	10	5	7	15	15	204	19	14	2	3	4	2	2	4	4	9
<東北 計>	(n= 355)	2	15	36	188	20	58	54	—	1	—	—	1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●北東北 計	(n= 63)	—	13	32	3	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●南東北 計	(n= 292)	2	2	4	185	2	58	54	—	1	—	—	1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城県	(n= 186)	2	2	4	183	2	4	2	—	—	—	—	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山形県	(n= 54)	—	—	—	—	—	54	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福島県	(n= 52)	—	—	—	2	—	—	52	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
<関東 計>	(n= 233)	4	4	4	22	5	5	5	10	4	7	11	11	189	18	2	1	2	1	2	2	1	1	3
●一都三県 計	(n= 225)	4	3	3	21	4	4	4	5	3	4	10	10	186	17	2	1	2	1	2	2	1	1	3
東京都	(n= 203)	4	3	2	16	3	4	2	4	2	3	5	5	185	8	1	—	2	1	1	1	—	—	2
<その他道府県 計>	(n= 79)	8	2	1	11	1	2	1	—	—	—	4	3	11	1	12	1	1	3	—	—	3	3	6

企業\_F2

■事業所 所在地（複数回答）

(社)

		三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	多拠点
【企業】全体	(n= 667)	1	1	3	21	2	2	2	—	—	2	3	2	1	2	3	1	5	1	—	3	3	1	2	1	12
<東北 計>	(n= 355)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●北東北 計	(n= 63)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
●南東北 計	(n= 292)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城県	(n= 186)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山形県	(n= 54)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福島県	(n= 52)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
<関東 計>	(n= 233)	1	1	1	5	1	1	1	—	—	1	2	1	1	2	1	1	3	1	—	2	1	1	1	—	6
●一都三県 計	(n= 225)	1	1	1	5	1	1	1	—	—	1	2	1	1	2	1	1	3	1	—	2	1	1	1	—	5
東京都	(n= 203)	—	—	—	4	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	2	—	—	1	—	—	—	—	—	5
<その他道府県 計>	(n= 79)	—	—	2	16	1	1	1	—	—	1	1	1	—	—	2	—	2	—	—	1	2	—	1	1	6

企業\_F2



## 回答企業プロフィール



# 主業種／正社員数

## <主業種>

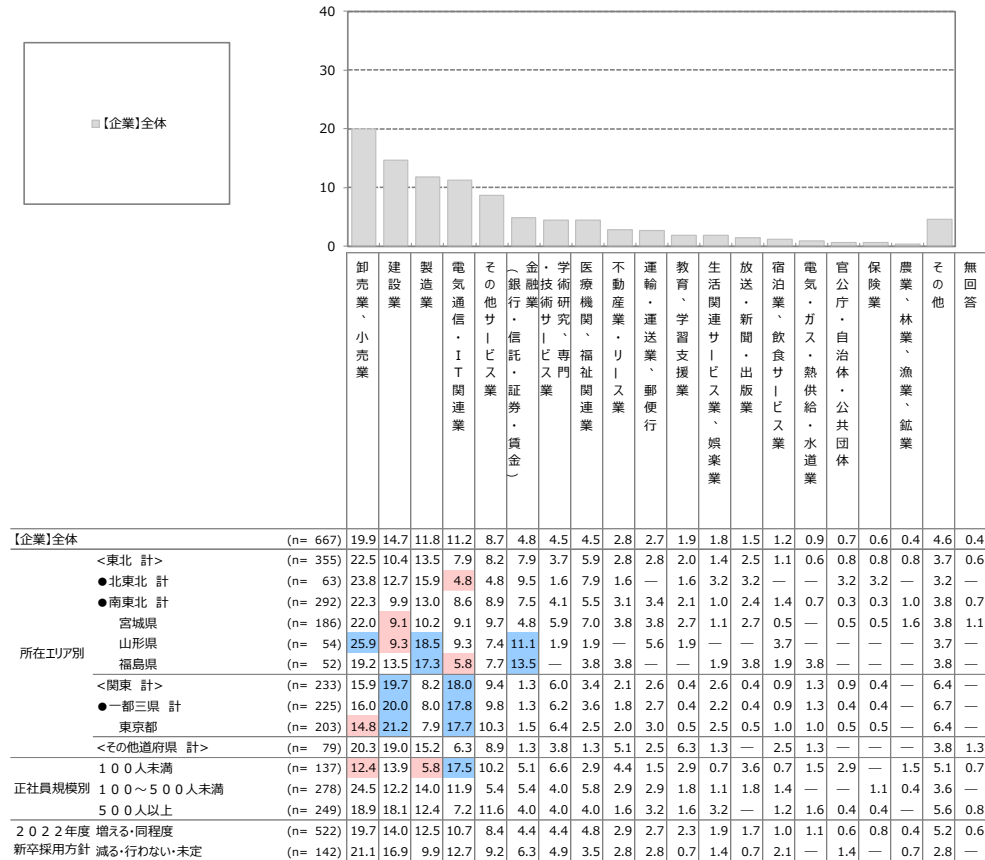
▶ 最も多かったのは「卸売・小売業」(20%)。次いで「建設業」(15%)、「製造業」(12%)、「電気通信・IT関連業」(11%)。

## <正社員数>

▶ 「100～500人未満」が4割強で最も高く、「1000～3000人未満」「500～1000人未満」が15%前後でつづく。

■主業種 (全体/単一回答)

(%)



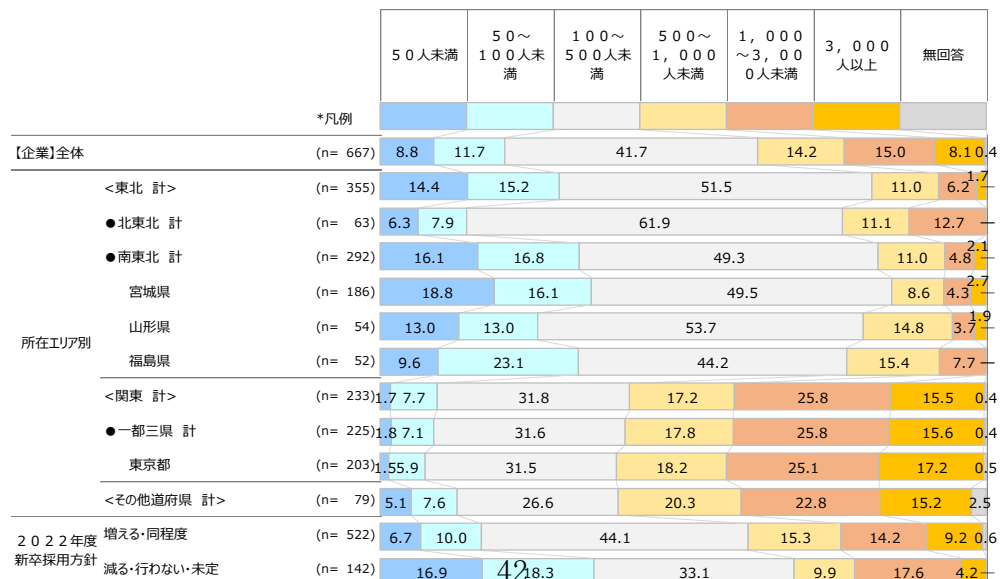
主業種	割合 (%)
卸売業、小売業	19.9
建設業	14.7
製造業	11.8
電気通信・IT関連業	11.2
その他サービス業	8.7
(銀行・信託・証券・貸金)	4.8
金融業・技術サービス業	4.5
学術研究・専門・医療機関、福祉関連業	4.5
医療機関、福祉関連業	4.5
不動産業・リース業	2.8
運輸・運送業、郵便	2.7
教育、学習支援業	1.9
生活関連サービス業、娯楽業	1.8
放送・新聞・出版業	1.5
宿泊業、飲食サービス業	1.2
電気・ガス・熱供給・水道業	0.9
官公庁・自治体・公共団体	0.7
保険業	0.6
農業、林業、漁業、鉱業	0.4
その他	4.6
無回答	0.4

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い  
 ※「全体」階層ソート

企業F1

■正社員数 (全体/単一回答)

(%)



正社員規模別	割合 (%)
500人未満	41.7
500～1000人未満	14.2
1000～5000人未満	15.0
5000～10000人未満	8.1
10000人以上	0.4
無回答	0.4

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い  
 ※「全体」階層ソート

企業F3

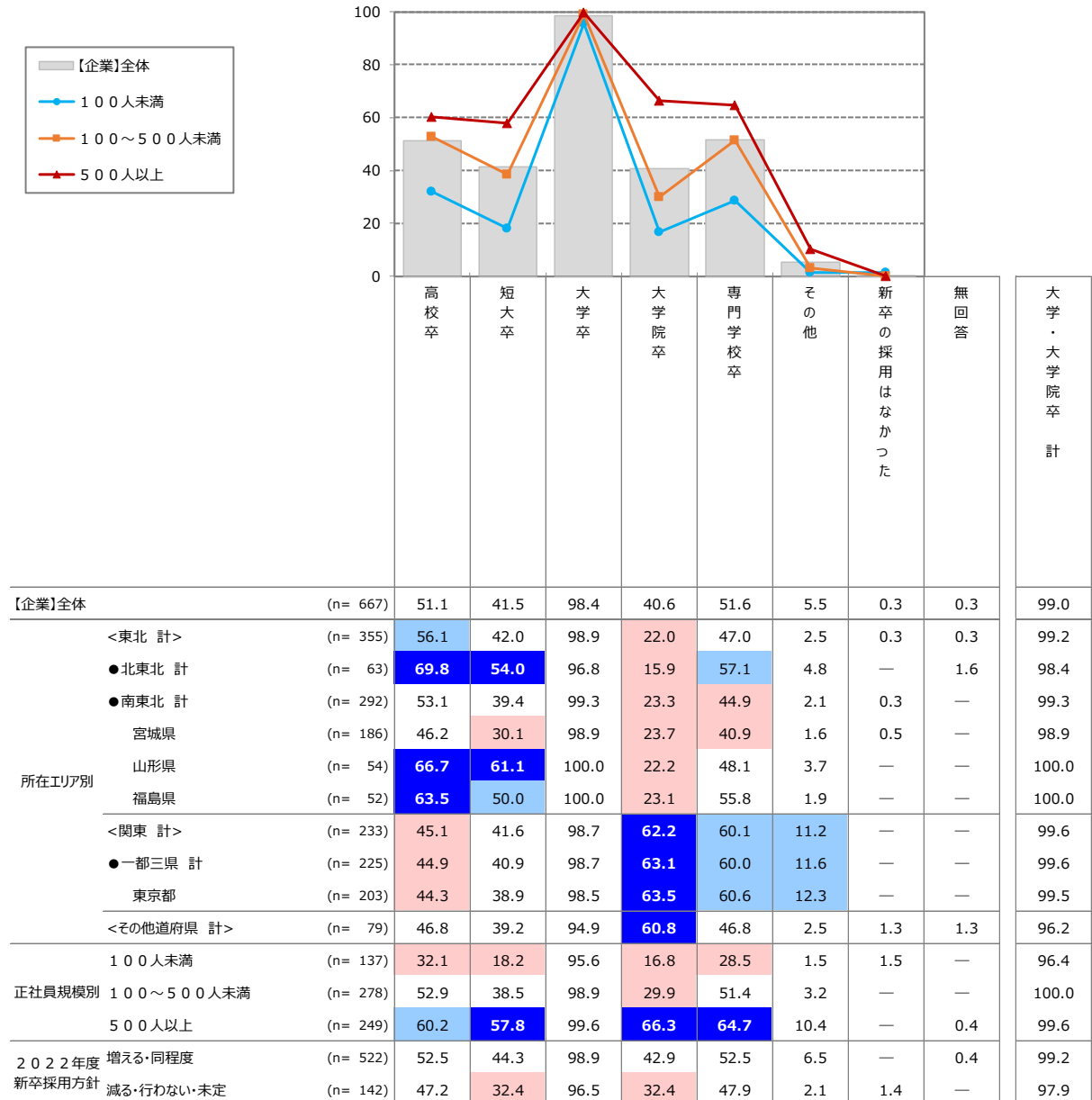
# 過去3年の新卒採用者の最終学歴

- ▶ 回答企業のほとんどが、過去3年以内に新卒採用を実施。
- ▶ 「大学・大学院卒」を採用した企業は99%。

- ✓ 所在エリア別にみると、「大学卒」はいずれのエリアでも9割を超え、エリア差は小さい。
- ✓ 正社員規模別にみると、「大学卒」はいずれも9割を超え差は小さいが、他はいずれも企業規模が大きいほど割合が高い。

■ 過去3年の新卒採用者の最終学歴 (全体/複数回答)

(%)



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

# 2021年4月の新卒採用状況

- ▶ 2020年4月の採用人数をたずねたところ、「1~9人」が5割を超え、次いで「10~49人」(29%)。
- ▶ 新卒採用しなかった企業は6%

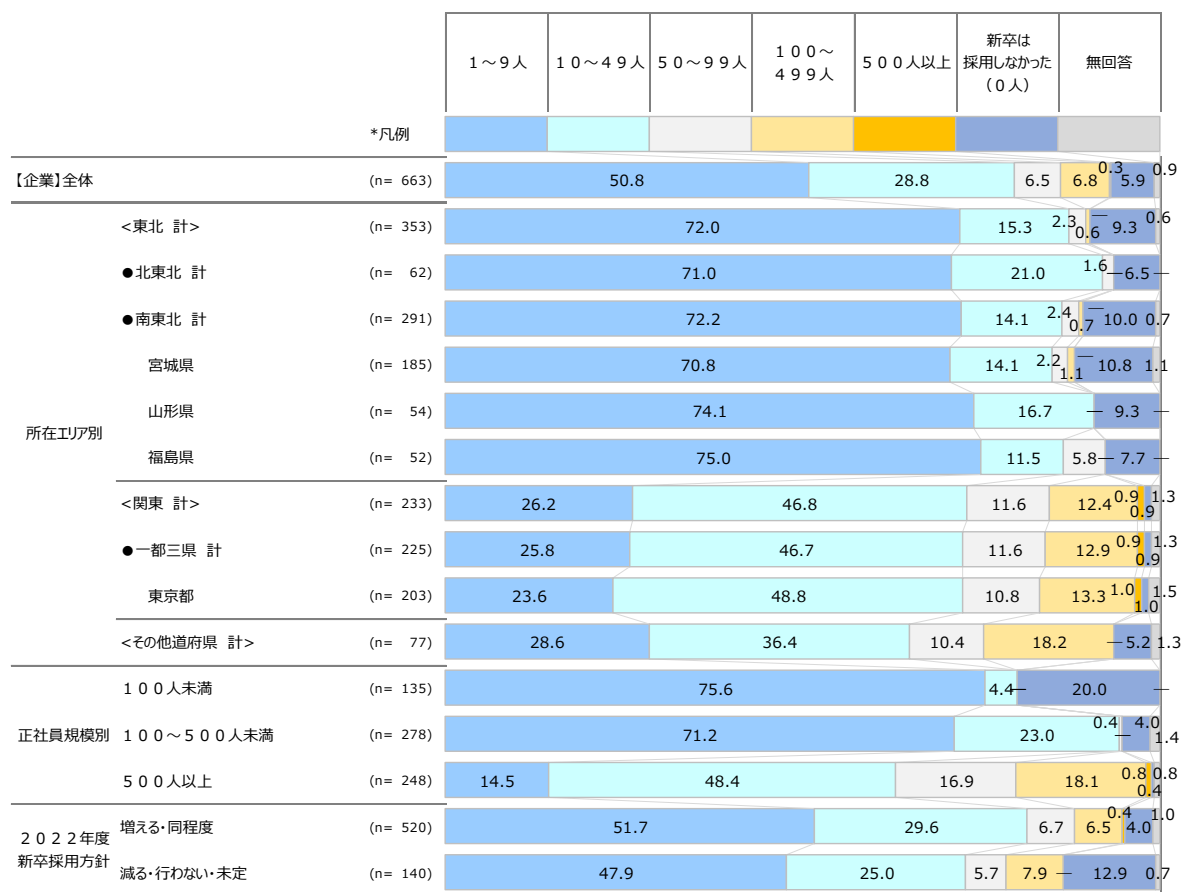
✓ 所在エリア別にみると、東北は「1~9人」が7割を超え、「新卒は採用しなかった」が1割程度みられる一方、関東（主に東京の傾向）は「10~49人」が5割近く、新卒採用なしは1%と、エリアによる採用状況の違いが大きい。

✓ 正社員規模別にみると、正社員規模が大きいほど採用規模も増加。

- 500人未満の2層では「1~9人」が7割を超えるが、500人以上でのボリュームゾーンは「10~49人」であり「100~499人」も2割弱と採用規模も大きい。

■ 2021年4月の新卒採用状況（全体／単一回答）

(%)



企業 F5

# 2021年4月入社者における 東北学院大学卒業生の採用有無、採用人数

- ▶ 全体（2021年4月に新卒採用ありと回答した企業）の54%が「東北学院大学卒業生を採用した」と回答。
- ▶ 平均採用人数は4.71人。

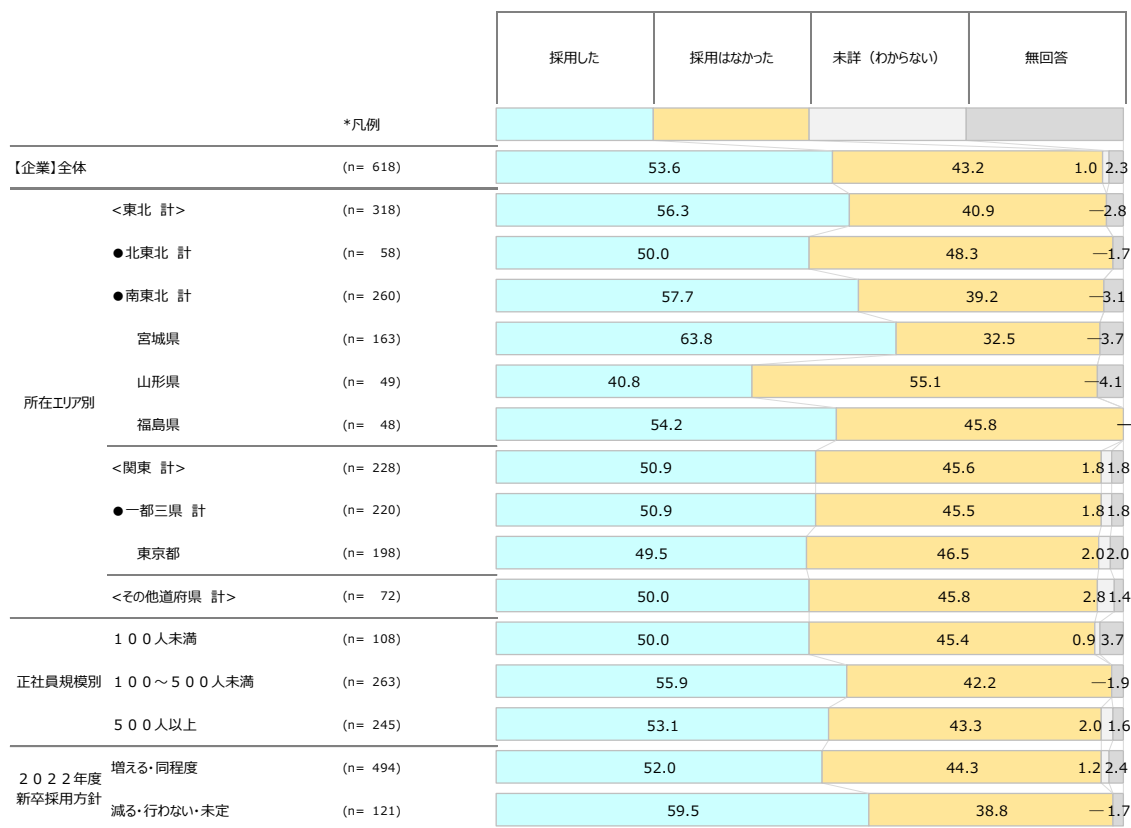
✓ 所在エリア別にみると、宮城県では64%が「採用した」と回答。

- ・ <東北 計>、<関東 計>とも「採用した」という企業は半数を超える。

✓ 正社員規模別にみると、「採用した」割合が最も高いのは100~500人未満層(56%)。

■ 2021年4月入社者における東北学院大学卒業生の採用有無（大学・大学院卒の新卒採用実績企業／単一回答）

(%)



■ 2021年4月東北学院大学卒業生採用人数（採用した企業／社数）

(人)

		1人	2人	3人以上	平均
【企業】全体	(n= 331)	193	43	95	4.71
<東北 計>	(n= 179)	96	24	59	3.67
●北東北 計	(n= 29)	18	3	8	2.38
●南東北 計	(n= 150)	78	21	51	3.92
宮城県	(n= 104)	46	13	45	4.96
山形県	(n= 20)	13	4	3	1.50
福島県	(n= 26)	19	4	3	1.62
<関東 計>	(n= 116)	74	14	28	5.54
●一都三県 計	(n= 112)	72	14	26	3.94
東京都	(n= 98)	64	13	21	4.05
<その他道府県 計>	(n= 36)	23	5	8	7.17
100人未満	(n= 54)	33	10	11	2.11
正社員規模別 100~500人未満	(n= 147)	96	17	34	2.18
500人以上	(n= 130)	64	16	50	8.65

# 2022年4月の新卒採用についての考え

## ▶ 2022年4月入社の新卒採用数について、全体の約半数が「同程度」、28%が「増える」と回答。

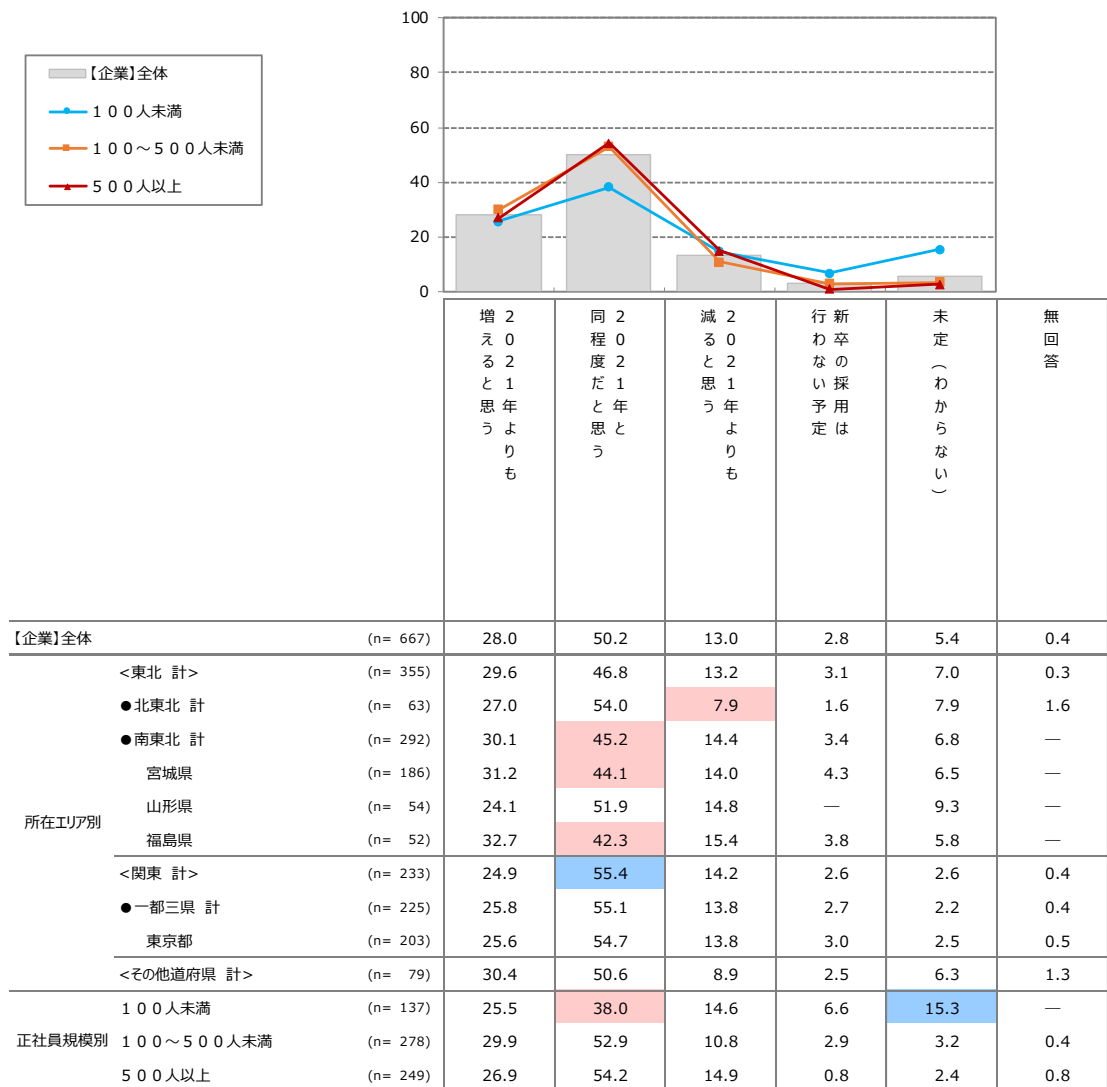
✓ 所在エリア別にみると、全体傾向に比べ「同程度」と思う割合が高いのは<関東 計>（55%）。

- ・ 宮城県は、「増える」と思う割合が僅かに高めとなる。

✓ 正社員規模別にみると、100人以上の2層では「同程度」が半数を超えるが、100人未満の層は「同程度」の割合が下がり、「未定」が1割強みられる。

■ 2022年4月の新卒採用についての考え（全体／単一回答）

(%)



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

# 今後、新卒採用時に対象となる最終学歴

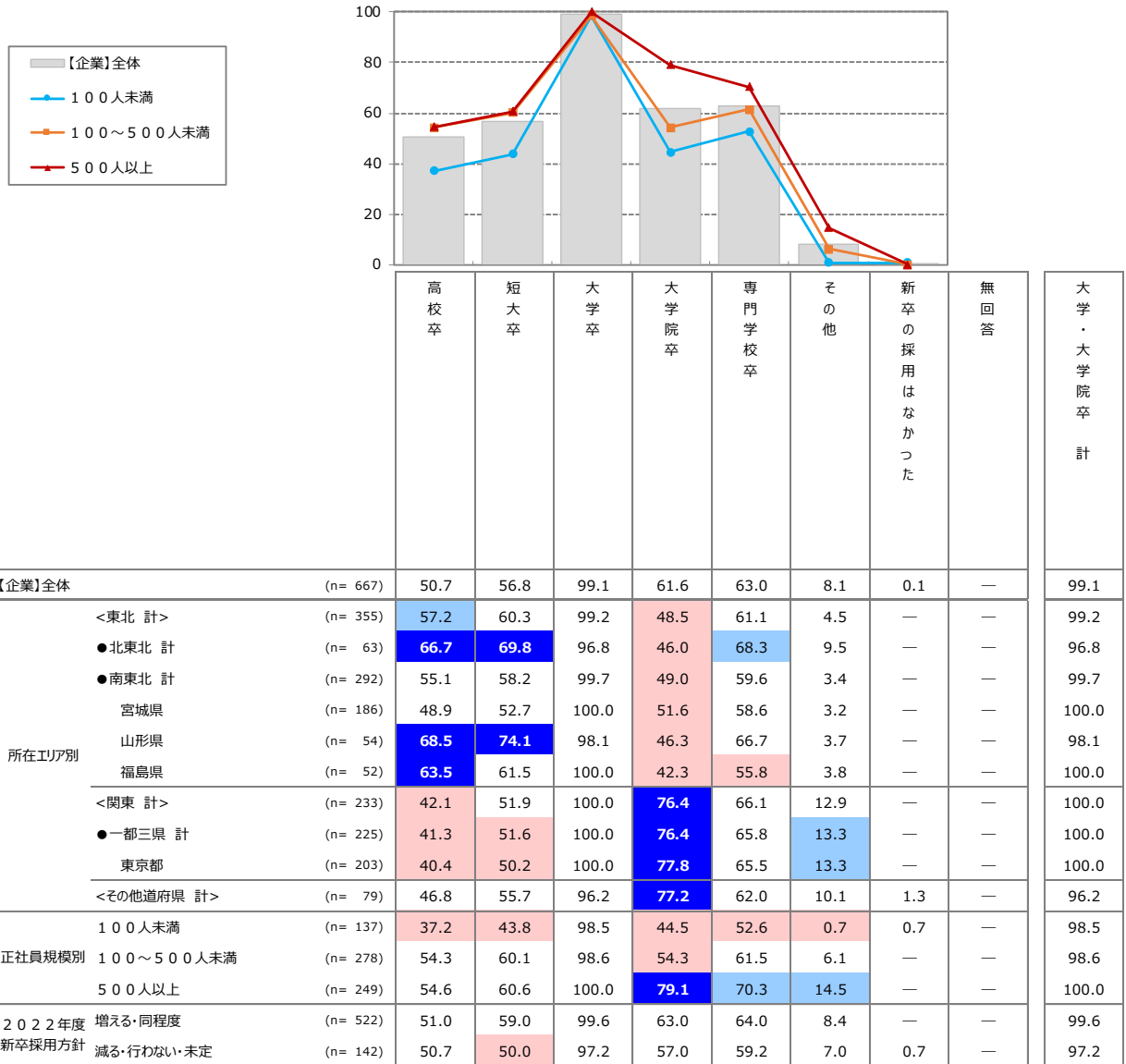
▶ 今後の新卒者の採用にあたり、ほとんどの企業が「大学・大学院卒」の採用を考えている。

✓ 所在エリア別、正社員規模別、2022年度新卒採用方針別のいずれでも「大学卒」は100%近い。

- 全体傾向に比べ、＜東北 計＞は「高校卒」、＜関東 計＞＜その他道府県＞は「大学院卒」が高いことが特徴。
- すべての学歴とも、正社員規模が大きいほど割合は高く、最も差が開くのは「大学院卒」。

■ 今後、新卒採用時に対象となる最終学歴（全体／複数回答）

(%)



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

# 採用活動時に重視する能力

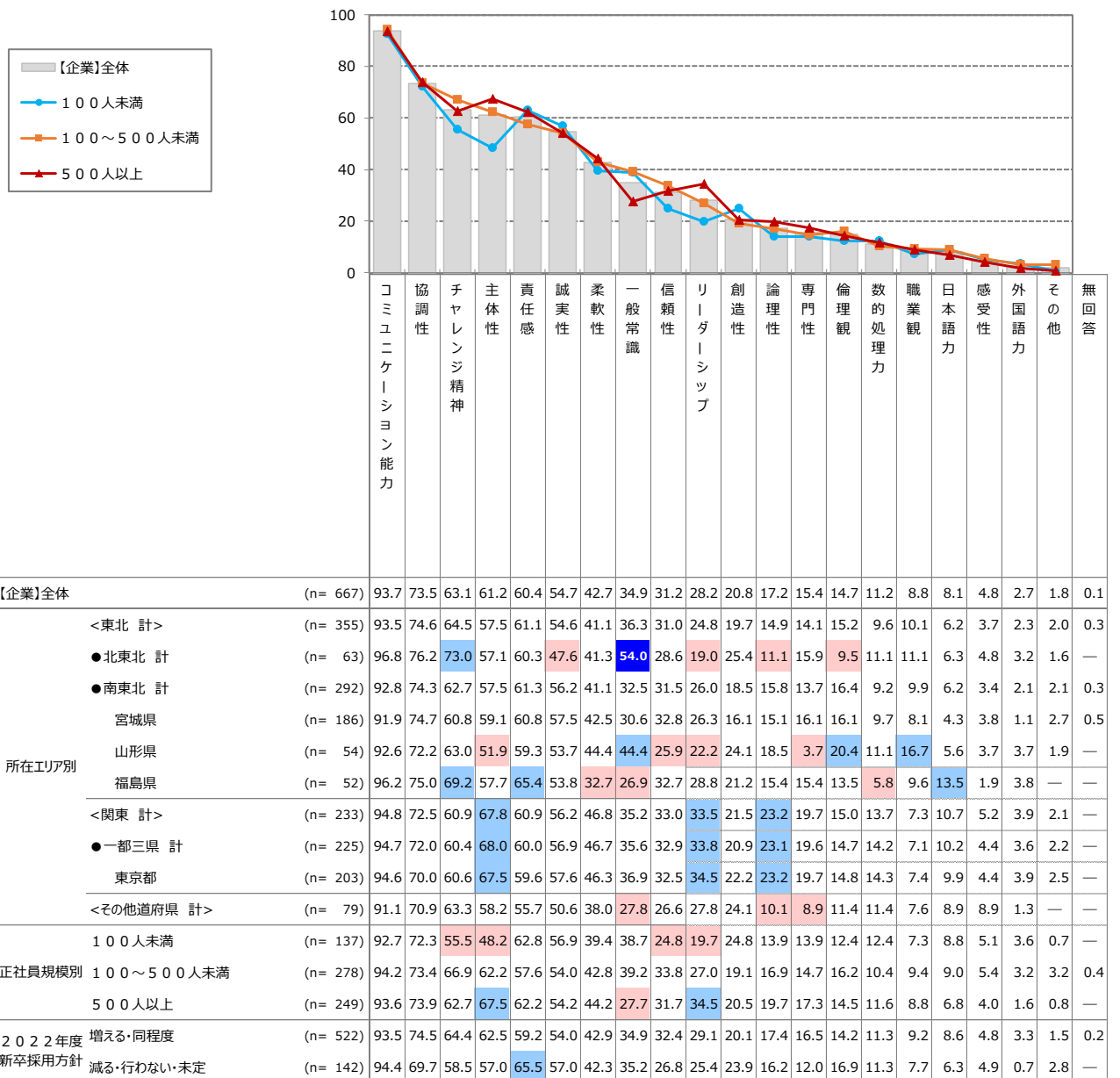
- ▶ 採用活動時に重視する能力のトップは「コミュニケーション能力」(94%)。
- ▶ ついで「協調性」(74%)、「チャレンジ精神」(63%)、「主体性」(61%)、「責任感」(60%)。

- ▶ 正社員規模別による差が大きくなるのは、「チャレンジ精神」「主体性」「一般常識」「リーダーシップ」。

- ✓ 「主体性」や「リーダーシップ」は規模が大きくなるほど高くなる。
- ✓ 反対に、500人以上層のみ低いのは「一般常識」。

■ 採用活動時に重視する能力 (全体/複数回答) (%)

(%)



※「全体」より ■ =10ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上低い  
 ※「全体」降順ソート



## 新学部に対する評価 -地域総合学部-



# 養成する人物像の必要度：地域総合学部 地域コミュニティ学科

- ▶ 地域総合学部 地域コミュニティ学科で養成する人物像に対して、全体の31%が「必要になる」と回答。
- ▶ 「ある程度必要になる」まで合わせた「必要・計」は69%。

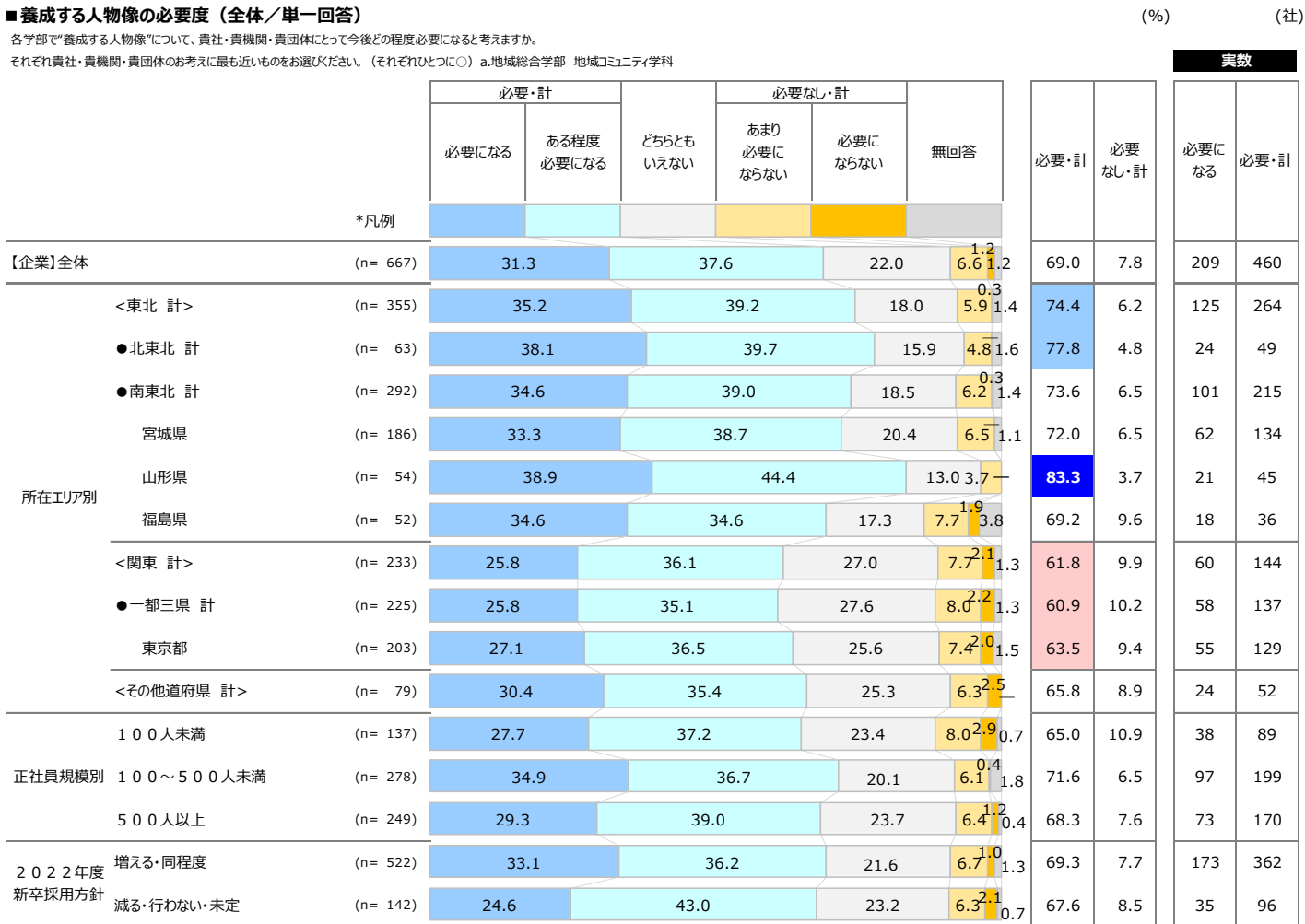
✓ 所在エリア別にみると、＜東北 計＞は「必要・計」の割合が7割を超え、＜関東 計＞よりも高い。

✓ 正社員規模別にみると、「必要・計」の割合が最も高いのは100～500人未満層(72%)。ついで500人以上層(68%)。

## ■養成する人物像の必要度（全体／単一回答）

各学部で“養成する人物像”について、貴社・貴機関・貴団体にとって今後どの程度必要になると考えますか。

それぞれ貴社・貴機関・貴団体のお考えに最も近いものをお選びください。（それぞれひとつに○） a.地域総合学部 地域コミュニティ学科



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

企業\_Q2\_1

# 養成する人物像の必要度：地域総合学部 政策デザイン学科

- ▶ 地域総合学部 政策デザイン学科で養成する人物像に対して、全体の21%が「必要になる」と回答。
- ▶ 「ある程度必要になる」まで合わせた「必要・計」は59%。

✓ 所在エリア別にみると、「必要・計」の割合は<東北 計>が<関東 計>よりもやや高め。

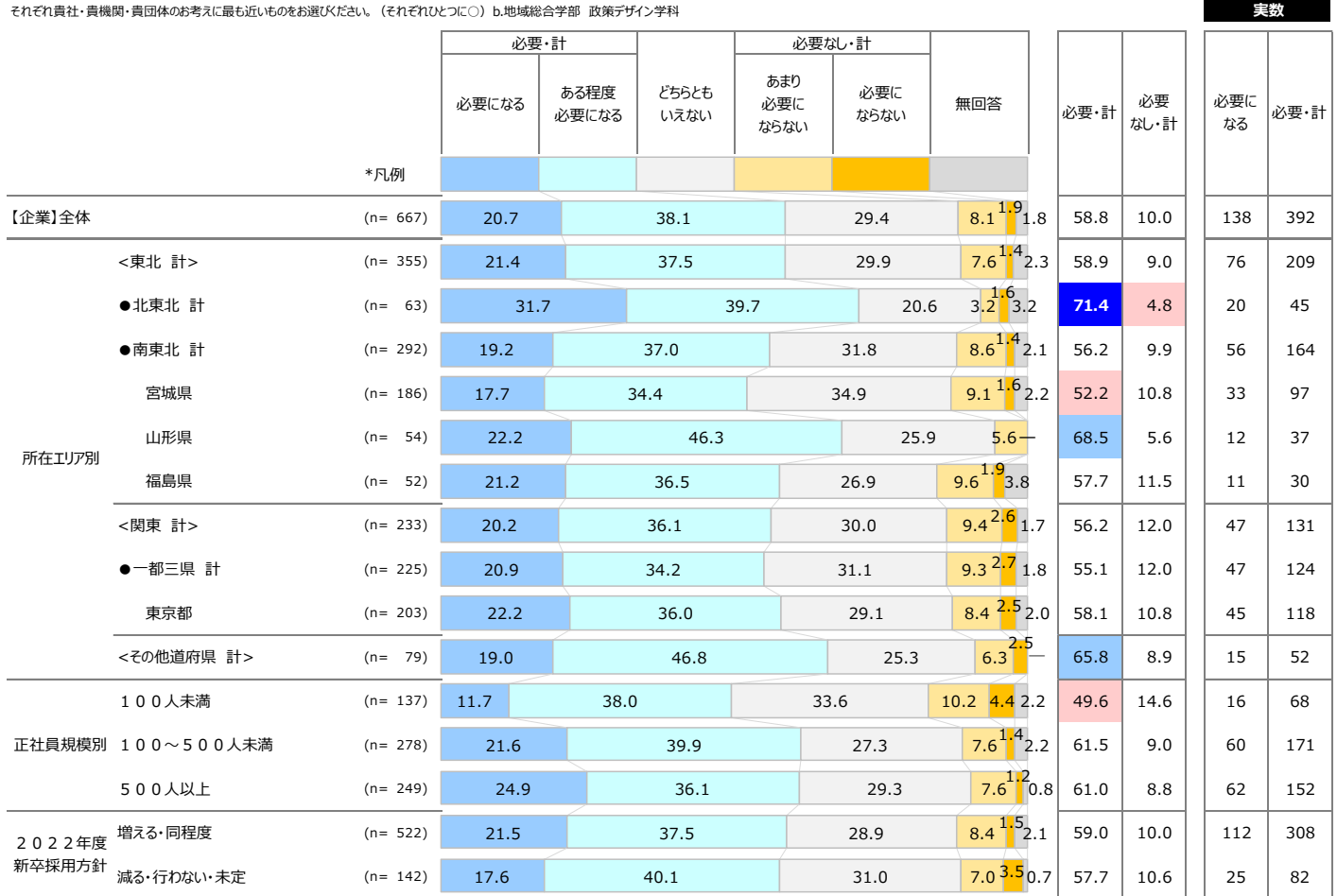
- ・ 東北内では、●北東北や山形県における割合が高い。

✓ 正社員規模別にみると、「必要・計」の割合は100人以上の2層でほぼ同程度（6割強）。

## ■ 養成する人物像の必要度（全体／単一回答）

各学部で“養成する人物像”について、貴社・貴機関・貴団体にとって今後の程度必要になると考えますか。

それぞれ貴社・貴機関・貴団体のお考えに最も近いものをお選びください。（それぞれひとつに○） b.地域総合学部 政策デザイン学科



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

# 卒業生の採用意向：地域総合学部 地域コミュニティ学科

▶ 地域総合学部 地域コミュニティ学科の卒業生に対して、全体の54%が「採用対象になる」と回答。

▶ 「おそらく採用対象になる」まで合わせた「採用対象・計」は77%。

✓ 企業数に換算すると「採用対象・計」は511社。

✓ 所在エリア別にみると、<東北 計> <関東 計>とも「採用対象・計」は76%。

・ <その他道府県 計>では82%と、<東北 計> <関東 計>を上回る。

✓ 正社員規模別にみると、規模が大きくなるほど「採用対象・計」の割合も高く、100人以上の2層では約8割。

✓ 養成人物像必要度別にみると、必要と思う層における「採用対象・計」は93%。

## ■ 卒業生の採用意向（全体／単一回答）

各学科の卒業生について、貴社・貴機関・貴団体としての程度採用意向をお持ちいただけますか。

それぞれ貴社・貴機関・貴団体のお考えに最も近いものをお選びください。（それぞれひとつに○） a.地域総合学部 地域コミュニティ学科

	n	採用意向					採用意向・計		実数		
		採用対象・計		どちらとも いえない	採用対象外・計		採用 対象・計	採用 対象外・ 計	採用 対象に なる	採用 対象・計	
		採用対象に なる	おそらく 採用対象に なる		あまり 採用対象に ならない	採用対象に ならない					無回答
*凡例		採用対象に なる	おそらく 採用対象に なる	どちらとも いえない	あまり 採用対象に ならない	採用対象に ならない	無回答	採用 対象・計	採用 対象外・ 計	採用 対象に なる	採用 対象・計
【企業】全体	(n= 666)	54.1	22.7	16.2	5.0	1.2	0.9	76.7	6.2	360	511
<東北 計>	(n= 355)	55.2	20.8	17.5	4.8	0.6	1.1	76.1	5.4	196	270
●北東北 計	(n= 63)	61.9	14.3	14.3	7.9	1.6		76.2	7.9	39	48
●南東北 計	(n= 292)	53.8	22.3	18.2	4.1	0.7	1.0	76.0	4.8	157	222
宮城県	(n= 186)	54.8	18.8	22.0	3.2	0.5		73.7	3.8	102	137
山形県	(n= 54)	51.9	29.6	14.8	1.9	1.9		81.5	1.9	28	44
福島県	(n= 52)	51.9	26.9	7.7	9.6	1.9	1.9	78.8	11.5	27	41
<関東 計>	(n= 233)	51.9	24.0	15.9	5.2	2.1	0.9	76.0	7.3	121	177
●一都三県 計	(n= 225)	51.1	24.0	16.4	5.3	2.2	0.9	75.1	7.6	115	169
東京都	(n= 203)	51.7	24.1	15.8	5.4	2.0	1.0	75.9	7.4	105	154
<その他道府県 計>	(n= 78)	55.1	26.9	11.5	5.1	1.3		82.1	6.4	43	64
正社員規模別											
100人未満	(n= 136)	41.2	22.1	23.5	8.1	3.7	1.5	63.2	11.8	56	86
100～500人未満	(n= 278)	56.5	23.4	15.1	4.3	0.4	0.4	79.9	4.7	157	222
500人以上	(n= 249)	58.6	22.1	13.7	4.0	0.8	0.8	80.7	4.8	146	201
2022年度 新卒採用方針											
増える・同程度	(n= 522)	56.5	20.9	15.5	4.6	1.3	1.1	77.4	5.9	295	404
減る・行わない・未定	(n= 141)	44.0	29.8	19.1	6.4	0.7		73.8	7.1	62	104
養成人物像 必要度別											
地域コミュニティ学科 必要・計	(n= 460)	70.2	22.6	5.4	0.9	0.4	0.4	92.8	1.3	323	427
どちらともいえない～必要なし・計	(n= 198)	18.2	23.2	40.9	14.6	3.0		41.4	17.7	36	82

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / □=5ポイント以上高い / ○=5ポイント以上低い

# 卒業生の採用意向：地域総合学部 政策デザイン学科

- ▶ 地域総合学部 政策デザイン学科の卒業生に対して、全体の48%が「採用対象になる」と回答。
- ▶ 「おそらく採用対象になる」まで合わせた「採用対象・計」は72%。  
 ✓ 企業数に換算すると「採用対象・計」は478社。

- ✓ 所在エリア別にみると、「採用対象・計」が最も高いのは<その他道府県 計>（80%）  
 ・ <東北 計>（69%）を<関東 計>（73%）が上回る。

- ✓ 正社員規模別にみると、規模が大きくなるほど「採用対象・計」の割合も高く、100人以上の2層では75%前後。

- ✓ 養成人物像必要度別にみると、必要と思う層における「採用対象・計」は92%。

## ■ 卒業生の採用意向（全体／単一回答）

各学科の卒業生について、貴社・貴機関・貴団体としてどの程度採用意向をお持ちいただけますか。  
 それぞれ貴社・貴機関・貴団体のお考えに最も近いものをお選びください。（それぞれひとつに○）

	n	採用対象・計		どちらとも いえない	採用対象外・計		無回答	実数 (%)		実数 (社)	
		採用対象に なる	おそらく 採用対象に なる		あまり 採用対象に ならない	採用対象に ならない		採用 対象・計	採用 対象外・ 計	採用 対象に なる	採用 対象・計
*凡例											
【企業】全体	(n= 666)	48.2	23.6	19.5	5.9	1.7	1.2	71.8	7.5	321	478
<東北 計>	(n= 355)	47.0	22.3	22.0	5.6	1.4	1.7	69.3	7.0	167	246
●北東北 計	(n= 63)	55.6	19.0	15.9	6.3	1.6	1.6	74.6	7.9	35	47
●南東北 計	(n= 292)	45.2	22.9	23.3	5.5	1.4	1.7	68.2	6.8	132	199
宮城県	(n= 186)	44.6	19.9	27.4	4.8	1.6	1.6	64.5	6.5	83	120
山形県	(n= 54)	42.6	29.6	22.2	3.7	1.9	1.9	72.2	3.7	23	39
福島県	(n= 52)	50.0	26.9	9.6	9.6	1.9	1.9	76.9	11.5	26	40
<関東 計>	(n= 233)	48.9	24.0	17.2	6.9	2.1	0.9	73.0	9.0	114	170
●一都三県 計	(n= 225)	48.0	24.0	17.8	7.1	2.2	0.9	72.0	9.3	108	162
東京都	(n= 203)	48.8	23.6	17.2	7.4	2.0	1.0	72.4	9.4	99	147
<その他道府県 計>	(n= 78)	51.3	28.2	15.4	3.8	1.3	—	79.5	5.1	40	62
正社員規模別											
100人未満	(n= 136)	30.9	26.5	25.7	9.6	4.4	2.9	57.4	14.0	42	78
100～500人未満	(n= 278)	49.3	25.2	18.7	5.4	1.1	0.4	74.5	6.5	137	207
500人以上	(n= 249)	56.6	20.1	17.3	4.4	0.8	0.8	76.7	5.2	141	191
2022年度 新卒採用方針											
増える・同程度	(n= 522)	50.0	22.8	18.6	5.6	1.5	1.5	72.8	7.1	261	380
減る・行わない・未定	(n= 141)	40.4	27.0	23.4	7.1	2.1	—	67.4	9.2	57	95
養成人物像 必要度別											
政策デザイン学科 必要・計	(n= 392)	67.1	25.0	5.9	1.3	0.5	0.3	92.1	1.8	263	361
どちらともいえない～必要なし・計	(n= 262)	21.8	21.8	40.5	12.6	3.4	—	43.5	16.0	57	114

※「全体」より ■ =10ポイント以上高い / □ =5ポイント以上高い / ○ =5ポイント以上低い





調查票・提示資料

## 東北学院大学 新学部設置に関するアンケート

### 調査ご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本学の教育・研究にご理解ご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、本学では、2023年4月に4学部5学科の設置を計画しています。そこで、このたびの設置計画をより充実させるために、本学への求人実績がある企業の新卒採用ご責任者・ご担当者の皆さまから率直な意見をお聞きし、学部改組の参考にさせていただきたいと思い、アンケートを実施することとなりました。

業務ご多用の折、大変お手数ではございますが、下記のとおりアンケート用紙をお送りさせていただきましたので、本調査の主旨をご理解の上、何卒ご協力いただきたくお願い申し上げます。ご回答内容については統計的に処理され、個人を特定できないよう集計・分析いたします。

**※現在設置構想中であり学部学科名称は仮称のため、変更となる可能性があります。**

敬具

2021年10月

東北学院大学

●調査締切日 **2021年11月20日(土)** までに投函いただけますようお願い致します。  
※同封の返信用封筒(切手不要)にてご投函下さい。

貴社・貴機関・貴団体名		部署名	
-------------	--	-----	--

※本調査の実施は、所定の契約を結んだ上、下記調査会社に業務委託しております。  
(調査委託会社)  
株式会社ディ・プラス 担当:高石、橋口  
住所:〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-6 BIZMARKS 麹町604  
電話:03-5776-3805 e-mail:[post@dplusd.co.jp](mailto:post@dplusd.co.jp)

# 調査票(A3 2つ折り形式)

はじめに、貴社・貴機関・貴団体についてお聞きます。

## F1. 貴社・貴機関・貴団体の主業種をお選びください。(ひとつに○)

- |                 |                |                     |
|-----------------|----------------|---------------------|
| 1. 農業、林業、漁業、鉱業  | 2. 建設業         | 3. 電気・ガス・熱供給・水道業    |
| 4. 製造業          | 5. 電気通信・IT 関連業 | 6. 放送・新聞・出版業        |
| 7. 運輸・運送業、郵便業   | 8. 卸売業、小売業     | 9. 金融業(銀行・信託・証券・貸金) |
| 10. 保険業         | 11. 不動産業・リース業  | 12. 学術研究、専門・技術サービス業 |
| 13. 宿泊業、飲食サービス業 | 14. 教育、学習支援業   | 15. 生活関連サービス業、娯楽業   |
| 16. 医療機関、福祉関連業  | 17. その他サービス業   | 18. 官公庁・自治体・公共団体    |
| 19. その他( )      |                |                     |

## F2. 貴社・貴機関・貴団体の所在地をお選びください。(ひとつに○)

- |   |        |        |        |        |        |
|---|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1. 宮城県                                  | 2. 山形県 | 3. 福島県 | 4. 岩手県 | 5. 秋田県 | 6. 青森県 |
| 7. 北海道→あてはまるものに○(道南 道央 道東 道北)           |        |        |        |        |        |
| 8. 関東 →あてはまるものに○(栃木 群馬 茨城 埼玉 東京 千葉 神奈川) |        |        |        |        |        |
| 9. その他府県 →県名をお書きください( )                 |        |        |        |        |        |

## F3. 貴社・貴機関・貴団体の正社員数をお選びください。(ひとつに○)

- |                  |                    |                |
|------------------|--------------------|----------------|
| 1. 50 人未満        | 2. 50～100 人未満      | 3. 100～500 人未満 |
| 4. 500～1,000 人未満 | 5. 1,000～3,000 人未満 | 6. 3,000 人以上   |

## F4. 貴社・貴機関・貴団体で過去 3 年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。(いくつでも○)

- |                            |           |        |         |
|----------------------------|-----------|--------|---------|
| 1. 高校卒                     | 2. 短大卒    | 3. 大学卒 | 4. 大学院卒 |
| 5. 専門学校卒                   | 6. その他( ) |        |         |
| 7. 新卒の採用はなかった →F5 へお進みください |           |        |         |

## F5. 貴社・貴機関・貴団体の 2021 年 4 月入社の新卒採用状況についてお聞きます。 大学・大学院卒の方の採用数としてあてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

- |            |                                 |            |              |
|------------|---------------------------------|------------|--------------|
| 1. 1～9 人   | 2. 10～49 人                      | 3. 50～99 人 | 4. 100～499 人 |
| 5. 500 人以上 | 6. 新卒は採用しなかった(0 人) →F6 へお進みください |            |              |

SF1. 2021 年 4 月入社における本学卒業生の採用実績としてあてはまるものをお選びください。  
「1.採用した」場合は、およそでかまいませんので、その人数をお書きください。

- |                  |            |              |
|------------------|------------|--------------|
| 1. 採用した →約( )人程度 | 2. 採用はなかった | 3. 未詳(わからない) |
|------------------|------------|--------------|

## F6. 2022 年 4 月入社の新卒採用数について、現時点でどのようにお考えですか。 貴社・貴機関・貴団体の方針に近いものをお選び下さい。(ひとつに○)

- |                    |                   |                   |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 2021 年よりも増えると思う | 2. 2021 年と同程度だと思う | 3. 2021 年よりも減ると思う |
| 4. 新卒の採用は行わない予定    | 5. 未定(わからない)      |                   |

## F7. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。 貴社・貴機関・貴団体にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。(いくつでも○)

- |                   |           |        |         |
|-------------------|-----------|--------|---------|
| 1. 高校卒            | 2. 短大卒    | 3. 大学卒 | 4. 大学院卒 |
| 5. 専門学校卒          | 6. その他( ) |        |         |
| 577. 新卒の採用は行わない予定 |           |        |         |



**F8. 今後の新卒者を含めた採用活動に際し、貴社・貴機関・貴団体ではどのような能力を重視するお考えですか。あてはまる能力を以下からすべてお選びください。(いくつでも○)**

- |                |          |          |             |
|----------------|----------|----------|-------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 主体性   | 3. 協調性   | 4. チャレンジ精神  |
| 5. 誠実性         | 6. 責任感   | 7. 論理性   | 8. 専門性      |
| 9. 職業観         | 10. 創造性  | 11. 柔軟性  | 12. 信頼性     |
| 13. リーダーシップ    | 14. 一般常識 | 15. 外国語力 | 16. 日本語力    |
| 17. 数的処理力      | 18. 倫理観  | 19. 感受性  | 20. その他 ( ) |

ここからは、東北学院大学全体、および 2023 年 4 月に設置予定の「新学部(学科)」のことについてお聞きします。別途配布したカラー資料の内容をよくお読みいただきお答えください。

**Q1-1. 以下 a-f の中で、貴社・貴機関・貴団体がご存じの東北学院大学の特徴をお選びください。(いくつでも○)**

**Q1-2. 以下 a-f の東北学院大学の特徴は、学生が学ぶ場としてどの程度魅力があるとお感じになりますか。それぞれ該当する番号に○をつけてください。(それぞれひとつに○)**

東北学院大学の特徴		Q1-1	Q1-2			
		知っているもの	とても魅力がある	ある程度魅力がある	あまり魅力がない	全く魅力がない
a	LIFE LIGHT LOVEをスクールモットーとし、学問や学生生活を通じた人格教育を行っていること。	a	1	2	3	4
b	創立135年を迎えた北海道・東北地区最大の私立総合大学であること。	b	1	2	3	4
c	2023年にキャンパス統合し、仙台駅徒歩約15分の土樋・五橋のアーバンキャンパスとなること。	c	1	2	3	4
d	キャンパス統合により学問分野を越えた幅広い教養と専門知識・技能が学べること。	d	1	2	3	4
e	就職希望者の就職率が94.8%(2020年度卒業生)であること。	e	1	2	3	4
f	予約型入学時給付奨学金「LIGHT UP奨学金」をはじめ奨学金が充実していること。	f	1	2	3	4

---次のページにお進みください---

**Q2. 各学部で“養成する人物像”について、貴社・貴機関・貴団体にとって今後どの程度必要になると考えますか。それぞれ貴社・貴機関・貴団体のお考えに最も近いものをお選びください。(それぞれひとつに○)**

学部名	学科名	必要になる	ある程度必要になる	どちらともいえない	あまり必要にならない	必要にならない
地域総合学部	地域コミュニティ学科	1	2	3	4	5
	政策デザイン学科	1	2	3	4	5
情報学部	データサイエンス学科	1	2	3	4	5
人間科学部	心理行動科学科	1	2	3	4	5
国際学部	国際教養学科	1	2	3	4	5

**Q3. 各学科の卒業生について、貴社・貴機関・貴団体としてどの程度採用意向をお持ちいただけますか。それぞれ貴社・貴機関・貴団体のお考えに最も近いものをお選びください。(それぞれひとつに○)**

学部名	学科名	採用対象になる	おそらく採用対象になる	どちらともいえない	あまり採用対象にならない	採用対象にならない
地域総合学部	地域コミュニティ学科	1	2	3	4	5
	政策デザイン学科	1	2	3	4	5
情報学部	データサイエンス学科	1	2	3	4	5
人間科学部	心理行動科学科	1	2	3	4	5
国際学部	国際教養学科	1	2	3	4	5

**Q4. 東北学院大学全体、設置を予定している新学部(学科)に対するご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも構いませんのでご記入ください。**

質問はこれで終了です。ご協力いただき誠にありがとうございました。

# 提示資料 (A4 8頁、観音開き形式)

表紙

裏表紙



# TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

2023年4月、東北学院大学は4学部5学科の新設を予定しています。  
(※設置構想中)

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

■新学部・学科の設置の理由		
<b>地域社会学部地域コミュニティ学科</b> (1) 地域という地域で学ぶ意義。 (2) 地域が自然、産業、観光、福祉など多様な要素から構成され、相互に関連していることの本質的・複層的なところを学ぶ。 (3) 地域問題や社会づくりについて幅広く、地域が抱える問題を、そこで生活する多様な人々の視点から捉え、解決の方向性を探ることができ、学ぶ。	<b>情報学部データサイエンス学科</b> (1) 高い需要を持ち社会に貢献しようとする人材を育成する。 (2) 情報を通じて社会を理解しようとする複雑多岐の関心に対応できる。 (3) 社会で求められる情報スキル、創造性、倫理観、課題解決能力を身に付ける。 (4) 情報と社会の深い関わりに対応できる能力を身に付ける。	<b>国際学部国際関係学科</b> (1) 世界のさまざまな国や地域における社会・文化・歴史・言語の多様な知識と表現力を構築し、グローバルな視点で多岐にわたる課題の解決を図ることが出来る人材の育成。 (2) グローバルな視点の発見を通して生じる国際や地域を越えた共通課題を自ら発見し、思考と努力を込め、粘り強く解決策を提案する人材の育成。
<b>地域社会学部健康デザイン学科</b> (1) 地域社会や社会経済システムと健康との関係に於いて専攻する人材を育成する。 (2) 地域で生活する人々の様々な健康課題の背景、原因、経済性、さまざまな役割や手段、実用性など多岐にわたる知識も、医療の中で社会や市民生活に活かす知識として習得できる人材を養成する。 (3) 地域課題について公共行政、経営産業、民間企業や多様な関係者から協働提案を行うことが出来る人材を養成する。 (4) 自ら地域の課題を捉えその解決のための実践を行う力・勇気となることのできる主体的な人材を養成する。	<b>人間学部心理行動科学科</b> (1) 人間の行動とその環境、及びそれらを理解する意義について、深い理解と実践を養い、実践する。 (2) 人間の多様な行動の科学的な思考力、洞察力を養い、実践する。 (3) 理解の社会生活に活用できる能力、それを活かすための、自らの実践と課題とを主体的に追究することが出来る。 (4) 知の力で、他者への、心は人間社会の役にたつことのできる人材を養成する。	(1) 国語科の発展として、自らの表現力やコミュニケーション力(読解、執筆など)の成長に貢献し、グローバルなコミュニケーション力(読解)の成長に貢献し、グローバルな視点から社会や市民生活に活用できる人材を養成する。 (2) 国語科の発展として、自らの表現力やコミュニケーション力(読解、執筆など)の成長に貢献し、グローバルな視点から社会や市民生活に活用できる人材を養成する。

※設置計画は予定であり、詳細内容は変更する場合があります。



東北学院大学 仙台市青葉区土樋一丁目1-1  
〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目1-1  
<https://www.tohokugakuin.ac.jp>

観音 扉ページ (左右)

この都市で、その未来へ。  
融合する学びの先に新しい世界がみえる。

伝統

X

創世

脈々と受け継がれる「LIFE LIGHT LOVE」の精神



昨日のあたりまえが、今日もそうとは限らない。  
そんな目まぐるしく変化し続ける社会  
広がり続けるグローバル化の中で求められるのは、  
多角的な視点と融合した知識を備える人ではないでしょうか。

本リーフレットでは、その新しい時代を見据え、2023年に誕生する  
フィールド×発見、共創力×創造力、分析力×開闊力、ココロ×カラダ、ことば×教養  
それぞれの学びが融合した、新たな学部・学科が予測する  
「あなたが創る未来」をご紹介します。

新しい学びは、新しい可能性へと続く扉。  
さあ、この扉を開いて新しい自分を見つけてください。

2023年4月、3つのキャンパスを1つ(土樋・五橋)に統合し新たに4学部5学科が誕生予定  
(※設置構想中)



仙台駅から徒歩約15分、地下鉄五橋駅南口の立地に、新しく五橋キャンパスが誕生します。キャンパスのランドマークとなる高層棟は地上16階建て、東北学院大学は土樋・五橋のアーバンキャンパスに定年層を合わせて約1万1000人の学生が集結し、領域を越えた文理融合の学びが実現します。またキャンパス統合にあわせて、地域社会学部(地域コミュニティ学科・健康デザイン学科)、情報学部(データサイエンス学科)、人間学部(心理行動科学科)、国際学部(国際関係学科)の4学部5学科を設置構想中です。4学部5学科名称はいずれも仮称

# 提示資料（A4 8頁、観音開き形式）

観音見開き内部（見開きで4学部5学科を横並びに掲載）

## 地域総合学部 地域コミュニティ学科 （卒業制）

🌟 入学定員：150名

フィールド × 発見

### 地域に学び、 地域の未来を構想する

**養成する人材像**

多様な背景から成り立つ地域を深く理解し、地域住民の視点で、地域の課題を解決していくことのできる人材を育てる。

**地域総合学部地域コミュニティ学科の学びの特徴**

<p><b>カリキュラム</b></p> <p>自然・産業・教育・福祉など多様な要素から成り立つ地域を深く理解し、地域住民の視点で、地域の課題を解決していくことのできる人材をめざします。そのための講義科目・演習科目・実習科目を豊富に取り入れたカリキュラムを用意しています。</p>	<p><b>研究</b></p> <p>1年生から多様な学問分野の体系的なフィールドワークを開始します。学年が上がるにつれて、より専門的な技法に基づく調査・研究を深めていきます。夏休みなどを利用した海外地域実習もありです。大学と現場での学びの両面から地域の現状や課題について探究していきます。</p>
--	--

**将来イメージ** （業界・職種の可能性）

公務員 教員 民間企業（金融・保険業、運輸業、卸売・小売業など） 地域コンサルタント  
事務系 測量事務所 学校法人 社会福祉法人 NPO法人 医療法人 など

**取得できる資格** （予定）

中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭一種免許状（公民）  
社会教育主事任用資格 測量士補 地域調査士 G検定府士

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

## 地域総合学部 政策デザイン学科 （卒業制）

🌟 入学定員：145名

共感力 × 創造力

### 共生社会実現のための 政策デザイン

**養成する人材像**

地域社会を地球規模の社会経済システムとの関係で捉え、さまざまな地域の課題に多様な担い手が協働して取り組むための研究・教育を行うことで、課題の解決に資することができる人材を養成する。

**地域総合学部政策デザイン学科の学びの特徴**

<p><b>教育目標</b></p> <p>地域において多様な人々が共生するための政策を「デザイン」できる人材を育成します。経済格差、差別や不平等、災害復旧などの問題を広い視野で把握し、より良い社会を創るための政策を構想と協働して立案・実行する力を養います。</p>	<p><b>カリキュラム</b></p> <p>社会の現状を捉えるフィールドワークと、政策を作る理論的視点の双方をバランス良く学びます。①政府や行政のあり方を学ぶ（公共行政領域）②経済や産業の動向を知る（経済産業領域）③地域に生きる人々の生の現実を理解する（市民社会領域）という複層的な授業構成が特徴です。</p>
---	---

**将来イメージ** （業界・職種の可能性）

公務員 公企業 教員 民間企業（金融・保険業、サービス業、医療・福祉系など）  
社会福祉法人 NPO法人 など

**取得できる資格** （予定）

中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（公民）  
社会福祉主事任用資格

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

## 情報学部 データサイエンス学科 （卒業制）

🌟 入学定員：190名

分析力 × 展開力

### 情報を活かし 新たな時代を創り出す

**養成する人材像**

数理科学、情報科学や社会科学の幅広い学びを通して、社会が抱える種々の課題を自ら実践的に解決し、新たな価値を創造できる人材を育成する。

**情報学部データサイエンス学科の学びの特徴**

<p><b>教育目標</b></p> <p>現代社会はデータで満ち溢れています。解決すべき課題も多種多様です。私たちの生活をより豊かにするには、文脈の区別なくデータから必要な情報を見出し活用する力が不可欠です。その力を果すために必要な基礎知識と「問題発見力・解決力」「コミュニケーション力」を身に付け、それらを活かせる人材を育てます。</p>	<p><b>学ぶ内容</b></p> <p>データを軸として、コンピュータの操作から統計学や情報学、経営学や社会学の基礎を学びます。そのうえで、社会科学、情報科学、数理科学の視点から、自分の興味関心に基づいて専門性を高めつつ、地域や社会の問題も視野に入れて広く実践的に学んでいきます。</p>
---	--

**将来イメージ** （業界・職種の可能性）

民間企業（情報通信業、金融・保険業、製造業、卸売・小売業、サービス業など） データアナリスト  
公務員 中学・高校教員（数学） 高校教員（情報） 大学院進学

**取得できる資格** （予定）

中学校・高等学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（情報）  
社会調査士

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

## 国際学部 国際教養学科 (※定員)

🌀 入学定員: 130名

ことば × 教養

### 教養を手に 地域へ、世界へ

**養成する人材像**

日本が置かれた東アジアと世界の諸地域を幅広く視野に入れ、そこに住む人々の社会・文化・歴史・言語の多様性を学び、相互に共通の課題や問題を発見し、その解決に向けて国家、民族、地域の壁を越えて協働し、行動できる「良き地球市民」の育成をめざす。

**国際学部国際教養学科の学びの特徴**

**学ぶ内容**

国境を越えて文化の差が押し寄せる現代を生き抜くための教養は、目の前の問題が実は過去の歴史や遠くの出発点と繋がっていることを理解することから始まります。世界を形作る言語・文化・歴史・社会の仕組みなどを学び、広い視野で課題の解決方法を考えることができる国際人をめざします。

**カリキュラム**

英語、中国語、韓国語のいずれかを選んで、1～2年次は選3回の授業で集中的に、3年次も選2回で継続して学び「使える外国語」にします。留学も推奨。教員集団は多国籍で、研究分野も多様です。日本や外国の言語・文化・歴史・社会についての講義が、日本語だけでなく英語でも行われます。

**将来イメージ** (業界・職種の可能性)

<input type="checkbox"/> 民間企業(サービス業、対売・小売業、製造業、金融・保険業など)	<input type="checkbox"/> 情報通信業
<input type="checkbox"/> 公務員(国内外の行政機関勤務を含む)	<input type="checkbox"/> 国際NGO・NPO職員
<input type="checkbox"/> 大学教員	<input type="checkbox"/> 日本語学校教員

**取得できる資格** (予定)

日本語教員基礎資格

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

4

## 人間科学部 心理行動科学科 (※定員)

🌀 入学定員: 165名

ココロ × カラダ

### 人間の心と身体を 科学する

**養成する人材像**

人間生活の抱える様々な問題に現実的に対峙すべく、人間を多角的・実証的に捉える力を備え、健康的な生のあり方を追求する人材を養成する。

**人間科学部心理行動科学科の学びの特徴**

**設立の背景**

人間の心を正しく理解するには、心の内にとらわれるだけでは不十分です。心と身体はつながっているため、身体のことを知る必要があります。さらに、心は人と人との関係の中で作られるので、社会を知ること大切です。人間の心と行動をより深く、科学的に学ぶために、この学部が誕生しました。

**資格**

公認心理師は、2017年に誕生した日本初の心理職における国家資格です。本学科では、公認心理師の国家試験受験資格取得要件となる学部科目を履修することができます。また、心と身体につながりを意識した学びを通して、本学初の保健体育の中学校・高等学校教諭一種免許状取得ができるよう設置構想中です。

**将来イメージ** (業界・職種の可能性)

<input type="checkbox"/> 民間企業(情報通信業、サービス業、教育・学習支援業、医療・福祉業など)	<input type="checkbox"/> 公務員(保健体育)
<input type="checkbox"/> 公務員(保健職員)	<input type="checkbox"/> 中学校・高校教員(保健体育)
<input type="checkbox"/> 公認心理師対応大学院進学 など	

**取得できる資格** (予定)

<input type="checkbox"/> 公認心理師(受験資格の一部)	<input type="checkbox"/> 中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)
<input type="checkbox"/> 認定心電士	<input type="checkbox"/> 社会調査士

※設置計画は予定であり、学部学科名称、取得可能な資格などの計画内容は変更する場合があります。

3







ラ・フランスは、収穫したばかりでは固く、おいしそうに見えないかもしれませんが。しかし、熟すにつれてやわらかくなり、さわやかでしっかりとした甘みと豊かな香りを放ちます。美しさにおいても食文化においてもこだわりの強いフランス人が、祖国フランスの名前を付けたほどの果物です。  
 学生の皆さんが学びを深めていくのと同時に、その素質を磨き、可能性を大きく広げていけるようラ・フランスのビジュアルに願いを込めています。

 **東北学院大学**  共生社会経済学科   
 TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY [大学ホームページ] <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1  
 [入試課] TEL.022-264-6455(直) FAX.022-264-6377 E-mail.nyushi@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

経済学で  
 現実を捉え、  
 現場から  
**共生社会**を  
 構想する。

専門知と実践知の融合

# 共生社会経済学科

2022年度 学科ガイド





# 学びのポイント

## 「共生社会」をつくる ―共生社会経済学科の取り組み―

### 転換の時代に

私たちの社会には、性別、年齢、国籍、民族、出身地域、身体条件などが異なり、また価値観や利害関係も異なる、多様な人びとが生きています。そうした違いを超えて、人びとが互いを尊重し、誰もが幸福で豊かな人生を歩めるような社会。「共生社会」と私たちが呼ぶ、そんな社会をつくるためにはどうしたらよいのか、共生社会経済学科は問い続けてきました。

2009年、経済学を基礎にしてこの問いに取り組むための学科として、共生社会経済学科は産声をあげました。その時すでに、私たちの社会は、少子高齢化により労働や社会保障の仕組みを大きく見直さなければならない時期を迎えていました。同時に、グローバル化によって、人の交流とモノの流通はもはや一国単位では捉えることが難しくなりました。その後、状況は加速度的に進行し、持続可能かつ国境を越える普遍性をもった社会・経済システムの構想が、不可避な状況になったと言えるでしょう。私たちは今、間違いなく新たな社会制度を構築すべき歴史の転換点に立っているという実感を持つべきです。

### 多様な学びと現場の往復

そのためには、なによりもまず正しい知識をもとに、論理的な思考をめぐらすことができる学問的な力が必要です。共生社会経済学科では、経済学の基礎はもちろん、社会保障や社会福祉、グローバル経済や財政について、その仕組みをしっかりと学びます。

他方で、そうした学問的思考を「共生社会」の構想に繋げていくためには、自分とは異なる立場に置かれた人びとの人生に対する想像力が必要です。多様性の理解なくしては「共生」を考えることもできないからです。そのために私たちの学科では、さまざまな社会問題についても深く学びます。世代間や地域間の格差、マイノリティへの差別、そして2011年3月11日以降、東北の地が今なお抱える困難。こうした問題の考察を通して、現在とは異なった、より良いシステムを作るための想像力を養います。

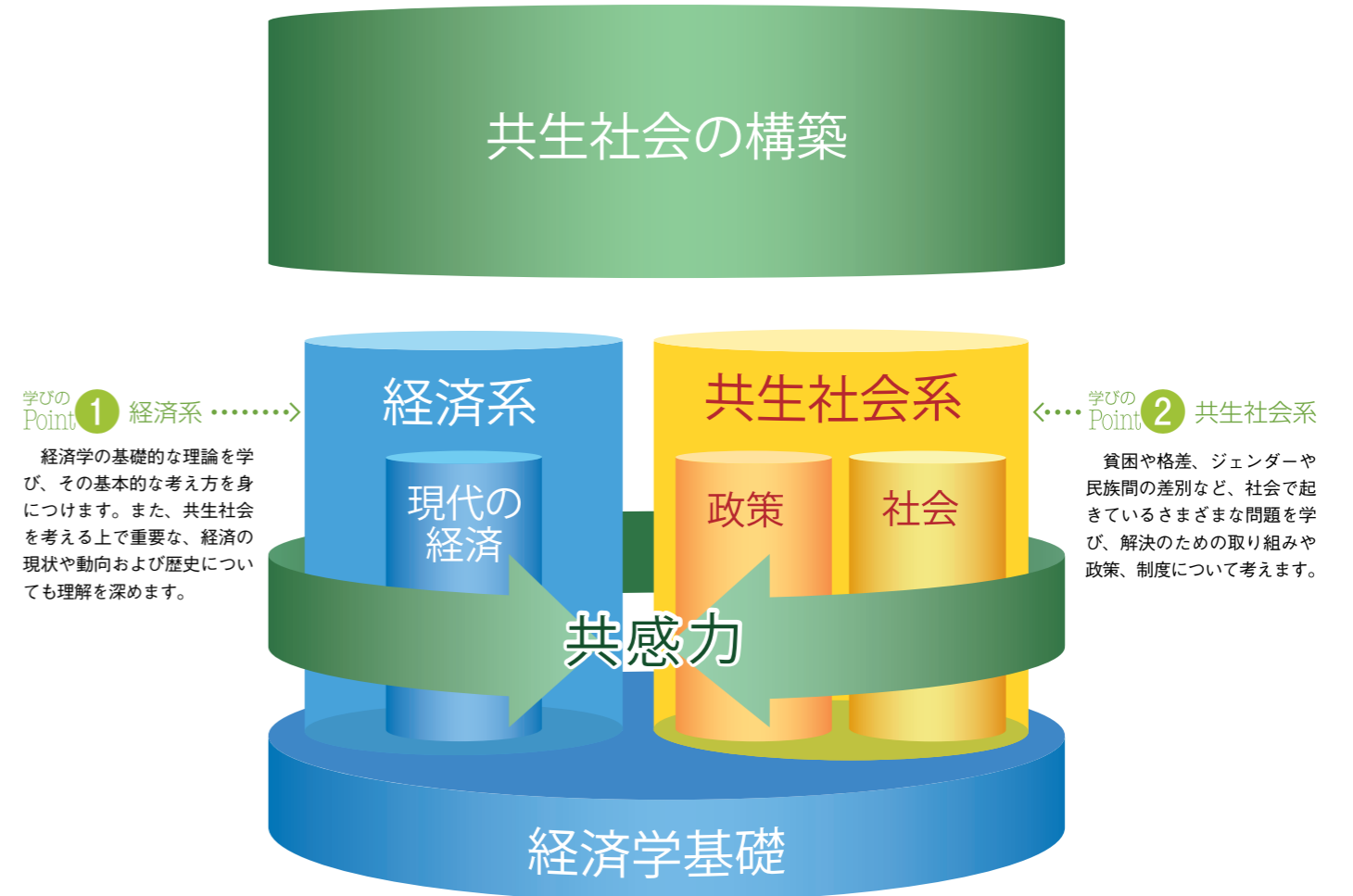
さらに、教室で学んだ知識を実際に社会生活の現場で活かし、同時に現場から考察すべき課題を教室へと持ち帰るために、フィールドワークや演習の授業、ボランティアなど、キャンパスの外で学ぶ機会もさまざまに用意されています。

### ともに「共生社会」へ

本学科では、こうした学びを通して、多くの学生たちがまだ見ぬ「共生社会」の姿を思い描き、模索を続けてきました。それは決して易しくはなく、未だ道半ばではあります。しかし、それでも挑戦する価値のある課題であり、なにより自分自身の人生をより豊かなものにしてくれます。私たちはそう考え、これからも皆さんと共にその課題に取り組み続けたいと願ってやみません。

学科教員一同

共生社会経済学科では、経済学をベースに共生社会について学びます。社会に生きる人びとの多様性に対する理解を深め、共感する力＝「共感力」を磨き、教室での学びと現場での実践の双方から、共生社会について具体的に考えます。



充実した講義科目とともに、フィールドワーク(現場での調査や体験)なども取り入れた多彩な学びを用意しています。現実に即した課題発見・解決の力を身に付けることを目指します。

### 学びのPoint 3 小規模な学科の特徴を生かした教育

演習など少人数による科目はもちろん、講義科目でも同じ学科の仲間と多く接します。切磋琢磨し、支えあいながら、共に真摯に学ぶ環境で、大学生としての成長をより確かなものとして実感できるでしょう。

### 学びのPoint 4 入門科目から応用科目へと体系的に学習

専門教育科目の2つの軸となる「経済系」と「共生社会系」を、入門科目から応用科目へと体系的に積み重ねて学びます。現実の生活に即した問題を、経済学の視点にくわえて、さまざまな視点から考えられる力を身に付けます。



# 講義・ゼミ・現場と多彩に学ぶ 共生社会経済学科の4年間

共生社会経済学科では、経済学を身につけるための科目と、社会問題について考えるための科目の両方を、1年生のうちからしっかりと学びます。2年生からは演習科目とフィールドワーク科目による、より深い、また現場に根ざした学びが始まります。2016年度からはe-learningも導入。パソコンやスマートフォンを用いた問題演習やレポートチェックで皆さんの学習をサポートします。



※このページでは学科の特徴を示す専門科目のみを、一部省略して紹介しています。  
※カリキュラムにはこのほかに教養教育科目、外国語科目、教職に関する科目、隣接科目などがあります。詳しくは大学案内をご覧ください。



## 〈理念・目的〉

経済学のエッセンスを学びながら、年代や性別、ハンディキャップ、民族・文化の異なる多様な他者への理解を深め、共に生きる発想に基づいて、新たな社会経済システムを構想し実践できるような人材の育成を目指す。

## 〈教育目標〉

1. 経済・政策・社会の視角から現代社会について理解を深め、新たな社会経済システムの構築に向けた提言能力や実践能力をもつ人材の育成を目指す。
2. 特に、人口減少・少子高齢化の下で、長期にわたって持続可能な社会経済システムを考える力を持つ人材の育成を目指す。
3. 自立した個人として、より望ましい人生を送るための生きる力と思考力を持つとともに、人と人との関係性のあり方にも配慮できる人材を養成することを目指す。

## 〈学士課程の到達目標〉

1. 建学の精神を基礎に、自己と他者の自立性を尊重し、社会において自ら果たすべき役割や責任を自覚し、他者と協働しつつ社会に貢献しようとする態度をもつこと。
2. 学ぶことの意義を理解し、その基礎となる技能(コミュニケーション能力や情報リテラシーなど)の習得を通して、「自ら考える力」を身につけること。
3. 経済学の基礎・応用知識を体系的に理解し、それを基礎に現代社会の諸問題を把握し、分析する力をもつこと。
4. 現代日本における人口減少・少子高齢化という未曾有の社会的趨勢について、経済のみならず、社会構造の様態や政策、市民活動という観点から多角的に理解し、分析できる力をもつこと。
5. 生のスタイルの多様性を承認し、各人が尊厳ある生を営むことのできる「共生社会」の意義を理解し、人口減少・少子高齢化社会に対応しうる新たな社会経済システムの構築に向けた構想力、提言能力や実践的な解決能力を身につけること。
6. 国内外の不平等や経済格差、種々の差別の問題に対する関心と洞察力をもち、公正な社会と開かれた人間関係を志向する態度を身につけること。

## 教員一覧

石川 真作	多文化共生社会論
郭 基煥	共生社会概論
熊沢 由美	社会保障論
黒坂 愛衣	現代社会問題論
小宮 友根	ジェンダー論
齊藤 康則	ボランティア・NPO 論
佐久間 香子	社会開発論
佐藤 滋	地方財政論
佐藤 純	経済史
佐藤 康仁	加齢経済論
谷 達彦	財政学
前田 修也	格差社会論
宮地 克典	労働経済論



経済学の基礎的な理論を学び、その基本的な考え方を身につけます。また、共生社会を考える上で重要な、経済の現状や動向についても理解を深めます。

## 経済史

### 歴史的視点からグローバリゼーションを考える

「グローバリゼーション」という言葉は1990年代頃から頻りに使用されるようになりましたが、その起源は大航海時代にまでさかのぼることができます。また、グローバリゼーションはスペイン、ポルトガル、イギリス、アメリカなどの欧米諸国によって主導されてきました。この授業では、現代のグローバリゼーションを歴史的視点から考察していく上で必要となる欧米経済史の基本的概念・用語について講義していきたいと思っています。



佐藤 純 教授  
【担当講義】経済史Ⅰ・Ⅱ  
【ゼミのテーマ】ボックス・ブリタニカの金融・経済的基盤を理解する

### ここに魅力!

イギリス生活の経験をもつ佐藤先生。先生が訪問したヨーロッパ各地の写真をまじえて進められるゼミは、海外旅行が趣味の私は、とても魅力を感じますし、学ぶテーマに興味を抱きかけにもなっています。  
八木田 浩平さん



## 加齢経済論

### 超高齢社会をどう乗り越えるか

2030年、日本は総人口の3分の1を高齢者が占める「超高齢社会」になります。超高齢社会では経済成長に大きな影響が生じるとともに社会を支えるための若い世代の負担が増え、「世代間格差」の問題がますます深刻になることが予想されます。将来世代へのツケ(負担)を先送りしている現在の社会・経済システムは持続不可能です。加齢経済論では超高齢社会における経済成長と世代間格差の問題に経済学の視点からアプローチします。



佐藤 康仁 教授  
【担当講義】加齢経済論Ⅰ・Ⅱ  
【ゼミのテーマ】加齢経済研究

### ここがポイント!

「未来石巻」という政策コンテストに取り組み、石巻市長の前で堂々と発表できたのも、親身にサポートしてくださった佐藤先生のおかげです。ゼミメンバーの仲が良く、みんなと学ぶのが、とても楽しいゼミです。  
柳澤 美玖さん・菊地 倫子さん



## 労働経済論

### 「働くこと」と向き合う

今日の日本の就業構造や大卒者のキャリアをみるかぎり、若者男女を問わず「労働」に従事することが求められています。しかし、その労働をめぐる、長時間にわたる過酷な労働や働いてもなお貧困であるといった問題などが起きています。さらに、技術の進歩によって、労働の中身も日々刻々と変化しています。労働経済論では、労働に関する様々なテーマを取り上げつつ、より良い働き方を実現・追求するための方策を考えていきます。



宮地 克典 准教授  
【担当講義】労働経済論Ⅰ・Ⅱ  
【ゼミのテーマ】「労働」をめぐる様々な問題と今後の課題

### ここがわかりやすい!

宮地先生は、ひとつの問題に対する答えだけでなく、「なぜそうなったのか」という原因も、しっかり教えてくださいました。優しい感じで話される先生の関西弁が、授業をより楽しくしています。  
進藤 悠子さん



貧困や格差、ジェンダーや民族間の差別、少子高齢化と社会保障のあり方など、社会で起きているさまざまな問題を学び、解決のための取り組みや政策、制度について考えます。

## 社会保障論・社会保険論

### 年金や医療、どのくらい知っていますか

社会保障論では、社会保障の歴史や財政などと共に、生活保護などの制度についても学びます。社会保険論では、日本の社会保障の中心である社会保険に焦点を当てます。社会保険は、共生社会を考える上で重要な政策であるだけでなく、実際に誰もが関わるものでもあるため、私たちが生活していく上でもとても重要なものです。また、フィナンシャル・プランナーを目指す人にも、ぜひ受講してほしいと思います。



熊沢 由美 教授  
【担当講義】社会保障論、社会保険論  
【ゼミのテーマ】少子・高齢社会における社会保障

### ここが深い!

優しくても頼もしい熊沢先生のもとで学んでいるのは、私たちに深い社会問題。全ゼミ生の意見をもとに課題図書を決めて、ペアでその内容を掘り下げます。身近なテーマだからこそ、考える力が身につきます。  
西條 夏美さん・鈴木 遊さん



## ナショナリズム論

「ネーションへの愛着」は何をもたらすのか

自らが所属するネーション（国民／民族、場合によっては国家）を尊重する意識や感情、行動を示すものとしてのナショナリズムは、しばしば人の激しい情動を動員し、ときに排外的な行動を誘発することがある。なぜだろう。グローバル化の時代においても勢いが衰えない執拗さは何故のものだろう。自分の民族を愛することは「当たり前」だろうか。「民族」は太古からあり、永遠に続くもの、だろうか。講義やゼミでは、ナショナリズムをめぐる諸現象とその由来、未来について考えることを一つの柱としています。



郭基煥 教授  
【担当講義】共生社会概論、グローバリズムとナショナリズム  
【ゼミのテーマ】現代社会における社会問題／文化現象

ここが充実！

郭先生のお話から多くのことを学び、「知ること」が楽しくなりました。思考する力が豊かになったとも感じています。そして花見、合宿、学祭出店など、イベントも盛りだくさん。充実した学生生活を送っています。中村侑樹さん

## 多文化共生社会論

外国人との共生をどう実現するか

近年、日本にも外国出身の住民や、外国人の観光客が目立つようになっています。外国人「労働者」や外国人「観光客」の存在は、日本経済を支える重要なファクターになっています。しかし、そうした人々は、「労働者」や「観光客」である以前にそれぞれの言葉や宗教、生活習慣、つまり「文化」を持った人間です。この授業では様々な国の事例を参照しながら、様々な文化を持った人々と共生できる社会のあり方を考えます。



石川真作 教授  
【担当講義】多文化共生社会論、文化の多様性  
【ゼミのテーマ】多文化共生をめぐる問題群を考察する

ここに発見がある！

日本に在留する外国人に関する討論や、課外活動での国際交流を通して、自分の中の価値観や世界が広がるような体験ができます。強面だけど(?) 気さくな石川先生は、ゼミ生の“第2のお父さん”のような存在です。渡邊悠太さん

## 社会開発論

「他人事」を「自分事」として世界と向き合おう

わたしはこれまで、ボルネオ島（マレーシア）の熱帯雨林で暮らしてきた人びとの生活から、人と自然のかかわり、開発と環境問題について研究してきました。日本にとって熱帯雨林はどこか遠くの「別世界」かもしれませんが、日本の日常生活は熱帯雨林からの恵みと切り離すことはできません。講義では、日本の日常の延長線上にある「別世界」にある諸問題を事例に、全ての人が持続可能で豊かに生きることができる社会について考えていきます。



佐久間香子 講師  
【担当講義】社会開発論  
【ゼミのテーマ】「発展途上国」から考える現代社会／環境と開発／資源開発問題

ここに重みがある！

「世界ではこういうことが起きている」だけで終わらせず、自分たちは何ができるのかを考え、学生同士で意見交換をしています。先生が見聞きしてきたことが随所に散りばめられ、重みのある学びができています。望月薫さん

## ボランティア・NPO論

誰が、何のために活動するのか

今から25年前の阪神・淡路大震災で注目されたボランティア。その取り組みは、東日本大震災をきっかけとして、災害直後のガレキ拾いから、農業・漁業の支援などへも拡がりを見せています。講義では、それに先立つ水俣病の被害者支援なども振り返りながら、戦後日本におけるボランティアの取り組みについて概説する一方、現在、非営利組織が直面しつつある休眠預金の利活用、社会的インパクト評価などの問題についても説明します。



齊藤康則 准教授  
【担当講義】ボランティア・NPO論  
【ゼミのテーマ】東日本大震災以降の市民社会と公共性のゆくえを考える

ここが楽しい！

「言葉だけは知っている」という概念や組織などを、実際に聞き取り調査などを通して理解を深めるゼミです。齊藤先生は、とてもおもしろい先生で、先生の体験談や雑談を待っている学生も多いのです。伊藤舜祐さん・小池茉里奈さん

## 差別問題論

当事者の声から考える

わたしは、ハンセン病問題および部落差別問題を中心に、日本の社会問題や差別問題の研究をしています。マイノリティ当事者たちの語りは、わたしたちに大きな気づきを与えてくれます。社会的多数者（マジョリティ）の立場にある者の日常からは見えにくい、社会的抑圧や排除の存在。そのなかを生き抜いてきた人々の、豊かな生きざま。当事者存在のさまざまなありよう……。講義では、当事者の生との〈出会い〉を大事にしたいと考えています。



黒坂愛衣 准教授  
【担当講義】現代社会問題論、現代社会と差別  
【ゼミのテーマ】日本の社会問題／差別問題—フィールドワークし、探求する

ここが刺激的！

黒坂先生は、自分で見聞きし、感じることを大切にしています。それを率直に言葉にして伝えられる環境もあります。さらに、さまざまな問題に取り組むメンバーがいるので、とても良い刺激を受けています。平井百香さん

## ジェンダー論

ジェンダー平等な社会をつくる

ジェンダー論は、私たち人間が「性別」を持つ存在であるということがどのように「社会的」なことながらであるか、またそのことがどのようにさまざまな不平等の問題とかかわっているかを深く学ぶ学問です。労働、恋愛、結婚、家族、教育、マスメディア、漫画やアニメなど身近な現象を通して、性と性別にかかわる問題が私たち全員の生活と深くかかわっていることを考えます。



小宮友根 准教授  
【担当講義】ジェンダー論、ジェンダー論の基礎  
【ゼミのテーマ】討論で学ぶジェンダー論

ここに気がついた！

文献を読んで「問い」をたて、ディスカッションをすることで考えをまとめていきます。実は「答え」同様、「問い」を見つけるのが難しいことに、やってみて気がつきました。これは新たな発見です。齋藤葵さん

## 地方財政論

不平等の現状を理解し、問題解決に立ち向かう

私のゼミではこれまで、所得格差・貧困問題をテーマに活動に取り組んできました。より具体的には、教育と進学格差、若年者雇用とブラック企業、震災復興とコミュニティ再生など、多岐に渡ります。また、例年、慶應義塾大学、埼玉大学、帝京大学、桃山学院大学、下関市立大学、弘前大学と合同でゼミ合宿を開き、大学を越えた交流・議論の場も作ってきました。社会問題の解決に意欲のある学生を待っています。



佐藤滋 准教授  
【担当講義】地方財政論Ⅰ・Ⅱ  
【ゼミのテーマ】格差・貧困問題の現在と福祉国家のゆくえ

ここに納得！

学生同士で意見を発表し合う機会が多く、意見交換しながら理解を深めることができます。「社会問題を解決し、人々の幸福に貢献したい」と思う学生にとって、最適な学びの場であると思います。千葉彩夏さん

## 財政学

持続可能な社会を支える財政のあり方を考える

財政学では政府の経済活動について学びます。保育、教育、社会保障、景気対策など、政府は税金を財源に様々な政策を行います。税金は何のためにどれくらい使うべきでしょうか、誰がどれくらい負担するべきでしょうか。日本の財政は巨額の借金を抱えていますが、財政の健全化はどのように実現できるでしょうか。講義やゼミでは財政学の基礎的な理論と日本財政の制度・現状を学び、持続可能な社会を支える財政のあり方について考えます。



谷達彦 准教授  
【担当講義】財政学Ⅰ・Ⅱ  
【ゼミのテーマ】現代日本の財政問題を考える

ここが刺激！

学生が中心となり、良い意味で自由に研究を進めています。それができるのは、谷先生が学生を見守り、多角的なアドバイスをくださるから。工場見学や他大学との合宿ゼミなど、大学外での活動も刺激になっています。佐川彬さん



# 社会を複眼的に捉えるフィールドワーク

フィールドワークは共生社会経済学科の目玉授業のひとつです。2年次に「フィールドワークの基礎」で6つの実習の概要を学び、3年次にその中から最大2つまで選んで履修できます。実習は大きくわけて調査系と体験系の2種類があり、調査系では被災地復興に携わる非営利組織の人たちや、マイノリティの人たちの声を聞き取ります。体験系では病院や高齢者施設、子育て支援施設などで実際に現場の労働を体験、また韓国訪問を通じて日韓関係についての理解を深めます。さまざまに立場の異なる人たちとの交流は、教室で学んだ知識を、社会の現場で使える、血の通ったものにしてくれるでしょう。

※フィールドワークの内容は変更されることがあります。

## 調査系 NPO (非営利組織) の社会的意義を学ぶ

特定非営利活動促進法の施行(1998年)から15年以上が経過する中、NPO・一般社団法人などの非営利組織は、私たちの日常生活の中でも多く見られるようになりました。とりわけ東日本大震災以降、宮城県では震災復興、被災者支援に取り組む団体も増加しつつあります。「大震災後の非営利組織のあり方に関する調査」をテーマとするこのフィールドワークでは、地域福祉・まちづくり・環境保護・教育支援などの分野において、実際に活動を担っている人々から話を伺うことを通じて、それぞれの団体が設立された経緯や歴史を知るだけでなく、非営利組織が現在直面している人材難・資金難などの組織課題を具体的に明らかにすることを主眼としています。



▲農業再生に取り組むNPOの代表から話を聞く

## 調査系 当事者の語りから社会問題を学ぶ

社会問題や差別問題の現場を訪問し、社会的弱者や社会的少数者の立場にある人びとがどのような人生を歩んできたのか、一人ひとりのライフストーリーをていねいにうかがい記録する「聞き取り」に挑戦します(福島県内の仮設住宅/関東地方の被差別部落/東北地方の国立ハンセン病療養所、いずれかを予定)。当事者との出逢いをとおして、当該の問題への理解を深めるとともに、わたしたちの社会が多様な人びとで構成されていることへの感性と、社会問題や差別問題を自分自身に結び付けて考えていく力を涵養します。自分とは異なる背景をもつ他者の語りを《共感的に理解する》ことが重要です。そのおもしろさ、奥深さを、ぜひ知ってください。



▲栃木の被差別部落でのライフストーリー聞き取り

## 調査系 多文化共生を学ぶ

このコースでは、様々な多文化共生の現場を訪ねて「参与観察」を中心とした調査を行います。参与観察とは自分自身で体験しながら学ぶ調査のやり方です。

外国出身の住民が増加してきたのを受けて、異なった文化を持った人々との共生を目指す「多文化共生」への取り組みが各地で行われるようになっていきました。こうした取り組みについて、宮城県周辺で行われているNPOなどによる外国人支援の現場に参加します。また、関東あるいは中部の外国人労働者の多い地域に出向き、イベントに参加するなどして、現地の外国人住民、NPO関係者や学生と交流しつつ、様々な取り組みを学ぶ機会を持ちます。



▲イスラム教のモスクでワークショップ

## Field Work 合同報告会

毎年、年度の終わりには「フィールドワーク合同報告会」が開催されます。それぞれのフィールドワークを受講した学生たちが、自分たちの活動内容とそこで学んだことを大勢の学生の前で発表する、授業の集大成の場です。学生たちは実習を振り返って報告書を作ったり、スライドを作成したりしながら、自分たちが何を学ぶことができたのかをあらためて整理して他の学生に伝えます。また、他の学生の報告を聞くことで、自分が足を運ばなかった多様な「現場」への想像力も養われます。現場で身につけた見識を披露する学生たちの表情はとても充実感にあふれています。みなさんも共生社会経済学科に入ったら、ぜひフィールドワークの醍醐味を感じてみてください。



## 体験系 熱帯雨林体験から私たちの暮らしを考える

このコースではマレーシアを訪問します。マレーシアと聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか?暑い、イスラム、オランウータン、あるいは、特に何も思い浮かばない、という人もいるでしょう。赤道直下に位置するこの国は、南シナ海をはさんで西側のマレー半島と、東側のボルネオ島があります。気候、政治、社会に違いがありますが、ともに古くから日本とのかかわりがある地域です。このコースでは主に東側にあるサラワク州の熱帯雨林とそこに暮らす人びとの生活を体験します。この体験を通して、熱帯アジアの自然や人、それらを取りまく事象について、日本で暮らす自分たちのことと関連付けて考察する視点と感性を身につけることを目的としています。



▲家族で陸稲の収穫をする様子

## 体験系 子育ての社会的支援の意義を学ぶ

「夫が働いてお金を稼ぎ、妻は家庭で子育てをする」、そんな社会は過去のものとなりつつあります。性別に関わりなく働き、また育児にも携わることができるようにすることは、自由で平等な社会を作り、少子化の困難を乗り越えるためのきわめて重要な課題です。他方で、特に女性が子育てに携わりながら働く環境はまだ十分に整っているとは言えません。そうした中で、子育ての社会的支援の意義はますます大きくなっています。このコースでは、仙台市内の児童館と子育て支援施設で実習をおこなうことで、子育て支援の意義を学びます。子どもたちはもちろん、職員や保護者の方々との交流を通じて、子育ての現場にどんな苦労や努力、工夫があるのかについて理解を深めましょう。



▲児童館で子どもたちと

## 体験系 施設実習を通して「福祉・医療の現場」を体験する

高齢者施設または病院で、職場体験またはボランティアを体験します。高齢者施設では、レクリエーションなどを通して利用者と交流します。病院では、総合案内や院内図書館、小児病棟での活動などを体験します。また、車いす体験や高齢者疑似体験、妊婦疑似体験も予定しています。

現場を体験することで、福祉・医療について理解を深めます。施設で出会う人たちとの交流を通して、自分とは年齢や健康状態が異なる人たちへの理解も深めます。また、施設へ行くことは社会に出ることでもあります。社会人として何が必要か、考える良い機会にもなります。



▲高齢者施設でのレクリエーションの様子



# さまざまな学びと活動

## 格差社会論

### 国内外の格差を解消するためには

オムニバス形式となっていて、複数の教員が担当する講義です。格差社会論では、国内外のさまざまな格差問題を取り上げます。講義内容をもとにした書籍も発行されていて、格差問題について多面的に、深く学ぶことができます。2021年度は、雇用格差、健康格差、世代間格差、アメリカ、中国、および韓国における格差などがテーマです。



## 特殊講義

さまざまな分野で活躍されている方々を講師としてお招きします。いま何がおきているのか、何が必要とされているのか。さまざまな分野の「現在」にふれてください。2021年度は「障害者福祉の基礎」と「社会における公衆衛生」の二つを予定しています。

皆さん、こんにちは。特殊講義I「障害者福祉の基礎」を担当しております伊藤です。私は生まれつきの希少難病により車いす生活を送っています。足が不自由なために外出困難であった経験から、外出のすることの喜びを多くの方へ伝えるためNPO活動をライフワークに、また、精神に障害がある方をサポートする仕事をしております。



伊藤 清市 先生

2016年4月から障害者差別解消法という法律がはじまりました。本大学でも障害がある学生が当然の権利として勉学に励めるよう、様々な施策に取り組んでおります。障害の範囲が拡大し、一目では障害があると認識できない人も増えている現在、皆さんの友人、知人等身近なところに障害がある人がいるというよい時代になりました。

皆さんに期待することは、社会の中にあるバリアに対する感受性を高め、自分の言葉で意見表明できること。それにより共感性が磨かれ共生社会を創る礎になるでしょう。

## ボランティア活動

### 人とふれあうことで、より地域に密着した支援を。

ボランティアステーションスタッフ  
共生社会経済学科4年 村上 ひなのさん

東日本大震災で私自身も被災し、たくさんの方々に支援をいただいたり、ボランティアの方々に助けていただきました。その経験から、「私も困っている人の助けになることができれば」という思いを抱くようになり、東北学院大学災害ボランティアステーションに入りました。現在は気仙沼や雄勝、牡鹿、山元、七ヶ浜などでの活動に参加しています。

ボランティアステーションでの活動を通して強く感じるのは、震災から10年近くが経過しようとしている現在も、ボランティアの手を必要としている人がいるということです。その一方で、被災地の方々の前を向いて進んでいる姿も印象に残ります。

また、ボランティア活動をして良かったと思うのは、各地域で生きる方々の“温かさ”を感じられたことです。さらに、その方々との交流を通して、地域の魅力も知ることができました。そして何と云っても「ありがとうございます」と声をかけていただけるのが、とてもうれしいですし、やりがいを感じます。活動を継続する中で、人と人とのつながりが構築できるのも、やって良かったと思う点です。



今後は、これまでのボランティア活動で実際に足を運んで知った地域の魅力を発信して、少しでもそこに住む方々のプラスになることができれば良いと思っています。このような機会を得られたのも、経済について学べるだけでなく、社会保障やボランティアといった分野も学べる共生社会経済学科ならではのことだと思います。現代社会について理解を深めながら、ボランティア活動も続けて、実りある大学生活にしていきたいです。

# 共生社会経済学科への期待の声

## ボランティア活動の中で、問題発見・解決能力を高める。

ぼくたち POSSE は、現代の労働・貧困問題を、若者自身で改善していく活動をしています。労働相談・生活相談を受け、現場の実態調査を行い、問題解決のための政策提言を行っています。ブラック企業問題にいち早く取り組み、日々の労働相談から現場の実態を明らかにし、社会に発信してきました。これらの取り組みは、行政がブラック企業対策を実施するなど、社会を動かす結果を生んでいます。

現在では、ブラック企業問題の他、ブラックバイトや奨学金、生活保護の問題に取り組んでいます。相談活動では労働法をはじめ各法律を駆使し、違法を是正させ権利の実現を支援します。現場に参加することで、大学生が生きた知識を実践的に学ぶ機会となります。社会をつくる担い手が増えていくことを期待しています。



NPO 法人 POSSE 仙台支部代表

ブラックバイトユニオン 相談員

森 進生さん

### Profile

1989年生まれ。仙台 POSSE 代表。東日本大震災以降、仙台で被災者支援に取り組んできた。現在では労働相談や生活相談を通じて、労働問題・貧困問題を中心に取り組んでいる。

## 他者とともに生きる体験…そこに大切な“気づき”があります。

学生時代のボランティア体験は、自分を変えるととてもいいチャンスです。実際に車椅子で歩いてみると違う景色・見えないものが見えたり、お年寄りの介助で相手の気持ちを理解する、あるいは理解できない自分を発見する…年齢や立場の異なる人と、具体的にふれあう体験にこそ、人として大切な“気づき”があります。ボランティア活動に参加すると「自分が必要とされている」と実感できる瞬間が必ずあります。それが、生きる自信となり、他者とのふれあいを自分の鏡と考えることで、新しい、色々な自分を見つけられるはず。私は、ボランティアの場に広がる「ありがとう」の輪の中にこそ、次の時代に必要な活動が芽吹くと信じています。



仙台市太白区 レクリエーション協会

会長

村田 耕造さん

### Profile

教員として障がい者教育・福祉の仕事に長く携わる。現在ボランティア・アドバイザーとして活躍中で、レクリエーション活動と、五感で自然を体験する「シェアリングネイチャー」のエキスパートでもある。



# 学生のライフスタイル

泉  
キャンパス

菅原 有咲さん

共生社会経済学科 2年  
【宮城県/東北高等学校出身】

自分が決めたテーマで討論できるのが魅力。  
部活動の陸上では全国大会出場が目標です。



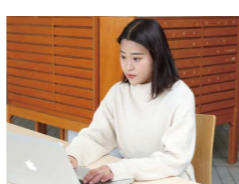
格差やジェンダー問題などに興味があり、この学科なら多様な人たちへの理解を深め、共感を磨けるのではないかと思います、選択しました。現在は、女性差別や両立支援によるジェンダー問題を取り上げるゼミの活動に力を入れています。自分で考えた問いに関して、ゼミの仲間と意見を交換できるので、思考力やコミュニケーション能力の向上が図られていると感じます。また、私は陸上競技部に所属しており、全国大会出場という大きな目標に向かい、練習に取り組んでいます。学業も部活動も、目標を定めて行動計画を立て、実践を積み重ねることで、短所を長所に変え、長所はより強化しようと努力を続ける毎日です。

## 私の時間割 [2年次前期]

	月	火	水	木	金	土
1	資本主義社会入門I	日本国憲法	—	体育講義	フィールドワークの基礎	—
2	英語II A	加齢経済論	—	—	—	全
3	東北地域論	財政学I	法学	フィットネス(スポーツ実習)	健康の科学	休
4	メディアリテラシー	演習I	地域の課題	—	現代の政治	—
5	—	—	—	—	—	—

## 菅原 有咲さんの主な1日

- 8:00 **起床・朝食**  
オンデマンドの授業が多いのですが、決まった時間に起床します。
- 9:00 **講義**  
オンデマンド授業。重要点を聞き直しながら取り組んでいます。
- 12:30 **昼食**  
自宅で昼食。のんびり過ごします。
- 13:00 **講義**  
部活動に行く時間まで授業を受けます。
- 14:30 **学校に向かう**  
自宅から学校まで約1時間30分ほどかかるので、早めに出発。
- 16:30 **部活動**  
目標に向かって、日々の練習に取り組んでいます。
- 20:30 **帰宅・帰宅後**  
帰宅する時間は比較的遅いですが、しっかりと夕食をとります。



土樋  
キャンパス

丹野 颯一郎さん

共生社会経済学科 3年  
【山形県/上山明新館高等学校出身】

ときには失敗しても挑戦を続け、  
経験から多くのことを学んでいます。



共生社会経済学科を選択したのは、演習やフィールドワークというアクティブな授業を通して、私が興味をもっている少子高齢化問題や、子育てに関する問題について学ぶことができることを知ったからです。そしていま、希望通りの実践を伴う授業の中で、好きなテーマを設定し、研究を続けています。そんな学生生活の中で大切にしているのは、常に挑戦する気持ちを忘れないということ。学生のうちにさまざまなことに挑戦し、ときには失敗から学んで成長したいと思っています。いまは新型コロナウイルス感染症によって、例年とは異なる行動が求められていますが、変化していく環境に柔軟に対応しながら、大学生活をより充実させたいと思います。

## 丹野 颯一郎さんの主な1日

- 7:00 **起床**  
朝食はご飯派。しっかり食べて、身支度を整えます。
- 8:30 **勉強**  
公務員を目指しているので、前日の勉強の復習を朝のうちにやってから家を出ます。
- 12:00 **昼食**  
友だちと一緒に学食へ。チキン竜田井と塩から揚げ丼がオススメです。
- 13:00 **授業**  
興味のあるテーマ「少子化」について、教授のもとで知識を深めます。
- 18:00 **アルバイト**  
帰宅後、近所の薬局でアルバイト。白衣に憧れたのですが、結局着られませんでした。
- 23:00 **勉強**  
その日の復習および公務員の勉強をします。コツコツが大切です。
- 1:00 **就寝**  
疲れた日は、早めに就寝することを心がけています。



## 私の時間割 [3年次後期]

	月	火	水	木	金	土
1	—	—	—	—	—	—
2	全	—	労働経済論II	全	—	フィールドワークI c
3	休	経済史II	—	休	演習II	—
4	—	アジア経済論II	社会保険論	—	—	—
5	—	格差社会論II	—	—	—	—







# 活躍する卒業生たち

詳しくはWebで  
ご覧ください。



共生社会経済学科

検索



「まずやってみる」の精神と  
親しみやすさで仕事にまい進。

車内での切符販売や放送でのご案内などを行っています。お客さまと直接ふれあう仕事なので、話しかけやすい車掌であることを心がけています。大学時代、ゼミなどを通じて養った「まずやってみる」という精神をいまの仕事にも活かし、親しみのある鉄道員を目指していきます。

佐藤 高志 さん



東日本旅客鉄道(株)  
勤務

運輸・交通業

お客さまの立場でご提案できる  
「ハウジングアドバイザー」に。

総合住宅展示場に来られたお客さまをご案内しながらニーズを引き出し、ご要望に合った土地やプランの提案、お見積りの提示までを行っています。大学では、相手の立場で物事を考えることの大切さを学びました。この学びを生かし、お客さまの立場でご提案できる、本当の意味での「ハウジングアドバイザー」として、お客さまに接しています。

臼井 里那 さん



株式会社 桧家住宅  
勤務

不動産業

異なる文化や価値観をもつ人とも、  
理解し合う姿勢が活きています。

「持続可能な開発」をテーマに、開発や開発政策の効果が正しいかどうかを判断できるプロフェッショナルになることを目指して大学院で学んでいます。この研究科には留学生が多数在籍しているので、学部において学んだ、文化あるいは宗教の異なる他者への理解について日常の様々な場面で活かすことができています。

神 正光 さん



名古屋大学大学院  
国際開発研究科

大学院

大学で培った思いやりの気持ちが、  
仕事に活かされています。

MR(医薬情報担当者)として私が向き合っているのは、医療従事者と患者様、そしてそのご家族です。その方々が求めているものを探り、不安や痛みにフォーカスを当てるとき、この学科で培った広い視野と相手を思いやる気持ちが活かされていると感じます。これからも相手の視点で考え、地域医療の発展に携わっていきます。

村山 由希也 さん



アッヴィ合同会社  
勤務

製薬業

大学で磨いた共感力を活かし、  
相手の立場に立った仕事を。

住民の暮らしや健康、福祉に関する施策、環境・まちづくりを行う仕事を行っています。大学では共感力を磨くフィールドワークやゼミを通して、自分とは異なる生活環境を体験。相手の立場になってものごとを捉えることの重要性を学びました。この学びを市民の方々の悩みや要望を共有することに活かしていきます。

芳賀 優香 さん



山形県寒河江市役所  
勤務

公務員

課題を多角的に見つめて、  
安心して暮らせる地域づくりを。

この学科では、多角的な視点を持つことの大切さを学び、そのことによって普段の生活では気づかなかった「現実」を知ることができました。その学びを仕事に活かして、さまざまな視点から地域が抱える課題と向き合い、考えていくことで解決策を見つけて、地域住民の方々が安心して暮らせる地域づくりの力になりたいと思います。

佐藤 沙耶 さん



社会福祉法人  
大崎市社会福祉協議会  
勤務

社会福祉事業

地域の皆さんの思いに寄り添い、  
課題解決のお手伝いを。

町役場に勤務し、商工観光交流課と緊急経済対策室の仕事も兼務しています。学生時代、ゼミで津波の被害を受けた方々にお話を聞くなどの体験を通して、いま起きていることが他人ごとではないと思えるようになりました。そのときの気持ちを忘れずに、地域の皆さんが抱える課題や不安に寄り添って、解決への手伝いができればと考えています。

渡辺 皓貴 さん



三種町役場  
勤務

公務員

コミュニケーション力を発揮し、  
銀行の固いイメージを払拭。

現在、私は金融機関や官公庁との現金の受払や損傷通貨の引換事務等を行っています。日本銀行は「固そうで入りづらい」イメージがあるようです。そこで大学で培ったコミュニケーション力を活かし、お客さまの気持ちが、少しでも和らぐよう心がけています。これからも国民の皆さまが安心して暮らせるよう、日本経済を支えていきたいです。

高橋 優大 さん



日本銀行勤務

公的金融機関

## 【資料7】

### 1. 資料名

「従業員の充足度「不足している」が61.6%～需要への対応や技術伝承に悪影響～」

### 2. 出典

帝国データバンク 青森県内企業の人材に関するアンケート調査（2021年11月16日）

[https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s211101\\_12.html](https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s211101_12.html)

（閲覧日：2022年9月5日）

### 3. 引用範囲

調査結果 「従業員の充足度」及び「人手不足による悪影響」

## 【資料8】

### 1. 資料名

「従業員の充足度、「不足している」が65.2%～人手不足の悪影響は需要への対応・技術ノウハウ等引き継ぎ困難が上位～」

### 2. 出典

帝国データバンク 秋田県内企業の人材に関するアンケート調査（2021年11月29日）

[https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s211104\\_15.html](https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s211104_15.html)

（閲覧日：2022年9月5日）

### 3. 引用範囲

調査結果 「従業員の充足度」及び「人手不足による悪影響」

【資料9】

1. 資料名

「従業員の充足度「不足している」が61.0%～需要への対応や技術伝承に悪影響～」

2. 出典

帝国データバンク 岩手県内企業の人材に関するアンケート調査（2021年12月2日）

[https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s211201\\_13.html](https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s211201_13.html)

（閲覧日：2022年9月5日）

3. 引用範囲

調査結果 「従業員の充足度」及び「人手不足による悪影響」

## 【資料 10】

### 1. 資料名

「従業員の充足度、「不足している」が約 6 割～人手不足の悪影響、需要への対応・技術ノウハウ等引き継ぎ困難が上位～」

### 2. 出典

帝国データバンク 山形県内企業の人材に関するアンケート調査(2022年2月10日)

[https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s220201\\_16.html](https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s220201_16.html)

(閲覧日：2022年9月5日)

### 3. 引用範囲

調査結果 「従業員の充足度」及び「人手不足による悪影響」

## 【資料 11】

### 1. 資料名

「従業員の充足度、「不足している」が6割～人手不足の悪影響、需要への対応・技術ノウハウ等引き継ぎ困難が上位～」

### 2. 出典

帝国データバンク 宮城県内企業の人材に関するアンケート調査(2019年9月27日)

[https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s190901\\_10.html](https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s190901_10.html)

(閲覧日：2022年9月5日)

### 3. 引用範囲

調査結果 「従業員の充足度」及び「人手不足による悪影響」

## 【資料 12】

### 1. 資料名

「従業員の充足度、「不足している」が 66.1%～教育（人材育成）が必要な層についてリーダー層、若手層が上位～」

### 2. 出典

帝国データバンク 福島県内企業の人材に関するアンケート調査(2022年2月21日)

[https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s220201\\_19.html](https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/s220201_19.html)

(閲覧日：2022年9月5日)

### 3. 引用範囲

調査結果 「従業員の充足度」及び「人手不足による悪影響」

【資料 13】

1. 資料名

「企業の約 5 割で人手不足、2020 年 2 月と同水準まで上昇～非正社員は「飲食店」など個人消費関連の業種で高い傾向に～」

2. 出典

帝国データバンク 人材不足に対する企業の動向調査（2022 年 2 月 24 日）

<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/p220212.html>

（閲覧日：2022 年 9 月 5 日）

3. 引用範囲

調査結果 「従業員の過不足感」



令和3年地方公共団体定員管理調査結果の概要  
(令和3年4月1日現在)

- 1 地方公共団体の総職員数の推移 .....P1
- 2 地方公共団体の部門別職員数の状況 .....P2
- 3 地方公共団体の団体区分別職員数の状況 .....P5

<参考>

- 団体区分別・部門別の職員数 .....P6
- 職員数の推移 .....P7
- 地方公共団体の総職員数の推移(昭和40年～令和3年)P8
- 都道府県職員数の増減状況 .....P9
- 指定都市職員数の増減状況 .....P10
- その他市町村等職員数の増減状況 .....P11

令和3年12月  
総 務 省

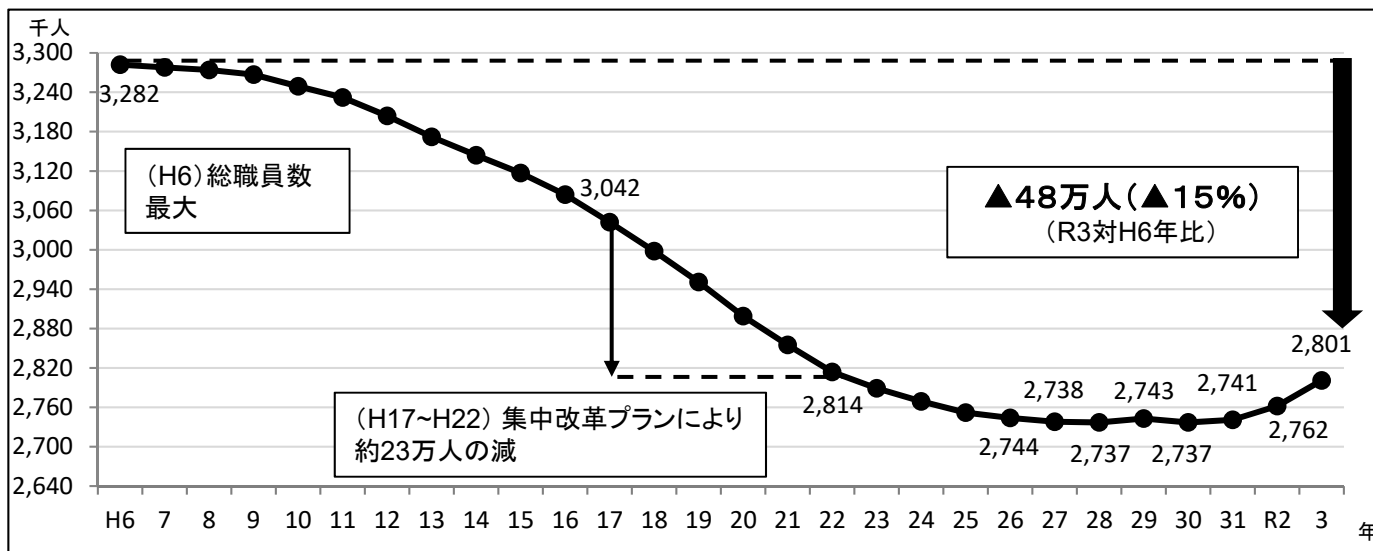
(連絡先)

自治行政局 公務員部 給与能率推進室  
担当：佐藤課長補佐・本保係長・林事務官  
電話：03-5253-5550(直)  
FAX：03-5253-5553

# 1 地方公共団体の総職員数の推移

- 総職員数は、対前年比で38,641人増加し、280万661人。
- 総職員数は、平成6年をピークとして、平成28年まで一貫して減少。その後、横ばいから微増傾向が続く。

地方公共団体の総職員数の推移(平成6年～令和3年)



地方公共団体の職員数の推移(各年4月1日現在)

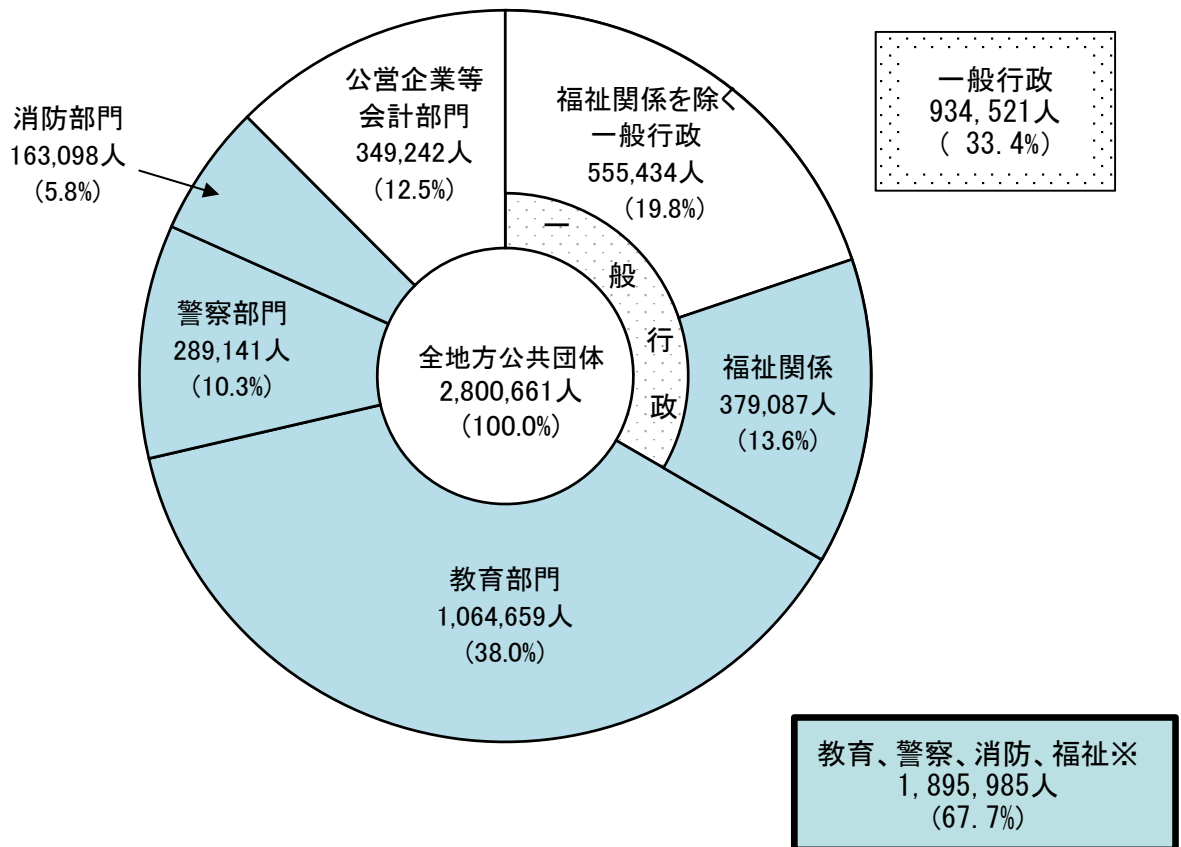
(単位：人、%)

年	総数		
	職員数	対前年増減数	対前年増減率
H6	3,282,492	11,693	0.4
7	3,278,332	▲ 4,160	▲ 0.1
8	3,274,481	▲ 3,851	▲ 0.1
9	3,267,118	▲ 7,363	▲ 0.2
10	3,249,494	▲ 17,624	▲ 0.5
11	3,232,158	▲ 17,336	▲ 0.5
12	3,204,297	▲ 27,861	▲ 0.9
13	3,171,532	▲ 32,765	▲ 1.0
14	3,144,323	▲ 27,209	▲ 0.9
15	3,117,004	▲ 27,319	▲ 0.9
16	3,083,597	▲ 33,407	▲ 1.1
17	3,042,122	▲ 41,475	▲ 1.3
18	2,998,402	▲ 43,720	▲ 1.4
19	2,951,296	▲ 47,106	▲ 1.6
20	2,899,378	▲ 51,918	▲ 1.8
21	2,855,106	▲ 44,272	▲ 1.5
22	2,813,875	▲ 41,231	▲ 1.4
23	2,788,989	▲ 24,886	▲ 0.9
24	2,768,913	▲ 20,076	▲ 0.7
25	2,752,484	▲ 16,429	▲ 0.6
26	2,743,654	▲ 8,830	▲ 0.3
27	2,738,337	▲ 5,317	▲ 0.2
28	2,737,263	▲ 1,074	▲ 0.0
29	2,742,596	5,333	0.2
30	2,736,860	▲ 5,736	▲ 0.2
31	2,740,653	3,793	0.1
R2	2,762,020	21,367	0.8
3	2,800,661	38,641	1.4
R3-H6	—	▲ 481,831	▲ 14.7

## 2 地方公共団体の部門別職員数の状況

○ 行政分野別に見ると、国が定員に関する基準を幅広く定めている教育部門、警察部門、消防部門、福祉関係が約2/3を占めている。

部門別職員数(令和3年4月1日現在)



※国が定員に関する基準を幅広く定めている部門

### [部門別の特色]

○福祉関係を除く一般行政(議会、総務・企画(防災を含む)、税務、労働、農林水産、商工、土木)  
国の法令等による職員の配置基準が少なく、地方公共団体が主体的に職員配置を決める余地が比較的大きい部門である。

### ○福祉関係(民生、衛生)

国の法令等による職員の配置基準が定められている場合が多く、また、職員配置が直接住民サービスに影響を及ぼす部門である。

### ○教育部門、警察部門、消防部門

国の法令等に基づく配置基準等により、地方公共団体が主体的に職員配置の見直しを行うことが困難な部門である。

### ○公営企業等会計部門(病院、水道、交通、下水道、その他)

独立採算を基調として、企業経営の観点から定員管理が行われている部門である。

## (1) 部門別職員数の対前年比増減要因等について

- 新型コロナウイルス感染症対策のための体制強化や、児童相談所の体制強化などの子育て支援への対応により増加。

このほか、国土強靱化に向けた防災・減災対策、地方創生への対応などにより増加。

(一般行政部門：対前年 + 6, 872人、+ 0.7%)

- 教育部門は、児童・生徒数の減少に伴い、職員数の減少がある一方で、特別支援学校・学級の体制強化に伴う増加や、臨時的任用職員の任用の適正化(※)などにより、全体として増加。

(教育部門：対前年 + 36, 334人、+ 3.5%)

- 公営企業等会計部門は、病院の再編整備などにより、職員数の増加がある一方で、病院事業の地方独立行政法人化などにより、全体として減少。

(公営企業等会計部門：対前年 ▲ 4, 109人、▲ 1.2%)

(※) 従前の臨時的任用職員のうち、新たな任期と前の任期の間に一定の期間(いわゆる「空白期間」)を設けることで非常勤職員としていた職員について、空白期間を解消し、常勤職員とした。そのうち、一定の期間の業務が見込まれる職については、任期付職員として採用。

### <部門別対前年比較における主な増減理由>

(単位：人、%)

部門	R3	R2	対前年		主な増減理由
			増減数	増減率	
一般行政部門 ①	934,521	927,649	6,872	0.7	
福祉関係を除く 一般行政	555,434	556,301	▲ 867	▲ 0.2	・防災・減災対策、地方創生への対応などによる増 ・組織及び職員配置の見直し、事務・事業の統廃合、民間委託等による減
福祉関係	379,087	371,348	7,739	2.1	・新型コロナウイルス感染症対策への対応による増 ・児童相談所の体制強化などの子育て支援、生活保護関連業務に係る体制充実による増 ・保育所等福祉施設の民間移譲・民間委託等による減
教育部門 ②	1,064,659	1,028,325	36,334	3.5	・特別支援学校・学級の体制強化による増 ・臨時的任用職員の任用の適正化に伴う増 ・児童・生徒数の減少に伴う学校統廃合や学級数減による減
警察部門 ③	289,141	289,917	▲ 776	▲ 0.3	・組織再編に伴う減、欠員不補充による減
消防部門 ④	163,098	162,778	320	0.2	・救急体制の拡充など、消防力の充実・強化による増
公営企業等 会計部門 ⑤	349,242	353,351	▲ 4,109	▲ 1.2	・病院の再編整備による増 ・新型コロナウイルス感染症対策に伴う医療従事者の増 ・病院事業の地方独立行政法人化による減
合計 ①～⑤	2,800,661	2,762,020	38,641	1.4	

## (2) 部門別職員数の対平成6年比増減要因等について

- 総職員数が減少する中、警察部門及び消防部門は、組織基盤の充実・強化のため、平成6年以降も増加傾向。  
 (警察部門：対平成6年 + 35,147人、+ 13.8%)  
 (消防部門：対平成6年 + 17,563人、+ 12.1%)
- 一般行政部門は、地方公共団体の行政改革の取組や、平成17年から22年までの集中改革プランを経て、▲20%と減少している中、防災は約3.4倍、児童相談所等は約2.5倍、福祉事務所、観光は約1.7倍に増加。  
 (一般行政部門：対平成6年 ▲239,993人、▲20.4%)
- 教育部門は、児童・生徒数の減少により、全体で▲17%と減少している中、特別支援学校は約1.5倍に増加。  
 (教育部門：対平成6年 ▲216,342人、▲16.9%)

### <部門別対平成6年増減数、増減率>

(単位：人、%)

部門	平成6年	令和3年	増減数	増減率
一般行政部門	1,174,514	934,521	▲239,993	▲20.4
教育部門	1,281,001	1,064,659	▲216,342	▲16.9
警察部門	253,994	289,141	35,147	13.8
消防部門	145,535	163,098	17,563	12.1
公営企業等会計部門	427,448	349,242	▲78,206	▲18.3
合計	3,282,492	2,800,661	▲481,831	▲14.7

### <平成6年からの部門別職員数の推移(平成6年を100とした場合の指数)>

特別支援学校 (150.9)  
 義務教育 (85.5)  
 給食センター (24.5)

防 災 (339.9)  
 児童相談所等 (250.5)  
 福祉事務所 (167.6)  
 観 光 (165.7)  
 企画開発 (89.0)  
 総務一般 (84.5)  
 清 掃 (47.1)

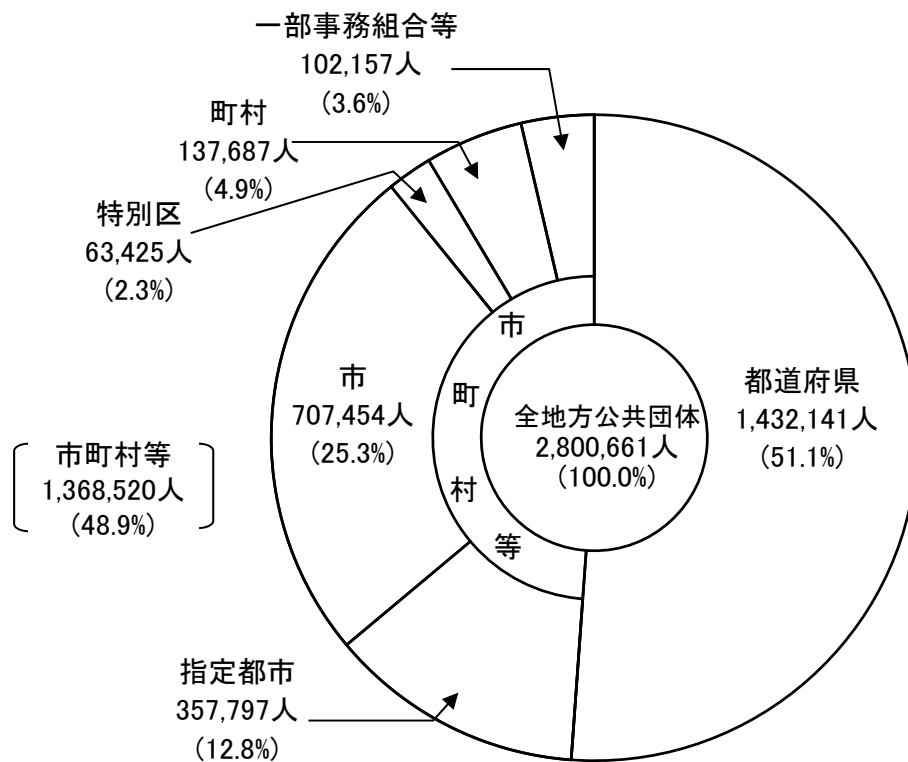
年

※平成13年に生じている一般行政部門と公営企業等会計部門の変動は、調査区分の変更によるもの。

### 3 地方公共団体の団体区分別職員数の状況

- 都道府県の総職員数は、143万2,141人（51.1%）であり、前年と比べて29,397人増加。
- 市町村等の総職員数は、136万8,520人（48.9%）であり、前年と比べて9,244人増加。

団体区分別職員数の構成(令和3年4月1日現在)



団体区分別職員数の推移(各年4月1日現在)

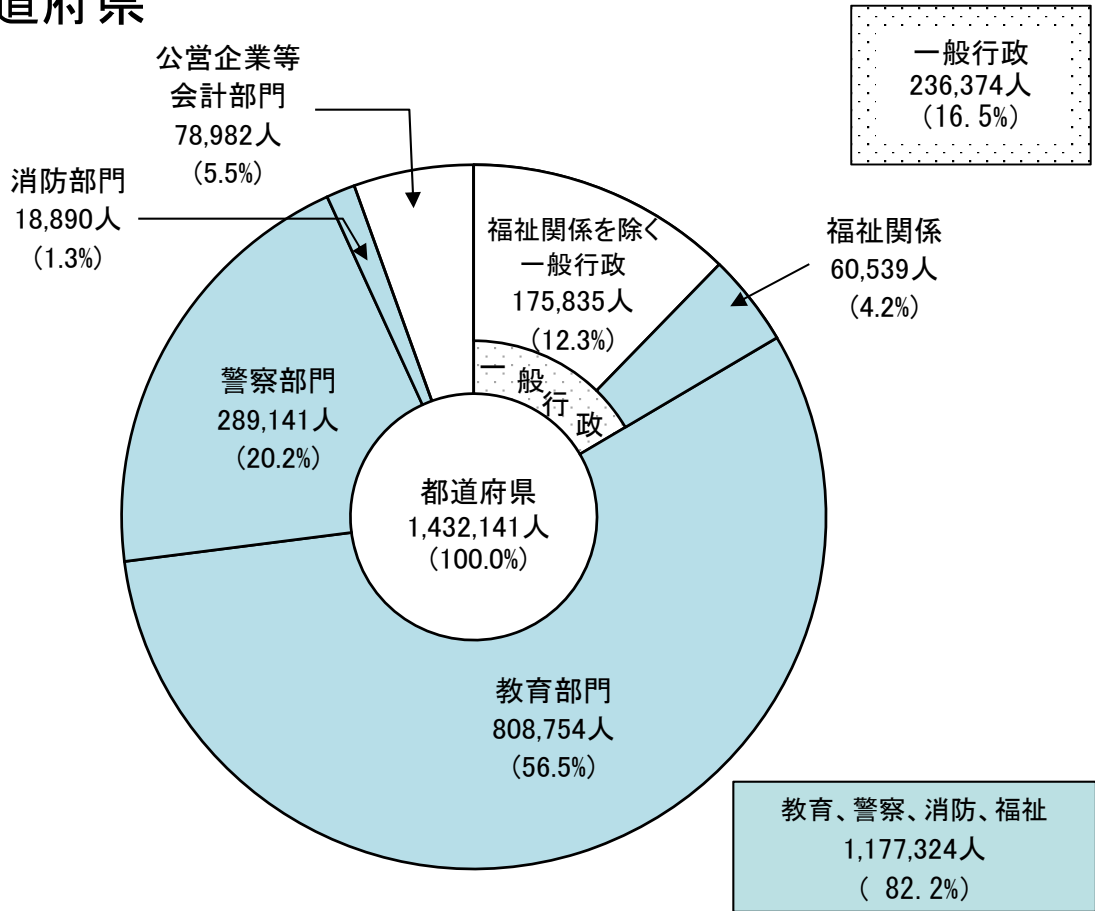
(単位：人、%)

団体区分	R3	R2	対前年	
			増減数	増減率
都道府県	1,432,141	1,402,744	29,397	2.1
市町村等	1,368,520	1,359,276	9,244	0.7
指定都市	357,797	348,498	9,299	2.7
その他市町村(※)	908,566	908,378	188	0.0
一部事務組合等	102,157	102,400	▲ 243	▲ 0.2
合計	2,800,661	2,762,020	38,641	1.4

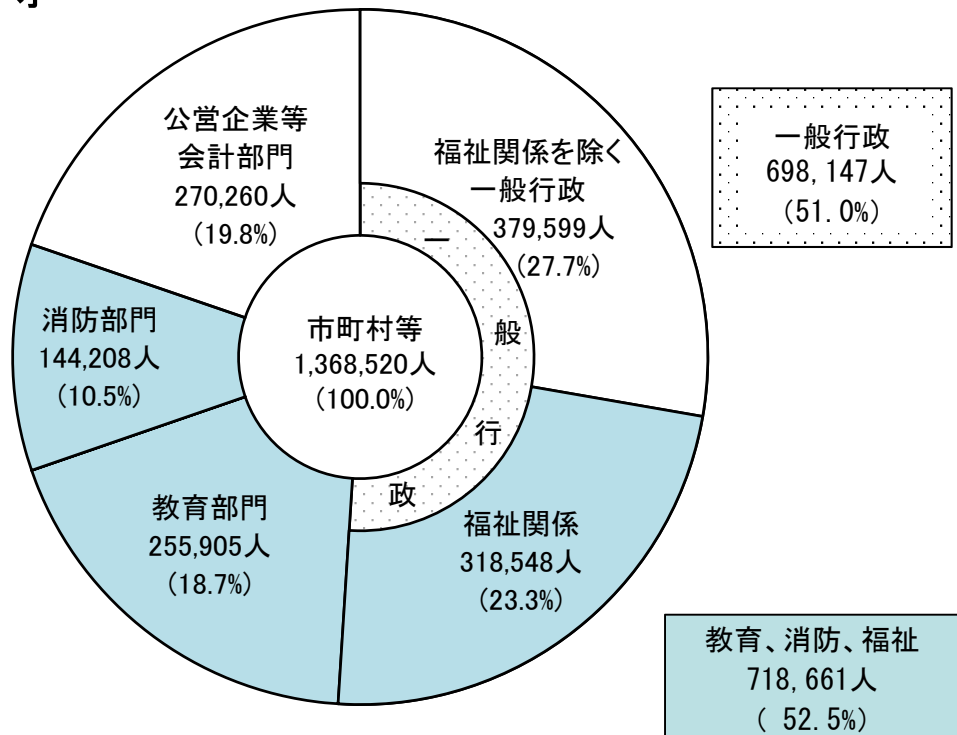
(※) 特別区を含む。

# 団体区分別・部門別の職員数

## ① 都道府県



## ② 市町村等



## 職員数の推移

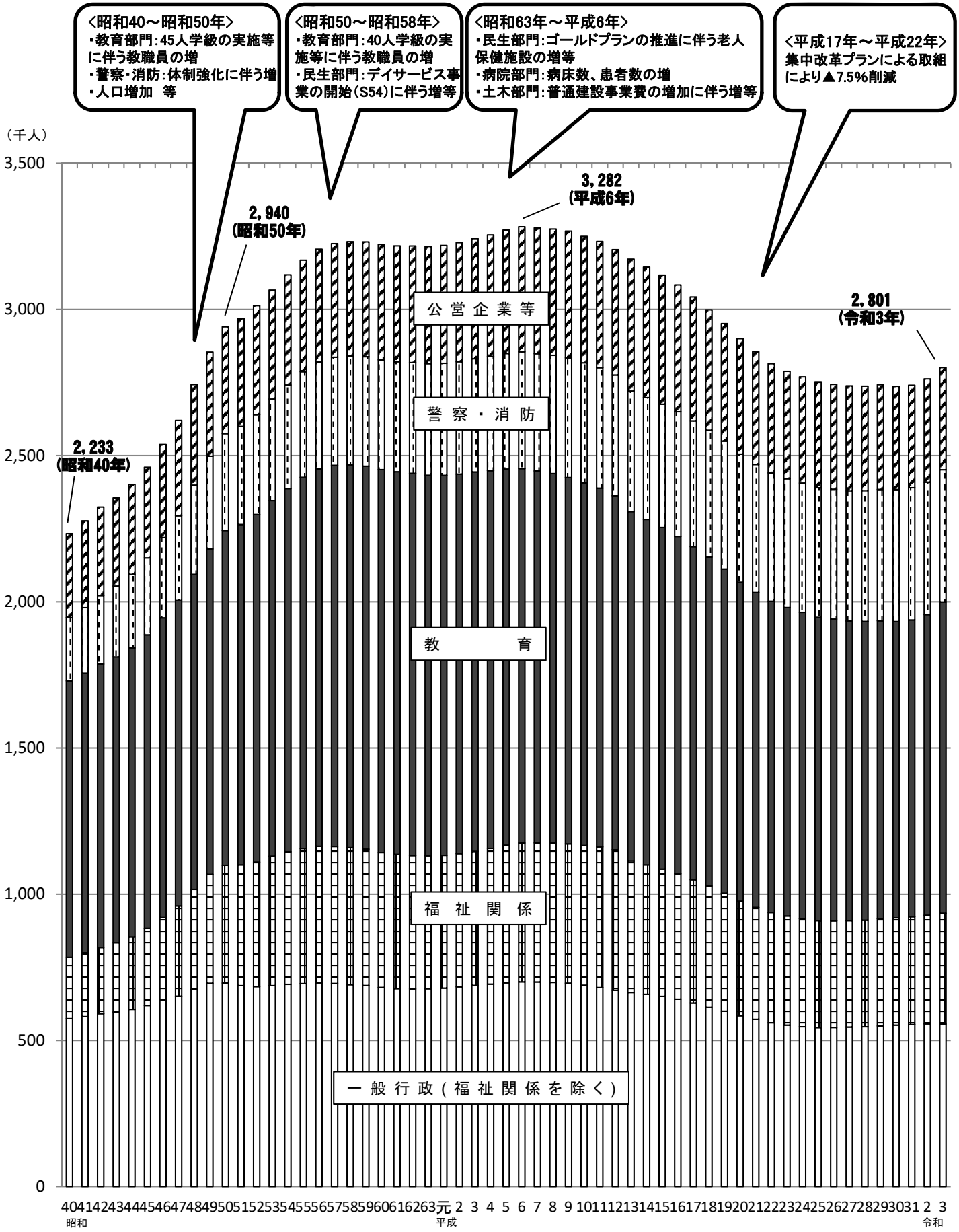
(単位:人、%)

年	全団体			都道府県			市町村等		
	職員数	対前年 増減数	対前年 増減率	職員数	対前年 増減数	対前年 増減率	職員数	対前年 増減数	対前年 増減率
H6	3,282,492	11,693	0.4	1,734,665	▲ 4,549	▲ 0.3	1,547,827	16,242	1.1
7	3,278,332	▲ 4,160	▲ 0.1	1,726,263	▲ 8,402	▲ 0.5	1,552,069	4,242	0.3
8	3,274,481	▲ 3,851	▲ 0.1	1,719,900	▲ 6,363	▲ 0.4	1,554,581	2,512	0.2
9	3,267,118	▲ 7,363	▲ 0.2	1,713,593	▲ 6,307	▲ 0.4	1,553,525	▲ 1,056	▲ 0.1
10	3,249,494	▲ 17,624	▲ 0.5	1,703,562	▲ 10,031	▲ 0.6	1,545,932	▲ 7,593	▲ 0.5
11	3,232,158	▲ 17,336	▲ 0.5	1,691,853	▲ 11,709	▲ 0.7	1,540,305	▲ 5,627	▲ 0.4
12	3,204,297	▲ 27,861	▲ 0.9	1,666,944	▲ 24,909	▲ 1.5	1,537,353	▲ 2,952	▲ 0.2
13	3,171,532	▲ 32,765	▲ 1.0	1,648,467	▲ 18,477	▲ 1.1	1,523,065	▲ 14,288	▲ 0.9
14	3,144,323	▲ 27,209	▲ 0.9	1,638,341	▲ 10,126	▲ 0.6	1,505,982	▲ 17,083	▲ 1.1
15	3,117,004	▲ 27,319	▲ 0.9	1,630,316	▲ 8,025	▲ 0.5	1,486,688	▲ 19,294	▲ 1.3
16	3,083,597	▲ 33,407	▲ 1.1	1,620,922	▲ 9,394	▲ 0.6	1,462,675	▲ 24,013	▲ 1.6
17	3,042,122	▲ 41,475	▲ 1.3	1,609,628	▲ 11,294	▲ 0.7	1,432,494	▲ 30,181	▲ 2.1
18	2,998,402	▲ 43,720	▲ 1.4	1,596,305	▲ 13,323	▲ 0.8	1,402,097	▲ 30,397	▲ 2.1
19	2,951,296	▲ 47,106	▲ 1.6	1,579,778	▲ 16,527	▲ 1.0	1,371,518	▲ 30,579	▲ 2.2
20	2,899,378	▲ 51,918	▲ 1.8	1,560,755	▲ 19,023	▲ 1.2	1,338,623	▲ 32,895	▲ 2.4
21	2,855,106	▲ 44,272	▲ 1.5	1,542,705	▲ 18,050	▲ 1.2	1,312,401	▲ 26,222	▲ 2.0
22	2,813,875	▲ 41,231	▲ 1.4	1,525,104	▲ 17,601	▲ 1.1	1,288,771	▲ 23,630	▲ 1.8
23	2,788,989	▲ 24,886	▲ 0.9	1,515,844	▲ 9,260	▲ 0.6	1,273,145	▲ 15,626	▲ 1.2
24	2,768,913	▲ 20,076	▲ 0.7	1,510,179	▲ 5,665	▲ 0.4	1,258,734	▲ 14,411	▲ 1.1
25	2,752,484	▲ 16,429	▲ 0.6	1,502,735	▲ 7,444	▲ 0.5	1,249,749	▲ 8,985	▲ 0.7
26	2,743,654	▲ 8,830	▲ 0.3	1,500,524	▲ 2,211	▲ 0.1	1,243,130	▲ 6,619	▲ 0.5
27	2,738,337	▲ 5,317	▲ 0.2	1,500,067	▲ 457	▲ 0.0	1,238,270	▲ 4,860	▲ 0.4
28	2,737,263	▲ 1,074	▲ 0.0	1,500,778	711	0.0	1,236,485	▲ 1,785	▲ 0.1
29	2,742,596	5,333	0.2	1,387,703	▲ 113,075	▲ 7.5	1,354,893	118,408	9.6
30	2,736,860	▲ 5,736	▲ 0.2	1,386,505	▲ 1,198	▲ 0.1	1,350,355	▲ 4,538	▲ 0.3
31	2,740,653	3,793	0.1	1,390,987	4,482	0.3	1,349,666	▲ 689	▲ 0.1
R2	2,762,020	21,367	0.8	1,402,744	11,757	0.8	1,359,276	9,610	0.7
3	2,800,661	38,641	1.4	1,432,141	29,397	2.1	1,368,520	9,244	0.7
R3-H6	-	▲ 481,831	▲ 14.7	-	▲ 302,524	▲ 17.4	-	▲ 179,307	▲ 11.6

注) 平成29年は、県費負担教職員に関する権限が都道府県から指定都市に移譲されたことに伴い、従来、都道府県で計上していた教職員が指定都市に移動(112,557人)している。



# 地方公共団体の総職員数の推移(昭和40年～令和3年)



※ 出典:昭和40～49年は地方公務員給与実態調査、昭和50年以降は地方公共団体定員管理調査による(各年4月1日現在)。

# 都道府県職員数の増減状況

(単位:人、%)

団体名	総数			一般行政部門			教育部門			警察部門			公営企業等会計部門		
	R3	対前年		R3	対前年		R3	対前年		R3	対前年		R3	対前年	
	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率
北海道	63,246	195	0.3	12,819	▲ 11	▲ 0.1	37,520	198	0.5	11,999	30	0.3	908	▲ 22	▲ 2.4
青森県	18,838	▲ 51	▲ 0.3	3,787	▲ 6	▲ 0.2	11,072	▲ 47	▲ 0.4	2,681	▲ 10	▲ 0.4	1,298	12	0.9
岩手県	24,532	569	2.4	4,411	▲ 18	▲ 0.4	12,115	494	4.3	2,462	7	0.3	5,544	86	1.6
宮城県	22,943	586	2.6	4,990	30	0.6	13,458	564	4.4	4,344	▲ 3	▲ 0.1	151	▲ 5	▲ 3.2
秋田県	14,797	553	3.9	3,385	20	0.6	8,908	537	6.4	2,374	4	0.2	130	▲ 8	▲ 5.8
山形県	18,222	445	2.5	4,048	▲ 4	▲ 0.1	9,755	444	4.8	2,349	10	0.4	2,070	▲ 5	▲ 0.2
福島県	27,536	1,398	5.3	5,699	13	0.2	17,431	1,422	8.9	3,952	▲ 16	▲ 0.4	454	▲ 21	▲ 4.4
茨城県	34,457	35	0.1	4,847	8	0.2	22,482	40	0.2	5,401	▲ 12	▲ 0.2	1,727	▲ 1	▲ 0.1
栃木県	23,584	▲ 32	▲ 0.1	4,499	23	0.5	14,893	▲ 54	▲ 0.4	3,874	▲ 5	▲ 0.1	318	4	1.3
群馬県	25,806	1,679	7.0	3,945	59	1.5	16,373	1,643	11.2	3,922	3	0.1	1,566	▲ 26	▲ 1.6
埼玉県	61,450	864	1.4	7,155	194	2.8	40,666	2,863	7.6	12,860	0	0.0	769	▲ 2,193	▲ 74.0
千葉県	58,585	282	0.5	7,548	231	3.2	35,026	156	0.4	12,349	▲ 169	▲ 1.4	3,662	64	1.8
東京都	175,972	689	0.4	20,351	351	1.8	68,179	886	1.3	47,583	▲ 653	▲ 1.4	20,969	97	0.5
神奈川県	54,162	289	0.5	7,670	93	1.2	28,093	134	0.5	17,390	59	0.3	1,009	3	0.3
新潟県	28,386	▲ 420	▲ 1.5	5,534	▲ 66	▲ 1.2	14,340	▲ 307	▲ 2.1	4,763	15	0.3	3,749	▲ 62	▲ 1.6
富山県	15,516	224	1.5	3,220	20	0.6	8,770	177	2.1	2,299	▲ 9	▲ 0.4	1,227	36	3.0
石川県	16,299	423	2.7	3,272	9	0.3	9,460	423	4.7	2,330	▲ 1	▲ 0.0	1,237	▲ 8	▲ 0.6
福井県	14,012	638	4.8	2,886	106	3.8	7,897	487	6.6	2,094	15	0.7	1,135	30	2.7
山梨県	12,792	360	2.9	3,018	18	0.6	7,675	354	4.8	1,963	▲ 10	▲ 0.5	136	▲ 2	▲ 1.4
長野県	27,358	1,230	4.7	5,136	71	1.4	18,071	1,138	6.7	3,963	15	0.4	188	6	3.3
岐阜県	26,102	1,477	6.0	4,400	32	0.7	17,653	1,443	8.9	3,964	▲ 9	▲ 0.2	85	11	14.9
静岡県	33,943	824	2.5	5,709	22	0.4	19,825	775	4.1	7,031	▲ 2	▲ 0.0	1,378	29	2.1
愛知県	62,823	243	0.4	8,920	251	2.9	37,098	83	0.2	14,614	39	0.3	2,191	▲ 130	▲ 5.6
三重県	23,624	1,749	8.0	4,345	32	0.7	15,318	1,747	12.9	3,436	▲ 22	▲ 0.6	525	▲ 8	▲ 1.5
滋賀県	19,931	1,283	6.9	3,277	69	2.2	12,703	1,182	10.3	2,634	17	0.6	1,317	15	1.2
京都府	22,624	25	0.1	4,104	▲ 16	▲ 0.4	11,055	6	0.1	7,161	39	0.5	304	▲ 4	▲ 1.3
大阪府	73,182	▲ 5	▲ 0.0	7,761	147	1.9	41,784	76	0.2	23,310	▲ 173	▲ 0.7	327	▲ 55	▲ 14.4
兵庫県	56,914	312	0.6	5,929	16	0.3	31,796	160	0.5	12,491	▲ 11	▲ 0.1	6,698	147	2.2
奈良県	16,537	12	0.1	3,185	13	0.4	10,371	▲ 9	▲ 0.1	2,817	12	0.4	164	▲ 4	▲ 2.4
和歌山県	14,941	▲ 15	▲ 0.1	3,529	1	0.0	8,671	▲ 13	▲ 0.1	2,523	▲ 9	▲ 0.4	218	6	2.8
鳥取県	11,837	28	0.2	2,931	▲ 14	▲ 0.5	6,062	2	0.0	1,457	2	0.1	1,387	38	2.8
島根県	14,559	741	5.4	3,307	37	1.1	8,167	717	9.6	1,820	▲ 12	▲ 0.7	1,265	▲ 1	▲ 0.1
岡山県	21,050	608	3.0	3,856	12	0.3	13,005	599	4.8	4,056	▲ 2	▲ 0.0	133	▲ 1	▲ 0.7
広島県	26,699	114	0.4	4,535	80	1.8	14,878	▲ 32	▲ 0.2	5,773	40	0.7	1,513	26	1.7
山口県	19,391	948	5.1	3,543	28	0.8	12,135	910	8.1	3,559	7	0.2	154	3	2.0
徳島県	13,504	520	4.0	3,167	5	0.2	7,287	492	7.2	1,849	▲ 10	▲ 0.5	1,201	33	2.8
香川県	14,720	347	2.4	2,806	25	0.9	8,409	328	4.1	2,154	0	0.0	1,351	▲ 6	▲ 0.4
愛媛県	20,246	▲ 106	▲ 0.5	3,831	44	1.2	11,482	▲ 159	▲ 1.4	2,882	23	0.8	2,051	▲ 14	▲ 0.7
高知県	13,970	445	3.3	3,467	23	0.7	7,719	407	5.6	1,918	▲ 3	▲ 0.2	866	18	2.1
福岡県	43,974	2,571	6.2	7,565	▲ 8	▲ 0.1	24,089	2,594	12.1	12,200	▲ 14	▲ 0.1	120	▲ 1	▲ 0.8
佐賀県	13,361	82	0.6	3,079	13	0.4	8,227	64	0.8	2,031	5	0.2	24	0	0.0
長崎県	20,027	▲ 129	▲ 0.6	4,016	▲ 6	▲ 0.1	12,129	▲ 98	▲ 0.8	3,545	2	0.1	337	▲ 27	▲ 7.4
熊本県	19,994	1,364	7.3	4,278	15	0.4	12,040	1,330	12.4	3,498	16	0.5	178	3	1.7
大分県	17,765	925	5.5	3,862	64	1.7	10,654	829	8.4	2,410	12	0.5	839	20	2.4
宮崎県	18,526	1,202	6.9	3,763	▲ 7	▲ 0.2	10,692	1,188	12.5	2,350	8	0.3	1,721	13	0.8
鹿児島県	26,437	1,678	6.8	5,008	11	0.2	16,794	1,552	10.2	3,498	10	0.3	1,137	105	10.2
沖縄県	26,967	2,198	8.9	3,981	42	1.1	16,527	2,128	14.8	3,208	▲ 11	▲ 0.3	3,251	39	1.2
合計	1,432,141	29,397	2.1	236,374	2,072	0.9	808,754	29,853	3.8	289,141	▲ 776	▲ 0.3	78,982	▲ 1,760	▲ 2.2

注) 東京都職員数の総数には消防部門職員(18,890人(対前年+8))が含まれる。

## 指定都市職員数の増減状況

(単位:人、%)

団体名	総数			一般行政部門			教育部門			消防部門			公営企業等会計部門		
	R3	対前年		R3	対前年		R3	対前年		R3	対前年		R3	対前年	
	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率
札幌市	22,868	237	1.0	7,396	65	0.9	10,160	154	1.5	1,841	8	0.4	3,471	10	0.3
仙台市	14,874	305	2.1	4,620	62	1.4	6,295	238	3.9	1,117	5	0.4	2,842	0	0.0
さいたま市	15,440	230	1.5	5,434	149	2.8	6,903	66	1.0	1,342	1	0.1	1,761	14	0.8
千葉市	12,051	271	2.3	4,302	97	2.3	5,318	146	2.8	923	▲ 4	▲ 0.4	1,508	32	2.2
横浜市	45,965	1,220	2.7	15,479	174	1.1	19,103	999	5.5	3,654	0	0.0	7,729	47	0.6
川崎市	19,235	▲ 70	▲ 0.4	6,872	35	0.5	7,541	▲ 118	▲ 1.5	1,450	4	0.3	3,372	9	0.3
相模原市	7,951	180	2.3	3,303	47	1.4	3,673	139	3.9	745	▲ 8	▲ 1.1	230	2	0.9
新潟市	11,471	241	2.1	3,728	29	0.8	4,982	211	4.4	915	4	0.4	1,846	▲ 3	▲ 0.2
静岡市	9,027	278	3.2	3,268	4	0.1	3,564	253	7.6	1,034	▲ 2	▲ 0.2	1,161	23	2.0
浜松市	9,123	328	3.7	3,004	7	0.2	4,774	332	7.5	886	▲ 4	▲ 0.4	459	▲ 7	▲ 1.5
名古屋市	35,701	▲ 208	▲ 0.6	12,672	1,230	10.7	13,330	126	1.0	2,392	30	1.3	7,307	▲ 1,594	▲ 17.9
京都市	20,884	1,023	5.2	7,334	85	1.2	8,429	985	13.2	1,740	▲ 56	▲ 3.1	3,381	9	0.3
大阪市	36,472	1,266	3.6	14,840	175	1.2	15,510	1,105	7.7	3,573	24	0.7	2,549	▲ 38	▲ 1.5
堺市	10,154	152	1.5	3,526	55	1.6	5,002	▲ 2	▲ 0.0	1,000	90	9.9	626	9	1.5
神戸市	21,808	772	3.7	7,816	▲ 36	▲ 0.5	9,584	877	10.1	1,500	1	0.1	2,908	▲ 70	▲ 2.4
岡山市	8,947	492	5.8	3,273	6	0.2	4,324	489	12.8	764	1	0.1	586	▲ 4	▲ 0.7
広島市	15,620	832	5.6	5,674	24	0.4	7,281	845	13.1	1,348	▲ 5	▲ 0.4	1,317	▲ 32	▲ 2.4
北九州市	12,476	556	4.7	4,705	28	0.6	5,908	532	9.9	1,003	2	0.2	860	▲ 6	▲ 0.7
福岡市	17,478	806	4.8	5,685	73	1.3	8,844	675	8.3	1,136	16	1.4	1,813	42	2.4
熊本市	10,252	388	3.9	3,517	▲ 17	▲ 0.5	4,611	422	10.1	801	▲ 6	▲ 0.7	1,323	▲ 11	▲ 0.8
合計	357,797	9,299	2.7	126,448	2,292	1.8	155,136	8,474	5.8	29,164	101	0.3	47,049	▲ 1,568	▲ 3.2

## その他市町村等職員数の増減状況

(単位:人、%)

団体名	総数			一般行政部門			教育部門			消防部門			公営企業等会計部門		
	R3	対前年		R3	対前年		R3	対前年		R3	対前年		R3	対前年	
	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率	職員数	増減数	増減率
北海道	55,025	▲158	▲0.3	26,226	▲8	▲0.0	5,016	▲42	▲0.8	7,332	12	0.2	16,451	▲120	▲0.7
青森県	18,523	▲24	▲0.1	7,781	11	0.1	1,360	▲45	▲3.2	2,588	▲7	▲0.3	6,794	17	0.3
岩手県	14,133	▲91	▲0.6	8,449	▲32	▲0.4	1,601	▲44	▲2.7	2,002	5	0.3	2,081	▲20	▲1.0
宮城県	18,539	▲335	▲1.8	9,013	▲126	▲1.4	1,888	▲93	▲4.7	1,979	9	0.5	5,659	▲125	▲2.2
秋田県	13,082	▲74	▲0.6	6,852	▲22	▲0.3	1,355	▲50	▲3.6	2,045	7	0.3	2,830	▲9	▲0.3
山形県	14,598	▲24	▲0.2	6,940	18	0.3	1,456	▲57	▲3.8	1,545	7	0.5	4,657	8	0.2
福島県	21,697	14	0.1	12,578	27	0.2	2,334	▲37	▲1.6	2,480	4	0.2	4,305	20	0.5
茨城県	25,912	56	0.2	15,798	114	0.7	2,922	▲38	▲1.3	4,446	15	0.3	2,746	▲35	▲1.3
栃木県	16,094	▲64	▲0.4	10,220	▲32	▲0.3	1,818	▲23	▲1.2	2,482	12	0.5	1,574	▲21	▲1.3
群馬県	20,753	▲30	▲0.1	10,303	62	0.6	2,675	▲66	▲2.4	2,561	0	0.0	5,214	▲26	▲0.5
埼玉県	47,528	250	0.5	28,238	238	0.8	4,962	9	0.2	7,059	10	0.1	7,269	▲7	▲0.1
千葉県	47,030	134	0.3	26,705	150	0.6	5,178	▲59	▲1.1	7,013	13	0.2	8,134	30	0.4
東京都	93,445	405	0.4	75,156	681	0.9	9,366	▲276	▲2.9	182	3	1.7	8,741	▲3	▲0.0
神奈川県	28,095	▲80	▲0.3	15,004	▲52	▲0.3	2,773	▲38	▲1.4	3,949	33	0.8	6,369	▲23	▲0.4
新潟県	16,964	▲141	▲0.8	10,510	▲71	▲0.7	1,737	▲60	▲3.3	2,370	▲2	▲0.1	2,347	▲8	▲0.3
富山県	12,789	▲22	▲0.2	6,073	16	0.3	1,011	▲21	▲2.0	1,303	2	0.2	4,402	▲19	▲0.4
石川県	13,579	▲25	▲0.2	6,183	17	0.3	1,143	▲18	▲1.6	1,583	16	1.0	4,670	▲40	▲0.8
福井県	9,382	▲43	▲0.5	5,168	4	0.1	950	▲54	▲5.4	1,222	▲4	▲0.3	2,042	11	0.5
山梨県	10,312	16	0.2	5,476	28	0.5	847	▲8	▲0.9	1,223	▲8	▲0.6	2,766	4	0.1
長野県	27,113	▲53	▲0.2	15,121	47	0.3	2,175	▲13	▲0.6	2,508	2	0.1	7,309	▲89	▲1.2
岐阜県	22,366	▲14	▲0.1	11,690	57	0.5	2,081	▲69	▲3.2	2,763	▲14	▲0.5	5,832	12	0.2
静岡県	25,833	27	0.1	11,740	38	0.3	2,543	▲75	▲2.9	2,636	14	0.5	8,914	50	0.6
愛知県	53,194	616	1.2	28,549	407	1.4	3,231	▲52	▲1.6	5,816	21	0.4	15,598	240	1.6
三重県	20,537	28	0.1	10,874	44	0.4	1,958	▲43	▲2.1	2,537	2	0.1	5,168	25	0.5
滋賀県	15,437	83	0.5	7,918	139	1.8	1,980	▲15	▲0.8	1,656	10	0.6	3,883	▲51	▲1.3
京都府	13,238	▲24	▲0.2	7,114	▲1	▲0.0	1,109	▲16	▲1.4	1,595	10	0.6	3,420	▲17	▲0.5
大阪府	43,108	76	0.2	24,074	250	1.0	4,735	▲79	▲1.6	5,372	▲42	▲0.8	8,927	▲53	▲0.6
兵庫県	39,423	102	0.3	19,607	105	0.5	4,907	51	1.1	4,423	22	0.5	10,486	▲76	▲0.7
奈良県	14,847	▲60	▲0.4	8,413	6	0.1	1,934	▲74	▲3.7	1,769	▲20	▲1.1	2,731	28	1.0
和歌山県	13,413	▲47	▲0.3	6,366	▲4	▲0.1	1,124	▲22	▲1.9	1,511	17	1.1	4,412	▲38	▲0.9
鳥取県	7,010	▲84	▲1.2	4,065	▲7	▲0.2	486	▲14	▲2.8	760	1	0.1	1,699	▲64	▲3.6
島根県	9,899	10	0.1	4,938	14	0.3	921	▲19	▲2.0	1,193	1	0.1	2,847	14	0.5
岡山県	13,588	▲191	▲1.4	7,297	27	0.4	1,882	▲45	▲2.3	1,704	3	0.2	2,705	▲176	▲6.1
広島県	17,433	▲127	▲0.7	9,447	▲51	▲0.5	1,471	▲80	▲5.2	2,241	10	0.4	4,274	▲6	▲0.1
山口県	15,250	▲97	▲0.6	8,739	▲52	▲0.6	1,168	▲10	▲0.8	1,981	▲2	▲0.1	3,362	▲33	▲1.0
徳島県	9,447	▲16	▲0.2	5,370	4	0.1	1,211	▲28	▲2.3	1,071	8	0.8	1,795	0	0.0
香川県	11,572	57	0.5	5,570	55	1.0	1,350	▲13	▲1.0	1,178	7	0.6	3,474	8	0.2
愛媛県	14,863	▲60	▲0.4	8,331	▲5	▲0.1	1,314	▲31	▲2.3	1,836	1	0.1	3,382	▲25	▲0.7
高知県	11,490	▲35	▲0.3	6,097	20	0.3	997	▲11	▲1.1	1,189	▲3	▲0.3	3,207	▲41	▲1.3
福岡県	21,365	▲68	▲0.3	13,013	67	0.5	2,333	▲34	▲1.4	2,806	4	0.1	3,213	▲105	▲3.2
佐賀県	8,902	8	0.1	5,329	36	0.7	838	▲18	▲2.1	1,082	▲10	▲0.9	1,653	0	0.0
長崎県	14,407	▲15	▲0.1	8,324	50	0.6	1,171	▲48	▲3.9	1,685	▲4	▲0.2	3,227	▲13	▲0.4
熊本県	14,034	▲20	▲0.1	7,867	16	0.2	1,223	▲54	▲4.2	1,569	14	0.9	3,375	4	0.1
大分県	12,219	1	0.0	7,100	▲2	▲0.0	1,252	▲14	▲1.1	1,623	16	1.0	2,244	1	0.0
宮崎県	10,749	63	0.6	6,717	65	1.0	831	▲14	▲1.7	1,196	1	0.1	2,005	11	0.6
鹿児島県	19,053	▲42	▲0.2	11,094	63	0.6	2,084	▲109	▲5.0	2,348	13	0.6	3,527	▲9	▲0.3
沖縄県	13,453	63	0.5	8,262	97	1.2	2,068	▲24	▲1.1	1,632	2	0.1	1,491	▲12	▲0.8
合計	1,010,723	▲55	▲0.0	571,699	2,508	0.4	100,769	▲1,993	▲1.9	115,044	211	0.2	223,211	▲781	▲0.3

注) 一部事務組合等の職員(総数102,157人(対前年▲243人))が含まれる。